

1

手動セットアップ

らくらくアシスタントの設定がうまくできないときは、手動でUSBドライバのインストールやインターネットに接続するための各設定をおこないます。

USBドライバの手動インストール

インターネット接続の手動設定

Windows® 2000はMicrosoft® Windows® 2000 operating systemの略です。
Windows® 98はMicrosoft® Windows® 98 operating systemの略です。
Windows® 95はMicrosoft® Windows® 95 operating systemの略です。
WindowsNT® 4.0はMicrosoft® WindowsNT® operating system version 4.0の略です。

1-1 . USB ドライバの手動インストール (Windows98/Windows95)



IWX70またはRS20のUSBポートにパソコンを接続する場合は、パソコンにIWX70とRS20用のUSBドライバをインストールすることが必要です。USBドライバは『らくらくアシスタント』(「取扱説明書」)で自動的にインストールできます。ここでは、USBドライバがうまくインストールできなかった場合に、手動でインストールする手順を説明します。IWX70とRS20用のUSBドライバは同じものなので、IWX70、RS20のどちらかをパソコンに接続してインストールを実行します。

USBポートを使用するときの注意 (Windows95)

USBポートに接続する前に、以下の点を確認してください。

Windows95のバージョンが「OEM Service Release 2.1 (OSR2.1)」以降の場合のみ使用できます。

次の方法でバージョンを確認してください。

- ①  [設定] [コントロールパネル] を選択します。
[コントロールパネル]ウィンドウが表示されます。
- ② [システム] アイコンをダブルクリックします。
[システムのプロパティ] 画面が表示されます。
- ③ [全般] タブ内に「Microsoft Windows 95 4.00.950B」と表示されていることを確認します。
- ④  ボタンをクリックします。
[システムのプロパティ] が終了し、[コントロールパネル]ウィンドウにもどります。

OHCIコントローラ採用のパソコンでは、USBポートにUSBケーブルを差した状態ではWindows95が終了できないことがあります。

USBケーブルを抜き差しすると、機能が停止してパソコンが動作しなくなることがあります。

USB ソフトウェアの確認 (Windows 95)

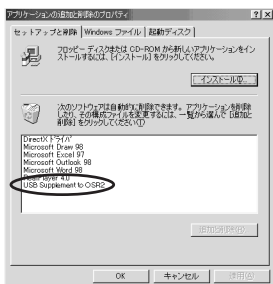
Windows95 で USB を使用する場合に必要の「USBソフトウェア」がパソコンにインストールされているか確認し、IWX70またはRS20で使用できるバージョンかどうかを確認します。

Windows98 の場合はこの操作は不要です。「USBドライバのインストール」へ進みます。

1 **スタート** [設定] [コントロールパネル] を選択します。

2 [アプリケーションの追加と削除] アイコンをダブルクリックします。
[アプリケーションの追加と削除のプロパティ] 画面が表示されます。

3 「USB Supplement to OSR2」があるか確認します。



「USB Supplement to OSR2」がない場合は、USBソフトウェアがインストールされていません。お使いのパソコンの製造メーカーにお問い合わせください。

見つかった場合は「USB Supplement to OSR2」のバージョンを確認します。次の手順に進みます。

4 **スタート** [検索] [ファイルやフォルダ] を選択します。

[検索: 条件 = すべてのファイル] 画面が表示されます。

5 「名前」に「USB.D.SYS」と入力します。

6 「探す場所」で Windows95 がインストールされているハードディスクを選択し、「サブフォルダも探す」を にします。



7 **検索開始** ボタンをクリックします。
検索結果が表示されます。

8 見つかった「USB.D.SYS」ファイルの上で右クリックし、[プロパティ] を選択します。
[Usbd.sysのプロパティ] 画面が表示されます。

9 [バージョン情報] タブをクリックし、「ファイルバージョン」が「4.03.1213」以降かを確認します。



「ファイルバージョン」が「4.03.1212」の場合はIWX70、RS20では使用できません。

10 **キャンセル** ボタンをクリックします。

11 [検索] 画面を閉じます。



NEC製PC98-NXシリーズの場合、③の画面で「USB Supplement to OSR2」が表示されませんが、USBソフトウェアはインストールされています。



「USB Supplement to OSR2」がインストールされていても、パソコンのBIOS設定を変更しないとUSBポートが使用できない場合があります。BIOS設定の方法はパソコンによって異なりますので、パソコンの取扱説明書などを参照してください。

③の画面で「USB Supplement to OSR2」をダブルクリックすると、USBソフトウェアが削除されるので注意してください。

『Aterm Station』で紹介している動作確認済みパソコンリストの中の、USBソフトウェアのバージョンを参考にしてください。

USB ドライバのインストール

Windows のユニバーサルシリアルバスコントローラにIWX70とRS20用のUSB ドライバを組み込みます。IWX70とRS20は電源を切った状態にしておいてください。

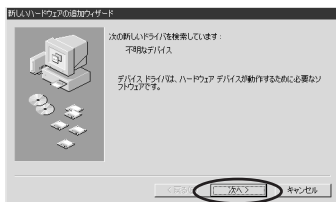
以下の手順はWindows98 搭載のパソコンにIWX70を接続した場合を例に説明します。お使いの環境によっては手順や画面が異なることがあります。RS20を接続した場合の手順も同様です。

1 パソコンを起動します。
ほかのアプリケーションソフトを使用しているときは、そのアプリケーションを終了します。

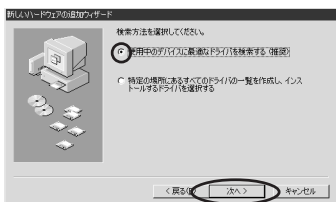
2 USBケーブルでパソコンとIWX70またはRS20を接続します。
(「取扱説明書」の「2-6. パソコンを接続する」)

3 IWX70の電源を入れます。
RS20の場合は電源プラグをコンセントに差し込みます。
[新しいハードウェアの追加ウィザード]が起動します。

4 次へ ボタンをクリックします。



5 「使用中のデバイスに最適な…」を選択し、**次へ** ボタンをクリックします。



6 添付CD-ROM『AtermiWX70シリーズユーティリティ集』をパソコンにセットします。

『AtermiWX70シリーズユーティリティ集』のメニュー画面が表示された場合は、[CD-ROMの終了]ボタンをクリックします。

7 「検索場所の指定」を にし、**参照** ボタンをクリックします。

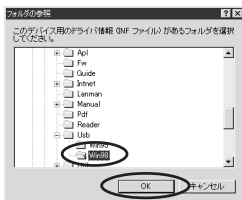


[フォルダの参照]画面が表示されます。

8 CD-ROMのアイコンをダブルクリックし、「Usb」フォルダをダブルクリックします。

9 「Win 98」フォルダをクリックして **OK** ボタンをクリックします。

Windows 95の場合は「Win 95」フォルダを指定します。



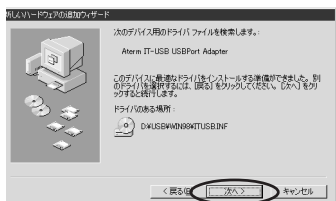
[新しいハードウェアの追加ウィザード]の「検索場所の指定」画面にもどります。

10 **次へ** ボタンをクリックします。



「Aterm IT-USB USBPort Adapter」がCD-ROMから検索されます。

11 **次へ** ボタンをクリックします。



ファイルがコピーされます。

12 **完了** ボタンをクリックします。



USBドライバが組み込まれます。

正しくインストールされたか確認します。次の手順に進みます。

13 **スタート** [設定] [コントロールパネル]を選択します。

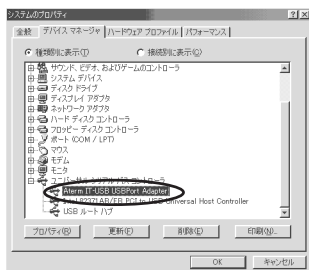
14 [システム]アイコンをダブルクリックします。

[システムのプロパティ]画面が表示されます。

15 [デバイスマネージャ]タブをクリックします。

16

一覧の中の「ユニバーサルシリアルバスコントローラ」の + をクリックし、インストールした「Aterm IT-USB USBPort Adapter」が表示されていることを確認します。



「Aterm IT-USB USBPort Adapter」の前に **!** が表示されているときは、インストールが失敗した可能性があります。その場合は USB ドライバをいったんアンインストールし、再度インストールを実行します。続けて COM ポートへの組み込みをおこないます。次の手順に進みます。

17

[コントロールパネル]の[ハードウェアの追加]アイコンをダブルクリックします。

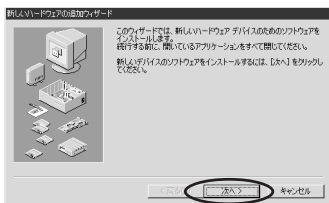


ハードウェアの追加

[新しいハードウェアの追加ウィザード]画面が表示されます。

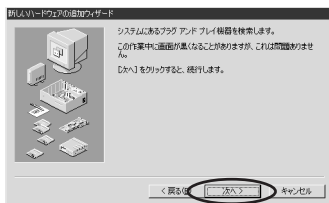
18

次へ ボタンをクリックします。



19

次へ ボタンをクリックします。



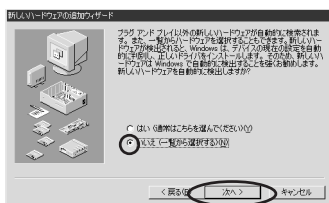
20

「デバイスは一覧にない」を選択し、次へ ボタンをクリックします。



21

「いいえ（一覧から選択する）」を選択し、次へ ボタンをクリックします。



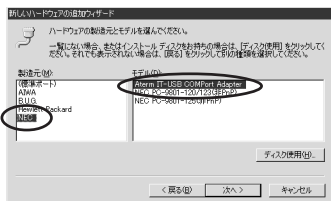
22

「ハードウェアの種類」の中から「ポート (COM/LPT)」を選択し、次へ ボタンをクリックします。



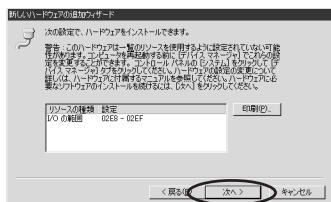
ハードウェアの「製造元」と「モデル」の画面が表示されます。

- 23 「製造元」の中から「NEC」を選択し、「モデル」の中から「Aterm IT-USB COMPort Adapter」を選択します。



- 24 次へ ボタンをクリックします。

- 25 リソースの割り当てを確認し、次へ ボタンをクリックします。



Windows 98 の場合は 26 に進みます。

Windows 95 の場合に次の画面が表示されたときは、「Aterm IT-USB COMPort Adapter」が Windows 95 の「serialui.dll」を使用するためです。以下の操作をしてください。

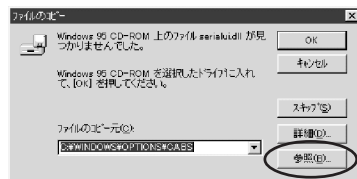


- 27 OK ボタンをクリックします。

Windows 95 の CD-ROM からコピーする場合は、CD-ROM をセットしてから OK ボタンをクリックします。

[ファイルのコピー] 画面が表示されます。

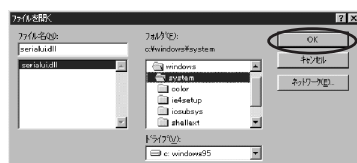
- 28 参照 ボタンをクリックします。



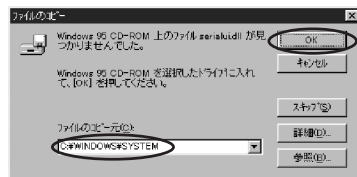
- 29 Windows 95 がインストールされているフォルダ内の「system」フォルダをダブルクリックします。

Windows 95 の CD-ROM を指定する場合は「Win95」フォルダをダブルクリックします。

- 30 OK ボタンをクリックします。



- 31 「ファイルのコピー元」に 30 で選択したフォルダが表示されていることを確認し、OK ボタンをクリックします。



[新しいハードウェアの追加ウィザード] 画面にもどります。

- 26 「新しいハードウェアに必要なソフトウェアのインストールが完了しました」と表示されていることを確認し、完了 ボタンをクリックします。



[システム設定の変更] 画面が表示されます。

27

はい ボタンをクリックします。



Windowsが終了し、パソコンの電源が切れます。

28

パソコンの電源を ON にします。

インストールの確認

USBドライバがCOMポートに組み込まれたか確認します。

1

[スタート] [設定] [コントロールパネル] を選択します。

2

[システム] アイコンをダブルクリックします。

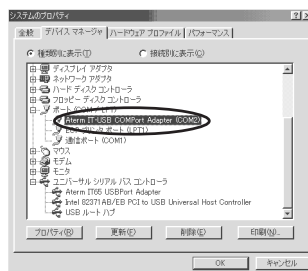
[システムのプロパティ] 画面が表示されます。

3

[デバイスマネージャ] タブをクリックします。

4

一覧の中の「ポート (COM/LPT)」の + をクリックし、インストールした「Aterm IT-USB USBPort Adapter」が表示されていることを確認します。



この画面は「Aterm IT-USB USBPort Adapter」が「COM2」ポートに組み込まれた場合の例です。お使いのパソコンによってはCOM1やCOM3などに組み込まれることがあります。

「Aterm IT-USB USBPort Adapter」の前に ⚠ が表示されているときは、インストールが失敗した可能性があります。その場合はUSBドライバをいったんアンインストールし、再度インストールを実行します。

USBポートに接続したIWX70またはRS20を使用するモデムとして定義します。

1 **【スタート】** [設定] [コントロールパネル] を選択します。

2 [モデム] アイコンをダブルクリックします。

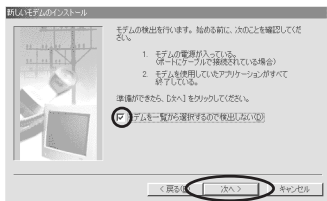
IWX70、RS20以外のモデムがすでに組み込まれている場合は次の画面が表示されます。



この画面が表示された場合は **【追加】** ボタンをクリックします。次に表示された画面で「その他」を選択して、**【次へ】** ボタンをクリックします。

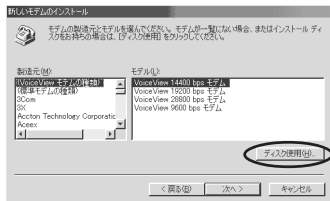
[新しいモデムのインストール]画面が表示されます。

3 「モデムを一覧から選択するので検出しない」をクリックして にし、**【次へ】** ボタンをクリックします。



モデムのモデルを選択する画面になります。

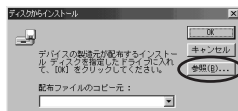
4 **【ディスク使用】** ボタンをクリックします。



[ディスクからインストール]画面が表示されます。

5 添付CD-ROM『AtermIWX70シリーズユーティリティ集』をセットします。メニュー画面が表示された場合は[CD-ROMの終了]をクリックします。

6 **【参照】** ボタンをクリックします。

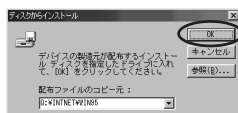


[開く]画面が表示されます。

7 「ドライブ」でCD-ROMドライブを選択して[intnet]フォルダをダブルクリックし、[Win95]フォルダを選択して**【OK】** ボタンをクリックします。

[ディスクからインストール]画面にもどります。

8 **【OK】** ボタンをクリックします。



モデム情報ファイルの一覧が表示されます。

9

使用するモデムを選択します。
IWX70 と RS20 ではモデムの種類が
異なります。



IWX70 の場合

接続するアクセスポイントによって
次のように選択します。

モデム情報	モデムの種類
ISDN回線 64kbps (同期)	AtermIW SYNC115
ISDN回線非同期	AtermIW ASYNC115
ISDN回線 128kbps (同期)	AtermIW MP128
PIAFS32K	AtermIW PIAFS32 (Direct)
	AtermIW PIAFS32 (Compress)
PIAFS64K	AtermIW PIAFS64

RS20 の場合

IWX70との無線区間の通信方式によ
って次のように選択します。
IWXX70のモデムの種類をISDN
用にした場合、無線区間の通信方式
は「デュアルリンクワイヤレス通
信」となります。

無線区間の通信方式	モデムの種類
PIAFS32K (V.42bis圧縮あり)	AtermRS Air32K (Compress)
PIAFS32K (V.42bis圧縮なし)	AtermRS Air32K (Direct)
デュアルリンクワ イヤレス通信 (64kbps)	AtermRS Air64K (DualLink)

10

次へ ボタンをクリックします。

11

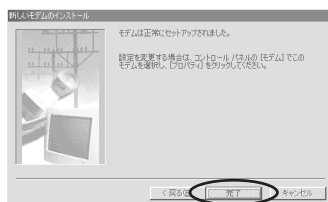
「モデムを接続するポート」でUSBドラ
イバを組み込んだCOMポート(「イン
ストールの確認」の ④)を選択し、
次へ ボタンをクリックします。



「モデムは正常にセットアップされま
した。」と表示されます。

12

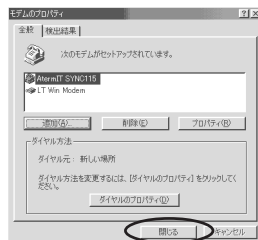
完了 ボタンをクリックします。



[モデムのプロパティ]画面にもどります。

13

閉じる ボタンをクリックします。



IWX70、RS20の組み込みが終了します。

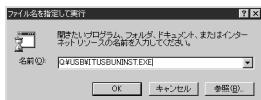
USB ドライバのアンインストール

IWX70 と RS20 用の USB ドライバを削除します。添付CD-ROM『Aterm IWX70 シリーズユーティリティ集』に収録されているアンインストーラを使用します。

- ① 使用中のアプリケーションソフトを終了します。
- ② 添付CD-ROM『Aterm IWX70 シリーズユーティリティ集』をパソコンにセットします。
- ③ メニュー画面が表示されるので [CD-ROM の終了] をクリックします。
- ④ **スタート** [ファイル名を指定して実行] を選択します。
- ⑤ 「名前」に半角文字で次のように入力します。

Q: ¥USB¥ITUSBUNINST.EXE

(Q は CD-ROM ドライブ名)



- ⑥ **OK** ボタンをクリックします。
アンインストーラが起動します。
- ⑦ 画面の指示にしたがってアンインストールを実行します。

1-2 . USB ドライバの手動インストール (Windows 2000)

IWX70またはRS20のUSBポートにパソコンを接続する場合は、パソコンにIWX70とRS20用のUSBドライバをインストールすることが必要です。USBドライバは『らくらくアシスタント』(「取扱説明書」)で自動的にインストールができます。ここでは、USBドライバがうまくインストールできなかった場合に、手動でインストールする手順を説明します。IWX70とRS20用のUSBドライバは同じものなので、IWX70、RS20のどちらかをパソコンに接続してインストールを実行します。

Windows 2000

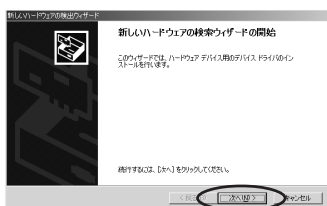
WindowsのユニバーサルシリアルバスコントローラにIWX70とRS20用のUSBドライバを組み込みます。

1 パソコンを起動します。
ほかのアプリケーションソフトを使用しているときは、そのアプリケーションを終了します。

2 USBケーブルでパソコンとIWX70またはRS20を接続します。
(「取扱説明書」の「2-6 . パソコンを接続する」)

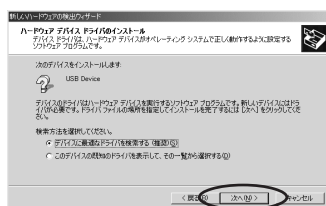
3 IWX70の電源を入れます。
RS20の場合は電源プラグをコンセントに差し込みます。
[新しいハードウェアの検出ウィザード]が起動します。

4 「次へ」ボタンをクリックします。



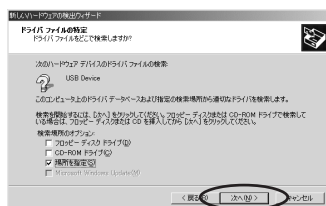
検索方法を選択する画面が表示されます。

5 「デバイスに最適なドライバを検索する」を選択し、「次へ」ボタンをクリックします。



検索場所を指定する画面が表示されます。

6 「検索場所のオプション」で「場所を指定」を☑にし、「次へ」ボタンをクリックします。

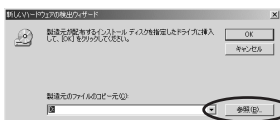


7 添付CD-ROM『AtermIWX70シリーズユーティリティ集』をパソコンにセットします。

製造元のファイルのコピー元を指定する画面が表示されます。

8

参照 ボタンをクリックします。



[ファイルの場所]画面が表示されます。

9

[マイコンピュータ]アイコンをクリックし、CD-ROMのアイコンをダブルクリックします。



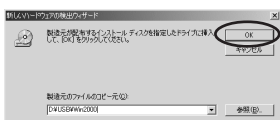
10

「Usb」フォルダをダブルクリックし、「Win2000」フォルダをダブルクリックして「開く」ボタンをクリックします。

製造元のファイルのコピー元を指定する画面にもどります。

11

OK ボタンをクリックします。



「Aterm IT-USB USBPort Adapter」がCD-ROMから検索されます。

12

次へ ボタンをクリックします。



ファイルがコピーされます。

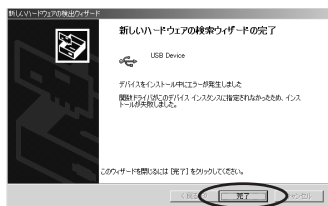
13

次の画面が表示されたときは「はい」ボタンをクリックします。



14

完了 ボタンをクリックします。



USBドライバが組み込まれます。

15

[スタート] [設定] [コントロールパネル]を選択します。

[コントロールパネル]ウィンドウが表示されます。

16

[システム]アイコンをダブルクリックします。



システム

[システムのプロパティ]画面が表示されます。

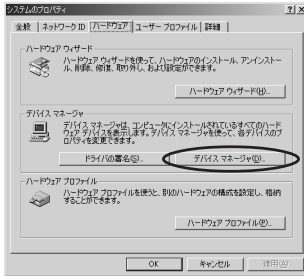
17

[ハードウェア]タブをクリックします。



18

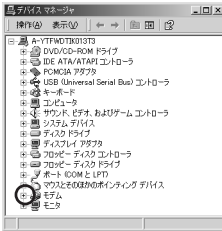
デバイスマネージャ ボタンをクリックします。



[デバイスマネージャ]ウィンドウが表示されます。

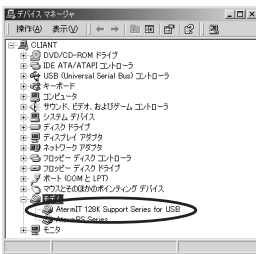
19

[モデム]アイコンの前の **+** をクリックします。



20

「AtermIT 128K Support Series for USB」と表示されることを確認します。



21

[デバイスマネージャ]ウィンドウを閉じます。

[システムのプロパティ]画面にもどります。

22

OK ボタンをクリックします。

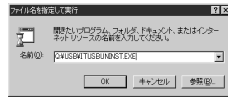
[コントロールパネル]ウィンドウにもどります。

USB ドライバのアンインストール

USBドライバを削除します。添付CD-ROM『AtermIWX70 シリーズユーティリティ集』に収録されているアンインストーラを使用します。

- ① 使用中のアプリケーションソフトを終了します。
- ② 添付CD-ROM『AtermIWX70 シリーズユーティリティ集』をパソコンにセットします。
- ③ メニュー画面が表示されるので **終了** ボタンをクリックします。
- ④ **スタート** [ファイル名を指定して実行]を選択します。
- ⑤ 「名前」に半角文字で次のように入力します。

Q:¥USB¥ITUSBUNINST.EXE
(QはCD-ROMドライブ名)



- ⑥ **OK** ボタンをクリックします。
アンインストーラが起動します。
- ⑦ 画面の指示にしたがってアンインストーラを実行します。

1-3 . USB ドライバの手動インストール (Macintosh)

IWX70またはRS20のUSBポートにMacintoshを接続する場合は、MacintoshにIWX70とRS20用のUSBドライバをインストールすることが必要です。USBドライバは『Installer for USB』(「取扱説明書」)で自動的にインストールができます。ここでは、USBドライバがうまくインストールできなかった場合に、手動でインストールする手順を説明します。IWX70とRS20用のUSBドライバは同じものなので、IWX70、RS20のどちらかをMacintoshに接続してインストールを実行します。

Macintoshのバージョンを確認する

IWX70とRS20のUSBポートはiMacおよびPower Macintosh G3以降のマシンの次のOSで使用できます。[]メニュー [このコンピュータについて] で確認します。

Mac OS 8.6 Mac OS ROM J1.2.1
Mac OS 9

USBドライバのインストール

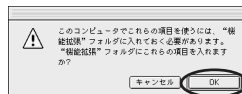
IWX70とRS20用のUSBドライバを手動でインストールする手順を説明します。

- ① Macintoshを起動します。
ほかのアプリケーションソフトを使用しているときは、そのアプリケーションを終了します。
- ② 添付CD-ROM『AtermIWX70シリーズユーティリティ集』をCD-ROMドライブにセットします。
- ③ [USBドライバ]フォルダをダブルクリックします。

- ④ [USBドライバ]フォルダ内の2つのファイルをハードディスクの[システムフォルダ]内の[機能拡張]フォルダにドラッグ&ドロップしてコピーします。



- ⑤ OK ボタンをクリックします。



- ⑥ 機能拡張を有効にするため、Macintoshを再起動します。



MacOS 8.6がプリインストールされているMacintoshでは「SerialShimLib」をコピーしようとする、「これは使用中です・・・」と表示され、コピーできないことがあります。その場合は「SerialShimLib」のコピーは不要です。

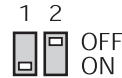


「USB Aterm」のアイコンが文書になっているときは、USBポートが使用できません。MacOSのバージョンを8.6以上にバージョンアップしてください。
他のAterm用のUSBドライバと一緒に使用することはできません。[機能拡張]フォルダに「USB Aterm」以外の「USB Aterm」の名前が付くファイルがある場合は削除してください。

RS20 を認識させる

RS20をMacintoshに認識させます。RS20背面のディップスイッチを操作します。MacintoshにIWX70を接続した場合はこの手順は不要です。

- 1 RS20背面のディップスイッチの「1」をONにします。



- 2 RS20の電源プラグをいったんコンセントから抜いて、再度差し込みます。

- 3 USBケーブルでMacintoshのUSBポートとRS20のUSBポートを接続します。

(「取扱説明書」の「2-6.パソコンを接続する」)

RS20の液晶ディスプレイに「USB by Aterm」と表示されます。



ディップスイッチ「1」がOFFになっていると、RS20のUSBポートとMacintoshを接続して使用することはできません。

ディップスイッチが上記のように設定されていなくても、RS20の液晶ディスプレイに「USB by Aterm」と表示されることがありますが、インターネットに接続することはできません。



RS20の液晶ディスプレイに「USB by Aterm」と表示されない場合は、MacintoshとRS20が正しく接続されていません。USBケーブルを抜いて差し込み直してください。それでも認識されない場合は、USBドライバが機能拡張フォルダにコピーされているか確認してください。

ご使用の環境によってはUSBケーブルを差してもMacintoshがRS20を認識しない場合があります。その場合はいったんUSBケーブルを抜いて再度差し込み直してください。

1-4 . インターネット接続の手動設定 (Windows98/Windows95)

インターネットに接続するための設定は『らくらくアシスタント』の[インターネット接続の設定] (「取扱説明書」)で設定ができます。ここでは『らくらくアシスタント』で設定がうまくできなかった場合に、手動で設定する手順を説明します。

以降の手順はWindows98搭載のパソコンにIWX70を接続した場合の設定を例に説明します。お使いの環境によっては手順や画面が異なることがあります。RS20を接続した場合の手順も同様です。

モデム情報のインストール

IWX70またはRS20をインターネットの接続に使用するモデムとして設定します。

1 パソコンを起動します。
ほかのアプリケーションソフトを使用しているときは、そのアプリケーションを終了します。

2 添付CD-ROM『AtermIWX70シリーズユーティリティ集』をパソコンにセットします。

「AtermIWX70シリーズユーティリティ集」のメニュー画面が表示されます。

3 「AtermIWX70シリーズユーティリティ集」のメニュー画面の[CD-ROMの終了]をクリックします。

[AtermIWX70シリーズユーティリティ集]のメニュー画面が終了します。

CD-ROMをセットしてもメニュー画面が表示されなかったときは、この操作は必要ありません。

4 **スタート** [設定] [コントロールパネル]を選択します。

[コントロールパネル]ウィンドウが表示されます。

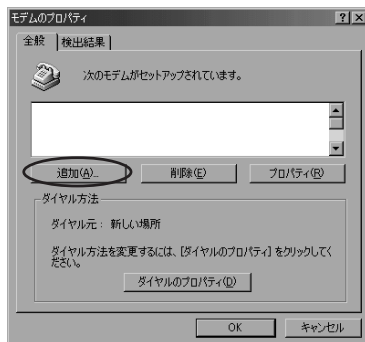
5 [モデム]アイコンをダブルクリックします。



モデム

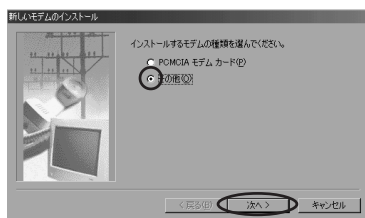
[モデムのプロパティ]画面が表示されます。

6 **追加** ボタンをクリックします。

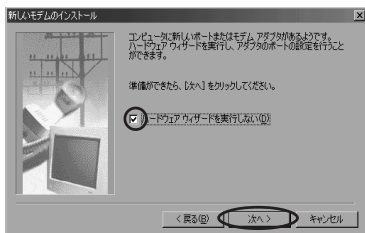


[新しいモデムのインストール]画面が表示されます。

7 次の画面が表示されたときは「その他」を選択し、**次へ** ボタンをクリックします。

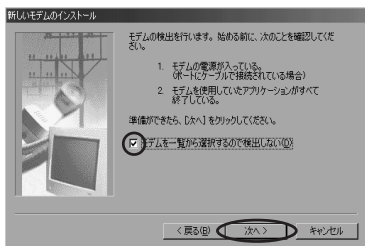


8 「ハードウェアウィザードを実行しない」を にし、「次へ」ボタンをクリックします。

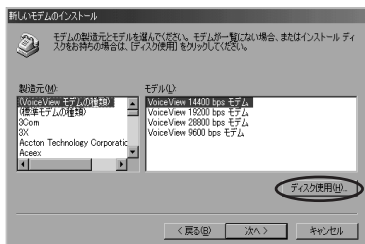


この画面が表示されない場合は、**9**に進みます。

9 「モデムを一覧から選択するので検出しない」を にし、「次へ」ボタンをクリックします。

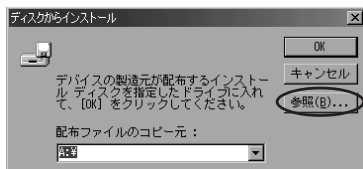


10 「ディスク使用」ボタンをクリックします。



[ディスクからインストール]画面が表示されます。

11 参照 ボタンをクリックします。



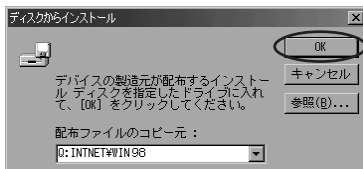
12 「ドライブ」の をクリックして CD-ROM ドライブ () を選択し、「フォルダ」の「inetnet」をダブルクリックします。



13 「Win98」をダブルクリックし、ファイル名の「mdmnet.inf」をクリックして ボタンをクリックします。

[ディスクからインストール]画面にもどり、指定したCD-ROMドライブとフォルダ名が表示されます。

14 ボタンをクリックします。



[新しいモデムのインストール]画面が表示されます。

15

使用するモデムを選択します。
IWX70とRS20ではモデムの種類が
異なります。



IWX70の場合

接続するアクセスポイントによって
次のように選択します。

アクセスポイント	モデムの種類
ISDN回線 64kbps (同期)	AtermIW SYNC115
ISDN回線非同期	AtermIW ASYNC115
ISDN回線 128kbps (同期)	AtermIW MP128
PIAFS 32K	AtermIW PIAFS32 (Direct)
	AtermIW PIAFS32 (Compress)
PIAFS 64K	AtermIW PIAFS64

アクセスポイントの接続条件は、ブ
ロパイダにお問い合わせください。

RS20の場合

IWX70との無線区間の通信方式
によって次のように選択します。
IWX70のモデムの種類をISDN用
にした場合、無線区間の通信方式は
「デュアルリンクワイヤレス通信」
となります。

無線区間の通信方式	モデムの種類
PIAFS32K (V.42bis圧縮あり)	AtermRS Air32K (Compress)
PIAFS32K (V.42bis圧縮なし)	AtermRS Air32K (Direct)
デュアルリンクワ イヤレス通信 (64kbps)	AtermRS Air64K (DualLink)

16

次へ ボタンをクリックします。

17

IWX70またはRS20が接続されてい
るポートを選択し、次へ ボタンをク
リックします。



18

完了 ボタンをクリックします。

モデムのインストールが終了し、[モデム
のプロパティ]画面にもどります。

19

15で選択したモデムが反転表示されて
いることを確認し、プロパティ ボタン
をクリックします。



すでに設定してあるモデムと同
じものを再度設定すると[情報]
タブ内に「#2」が付いたモデム
情報が表示されます。

モデム情報を削除するときは、
不要なモデム名をクリックして
から削除 ボタンをクリックし
ます。

20 「最高速度」の▼をクリックし、最高速度を選択します。



最高速度とはパソコンとIWX70またはRS20間の通信速度をさします。インターネットに接続するときの通信速度のことではありません。選択したモデムの種類によって最高速度を次のように選択します。

IWX70の場合

モデムの種類	最高速度
AtermIW SYNC115	115200
AtermIW ASYNC115	57600 115200
AtermIW MP128	230400
AtermIW PIAFS32 (Direct)	57600
AtermIW PIAFS32 (Compress)	115200
AtermIW PIAFS64	115200

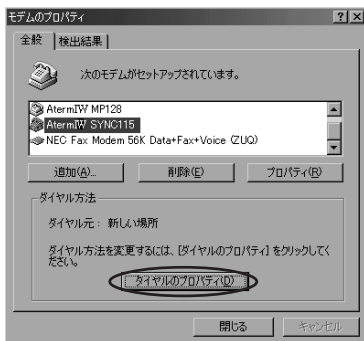
RS20の場合

モデムの種類	最高速度
AtermRS Air32K (Compress)	57600
AtermRS Air32K (Direct)	115200
AtermRS Air64K (DualLink)	115200

21 OK ボタンをクリックします。
[モデムのプロパティ]画面にもどります。

複数のモデム情報をインストールする場合は⑥～⑦をくり返します。

22 **ダイヤルのプロパティ** ボタンをクリックします。



23 所在地情報を設定します。



登録名： 特に入力の必要はありません。
 国名/地域： 「日本」を選択します。
 市外局番： 先頭の「0」をのぞいて入力します。
 所在地との通話： 変更しません。

24 OK ボタンをクリックします。
[モデムのプロパティ]画面にもどります。

25 閉じる ボタンをクリックします。
[モデムのプロパティ]が終了し、モデム情報のインストールが完了します。

ダイヤルアップの設定

インターネットにダイヤルアップ接続するための設定をします。

設定の前に、ダイヤルアップネットワークが組み込まれているか確認します。

- 1 デスクトップの[マイコンピュータ]アイコンをダブルクリックします。

[マイコンピュータ]画面が表示されます。

- 2 [ダイヤルアップネットワーク]アイコンがあるか確認してください。

[ダイヤルアップネットワーク]アイコンがすでにある場合は、「ネットワークプロトコルの設定」に進みます。

[ダイヤルアップネットワーク]アイコンがない場合は、以下の手順で組み込みます。

ダイヤルアップネットワークの組み込み

ダイヤルアップネットワークをパソコンに組み込みます。

- 1 Windows 98 に添付されている CD-ROM をパソコンにセットします。

Windows 98 がブリンストールされているパソコンの多くは、ハードディスクに CD-ROM の内容がコピーされています。この場合は、CD-ROM は必要ありません。

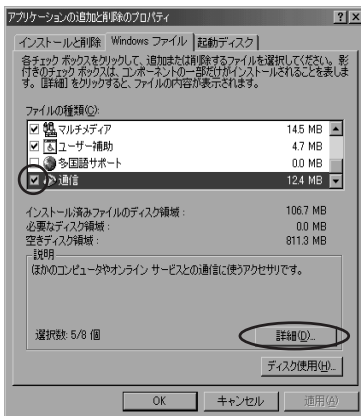
- 2 **スタート** [設定] [コントロールパネル]を選択します。

- 3 [アプリケーションの追加と削除]アイコンをダブルクリックします。

[アプリケーションの追加と削除のプロパティ]画面が表示されます。

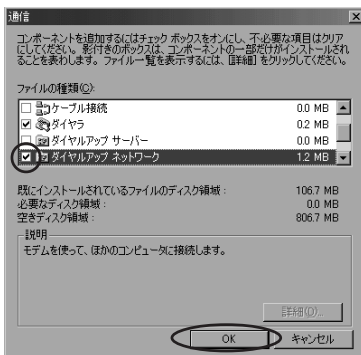
- 4 [Windows ファイル] タブをクリックします。

- 5 「ファイルの種類」の「通信」を にし、**詳細** ボタンをクリックします。



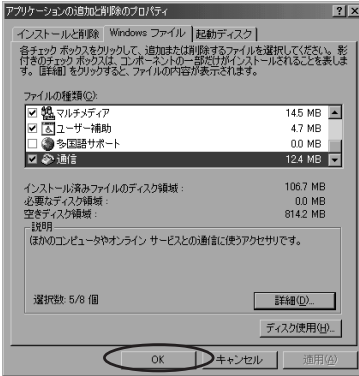
[通信]画面が表示されます。

- 6 「ダイヤルアップネットワーク」を にし、**OK** ボタンをクリックします。



インストールが始まり、[アプリケーションの追加と削除のプロパティ]画面にもどります。

⑦ OK ボタンをクリックします。



「ダイヤルアップネットワーク」のインストールが完了します。

⑧ スタート [Windowsの終了] を選択して [コンピュータを再起動する] を選択し、[はい] をクリックします。

パソコンが再起動します。

再起動後、[マイコンピュータ] ウィンドウ内に[ダイヤルアップネットワーク]アイコンが表示されていることを確認してください。



ダイヤルアップ
ネットワーク

ネットワークプロトコルの設定

インターネットに接続するときの通信規約である「ネットワークプロトコル」を選択します。

① スタート [設定] [コントロールパネル] を選択します。

② [ネットワーク]アイコンをダブルクリックします。



ネットワーク

③ 「現在のネットワークコンポーネント」にプロバイダへの接続に必要な次の3つがあるか確認します。

Microsoftネットワーククライアント
ダイヤルアップアダプタ
TCP/IP



これ以外のものは不要ですので、選択し [削除] ボタンをクリックして削除します。

不足しているものがあれば [追加] ボタンをクリックします。

[ネットワーク構成ファイル追加]画面が表示されます。

- 4 不足しているものによってそれぞれ次の設定をします。

Microsoftネットワーククライアントを追加する場合:「クライアント」

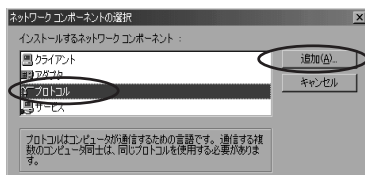
ダイヤルアップアダプタを追加する場合:「アダプタ」

TCP/IPを追加する場合:「プロトコル」

以降はTCP/IPを例に説明します。

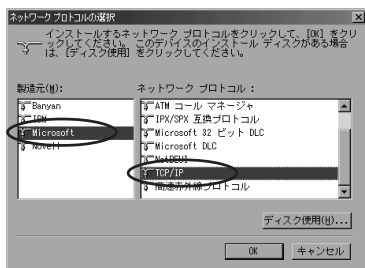
- 5 [ネットワークの設定]タブをクリックします。

- 6 「プロトコル」を選択し、**追加** ボタンをクリックします。



[ネットワークプロトコルの選択]画面が表示されます。

- 7 「製造元」で「Microsoft」を選択し、「ネットワークプロトコル」で「TCP/IP」を選択します。



- 8 **OK** ボタンをクリックします。

3の[ネットワークの設定]画面にもどります。

- 9 「TCP/IP」を選択し、**プロパティ** ボタンをクリックします。

[TCP/IPのプロパティ]画面が表示されます。

- 10 [詳細設定]タブをクリックします。

- 11 「既定のプロトコルとして設定する」がグレー表示になっているか、またははっきりと表示されているときはになっていることを確認します。



- 12 **OK** ボタンをクリックします。

[ネットワークの設定]画面にもどります。

- 13 **OK** ボタンをクリックします。

「再起動しますか」と表示されます。

- 14 **はい** ボタンをクリックします。

パソコンが再起動し、設定したTCP/IPが有効になります。

プロバイダの設定

インターネットの接続に利用するプロバイダの設定をします。

- 1 [デスクトップの「マイコンピュータ」]アイコンをダブルクリックします。



マイコンピュータ

[マイコンピュータ]アイコンは
図と異なることがあります。

[マイコンピュータ]ウィンドウが表示
されます。

- 2 [ダイヤルアップネットワーク]アイコンをダブルクリックします。



ダイヤルアップ
ネットワーク

ダイヤルアップネットワークを
はじめて起動したときは、「ダイ
ヤルアップネットワークによ
うこそ」の画面が表示されま
す。この場合は、**次へ** ボタンをクリ
ックします。次回以降の起動時
には表示されません。

[ダイヤルアップネットワーク]ウィ
ンドウが表示されます。

- 3 [新しい接続]アイコンをダブルク
リックします。



新しい接続の
作成

[新しい接続]画面が表示されま
す。

- 4 「接続名」に接続するプロバイダの名
前を任意に入力します。

ここで入力した名前で作成され
ます。

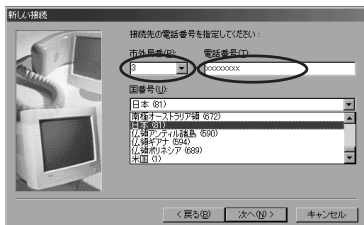


ここでは例として「BIGLOBE
64」と入力します。

- 5 「モデムの選択」でインストールした
モデム情報が表示されていること
を確認し、**次へ** ボタンをクリッ
クします。

モデム名が表示されていない場
合は、**▼**をクリックし、その中
から選択します。

- 6 「電話番号」に接続するアクセスポ
イントの電話番号を入力します。
市外局番の先頭の「0」は除い
て入力します。



- 7 「国番号」の中から「日本(81)」を
選択し、**次へ** ボタンをクリッ
クします。

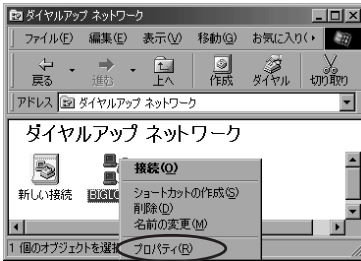
- 8 **完了** ボタンをクリッ
クします。

[ダイヤルアップネットワーク]画面
にもどり、**4** で指定した「接続名」
の付いたアイコンが追加されま
す。

- 9 [ダイヤルアップネットワーク]画面
で接続用アイコン(例:BIGLOBE64)
にマウスポインタを合わせ、右
クリックします。

10

メニューから [プロパティ] を選択します。



接続先の情報画面が表示されます。

11

接続するアクセスポイントや通信方式によって「電話番号」の末尾に次の文字を入力します。



PIAFS32Kアクセスポイントに接続するとき (IWX70・RS20)

電話番号の末尾に「PF」と入力

PIAFS64Kアクセスポイントに接続するとき (IWX70・RS20)

電話番号の末尾に「PD」と入力

ITMUX機能を使用して同期64Kアクセスポイントに接続するとき (IWX70)

電話番号の末尾に「PA」と入力

ITMUX機能を使用して128kbpsマルチリンクPPPアクセスポイントに接続するとき (IWX70)

電話番号の末尾に「PB」と入力

デュアルリンクワイヤレス通信でRS20から発信するとき (RS20) 電話番号の末尾に「DL」と入力

この指定をした場合は「市外局番とダイヤルのプロパティを使う」をクリックして にします。

12

設定 ボタンをクリックします。

13

「最高速度」がアクセスポイントの条件に応じた通信速度であることを確認し、OK ボタンをクリックします。



最高速度とはパソコンとIWX70またはRS20間の通信速度をさします。インターネットに接続するときの通信速度のことではありません。選択したモデムの種類によって最高速度を次ページのように選択します。

IWX70 の場合

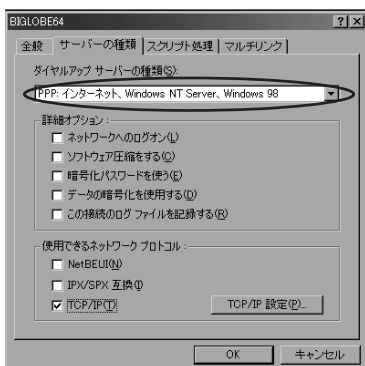
モデムの種類	最高速度
AtermIW SYNC115	115200
AtermIW ASYNC115	57600 115200
AtermIW MP128	230400
AtermIW PIAFS32 (Direct)	57600 115200
AtermIW PIAFS32 (Compress)	
AtermIW PIAFS64	115200

RS20 の場合

モデムの種類	最高速度
AtermRS Air32K (Compress)	57600
AtermRS Air32K (Direct)	115200
AtermRS Air64K (DualLink)	115200

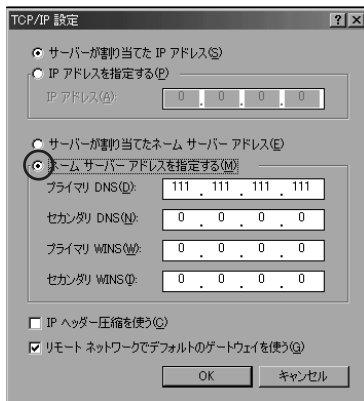
14 [サーバーの種類] タブをクリックします。

15 サーバーの種類を下図のように設定します。



16 **TCP/IP 設定** ボタンをクリックします。
[TCP/IP 設定] 画面が表示されます。

17 「**名前サーバーアドレスを指定する**」を●にし、プロバイダより指定された名前サーバーのIPアドレスを半角で入力します。



設定内容はプロバイダによって異なります。プロバイダのユーザ情報資料などにしたがって指定してください。

「セカンダリ DNS」はプロバイダから指示がなければ、入力しなくても問題ありません。

18 「IP ヘッダー圧縮を使う」をクリックして にします。

19 **OK** ボタンをクリックします。

20 **OK** ボタンをクリックします。
[ダイヤルアップネットワーク] ウィンドウにもどります。

無線ポートのデータ発信モードを設定する

IWX70の無線ポートのデータ発信モードを設定します。RS20からインターネットに接続するとき、IWX70の無線ポートのデータ発信モードの設定が必要です。プロバイダのほとんどはISDN同期64Kのアクセスポイントを用意しているので、初期値のままでも発信ができます。非同期アクセスポイントやPIAFSアクセスポイントなどに接続する場合は、無線ポートのデータ発信モードを変更します。

① **スタート** [プログラム] [Aterm IWX70&RS20ユーティリティ] [IWX70&RS20らくらくアシスタント]を選択し、『らくらくアシスタント』を起動します。

[らくらくアシスタントメニュー]が表示されます。

② [IWX70&RS20の詳細設定]を選択します。

[ターミナルアダプタの詳細設定]画面が表示されます。

③ 設定する無線ポートを選択します。

[無線ポートの設定]画面が表示されます。

④ 「データ発信モード」を選択します。

無線ポートの設定

無線ポート [ATMUS設定] 共通設定

設定項目選択 [] 無線ポートのよく利用する設定です。なお、データ発信設定機能は設定に関わりなく利用できます。無線ポートは、無線ポートの物理的接続状態によってより、モードが自動的に切り替わります。

選択する接続 [] キャットポート []

[] モデムステーション (音声、PHS (音声) で利用) [] 使用しない

居住番号 [] 居住番号通知ID []

[] PHSネットワーク (申し込み済) []

通信番号 []

データ発信モード [] データ発信モード (ATMUS接続) []

ISDN同期64K (選択済み) [] 利用しない

データ発信モード []

PIAFS 5k

OK キャンセル ヘルプ

PIAFS スルーモード

子機のPIAFSデータをIWX70で変換せずにそのままINSネット64に送出し、PIAFS対応アクセスポイントやPHSデータ端末と通信します。

プロトコル変換モード (非同期 9.6K/14.4K/19.2K/28.8/38.4K/57.6K)

子機の無線データをIWX70で一時的に終端し、非同期対応アクセスポイントに合わせてデータを変換して通信します。対応する通信速度の中から選択します。

プロトコル変換モード (同期 64K) 子機の無線データをIWX70で一時的に終端し、ISDN同期64Kアクセスポイントに合わせてデータを変換して通信します。(初期値)

⑤ **OK** ボタンをクリックします。

[ターミナルアダプタの詳細設定]画面にもどります。



「通信モード指定発信」(P.79)を使用して、発信モードを選択することもできます。

接続を確認する

プロバイダのアクセスポイントにダイヤルし、正しく接続できるか確認します。

① RS20 から接続する場合は PHS ランプが緑色に点灯していることを確認します。

② デスクトップの[マイコンピュータ]アイコンをダブルクリックします。



マイコンピュータ

[マイコンピュータ]アイコンは 図と異なることがあります。

[マイコンピュータ]ウィンドウが表示されます。

③ [ダイヤルアップネットワーク]アイコンをダブルクリックします。



ダイヤルアップネットワーク

[ダイヤルアップネットワーク]ウィンドウが表示されます。

④ 接続アイコン(例: BIGLOBE64)をダブルクリックします。

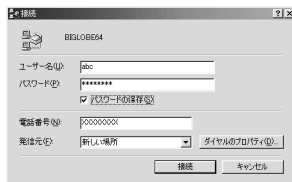


BIGLOBE64

「プロバイダの設定」の④で「接続名」に指定した名前の接続アイコンが表示されます。

[接続]画面が表示されます。

⑤ 「ユーザー名」(ユーザID)がプロバイダから指定されたユーザ設定情報などの資料と合っていることを確認し、パスワードを入力します。



「パスワードの保存」をクリックして にすると、次の接続からパスワードを入力する必要がなくなります。

⑥ [接続] ボタンをクリックします。

IWX70がINSネット64を通じてプロバイダにダイヤルします。



プロバイダに電話をかけてつなぐとユーザー名(ユーザID)とパスワードの認証がおこなわれ、そのあとプロバイダのホストコンピュータに接続されます。

タスクトレイのインジケータに[ダイヤルアップネットワークモニタ]アイコンが表示されます。



INS ネット 64 に接続されます。

IWX70またはRS20の液晶ディスプレイにデータ通信中を表す または が表示されます。

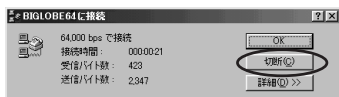
IWX70 からインターネットに接続した場合、IWX70の液晶ディスプレイには、使用中のBチャンネルをあらわす B1または B2と または が表示されます。RS20 などの子機から PIAFS スルーモードでインターネットに接続した場合は、IWX70の液晶ディスプレイに 、 は表示されず、B1 または B2 だけが表示されます。

IWX70の液晶ディスプレイに➡が表示されているときは、1つのBチャンネルを使って64kbpsの速度で通信している状態を示します。➡➡が表示されているときは、2つのBチャンネルを使って128kbpsの速度で通信している状態を示します。

RS20の液晶ディスプレイに➡が表示されているときは、1つの無線チャンネルを使って32kbpsの速度で通信している状態を示します。➡➡が表示されているときは、2つの無線チャンネルを使って64kbpsの速度で通信している状態を示します。



タスクトレイのインジケータの[ダイヤルアップネットワークモニター]アイコンをダブルクリックし、**切断** ボタンをクリックします。



INS ネット 64 との接続が切断されます。通信回線が正常に切断されると、IWX70の液晶ディスプレイに「データセツタ」と約20秒間表示されます。



切断 ボタンをクリックしてもIWX70またはRS20の液晶ディスプレイにデータ通信中を表す➡または➡➡が表示されているときは、通信回線がつながったままになっています。このようなときはIWX70に接続されているINS回線ケーブルを抜いて通信回線を強制的に切断してください。なお、INS回線ケーブルを抜くとすべての通信が切断されるので、電話機などの他の機器が通信中ではないことを確認してからINS回線ケーブルを抜いてください。

通信相手に接続できなかった場合にIWX70が同じ番号に自動的に再発信する回数は、最初の発信から数えて3分間で2回以内に制限されています。この制限内で接続できなかった場合は、時間をおいてから接続しなおしてください。



アクセスポイントに接続したあとに認証の失敗などでインターネットに接続できなかった場合も、通信料金がかかります。

1-5 . インターネット接続の手動設定 (Windows 2000)

インターネットに接続するための設定は『らくらくアシスタント』の[インターネット接続の設定] (「取扱説明書」) で設定ができます。ここでは『らくらくアシスタント』で設定がうまくできなかった場合に、手動で設定する手順を説明します。

以降の手順はWindows 2000 搭載のパソコンにIWX70 を接続した場合の設定を例に説明します。RS20 を接続した場合の手順も同様です。

モデム情報のインストール

IWX70 または RS20 をインターネットの接続に使用するモデムとして設定します。

① パソコンを起動します。
ほかのアプリケーションソフトを使用しているときは、そのアプリケーションを終了します。

② 添付CD-ROM『AtermIWX70シリーズユーティリティ集』をパソコンにセットします。

「AtermIWX70シリーズユーティリティ集」のメニュー画面が表示されます。

③ 「AtermIWX70シリーズユーティリティ集」のメニュー画面の[CD-ROMの終了]をクリックします。

[AtermIWX70シリーズユーティリティ集]のメニュー画面が終了します。

CD-ROM をセットしてもメニュー画面が表示されなかったときは、この操作は必要ありません。

④ **スタート** [設定] [コントロールパネル] を選択します。

[コントロールパネル]ウィンドウが表示されます。

⑤ [電話とモデムのオプション] アイコンをダブルクリックします。



[電話とモデムのオプション]画面が表示されます。

⑥ [モデム] タブをクリックします。

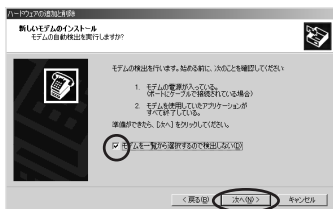


⑦ **追加** ボタンをクリックします。



[ハードウェアの追加と削除]画面が表示されます。

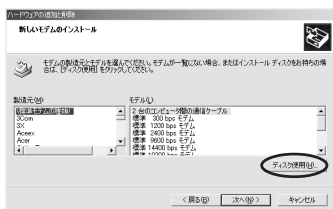
- 8 「モデムを一覧から選択するので検出しない」を にして **次へ** ボタンをクリックします。



- 9 **次へ** ボタンをクリックします。

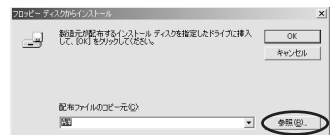


- 10 **ディスク使用** ボタンをクリックします。



[フロッピーディスクからインストール] 画面が表示されます。

- 11 **参照** ボタンをクリックします。



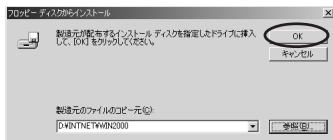
[ファイルの場所] 画面が表示されます。

- 12 CD-ROMドライブを選択し、「INTNET」フォルダをダブルクリックします。「WIN2000」フォルダをクリックして **開く** ボタンをクリックします。



[フロッピーディスクからインストール] 画面に戻ります。

- 13 **OK** ボタンをクリックします。



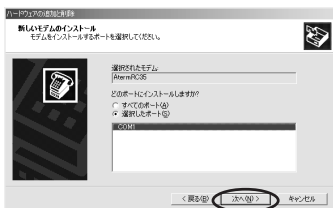
- 14 「モデム」の中から使用するモデムを選択します。IWX70とRS20ではモデムの種類が異なります。



- IWX70 の場合
「AtermIW 128K Support Series」を選択します。
RS20 の場合
「AtermRS Series」を選択します。

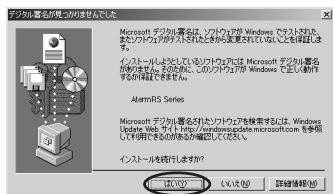
- 15 **次へ** ボタンをクリックします。

- 16 Aterm を接続しているポートを選択し、**次へ** ボタンをクリックします。



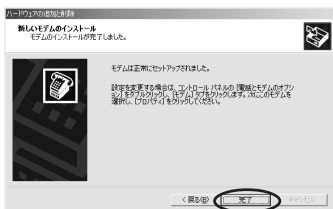
[デジタル署名が見つかりませんでした] 画面が表示されます。

- 17 次の画面が表示されたときは **はい** ボタンをクリックします。



モデム情報がインストールされます。

- 18 **完了** ボタンをクリックします。

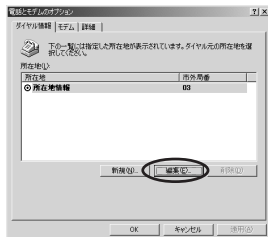


[電話とモデムのオプション] 画面にもどり
ます。

- 19 16 で選択したモデムが追加されていることを確認し、[ダイアル情報] タブをクリックします。

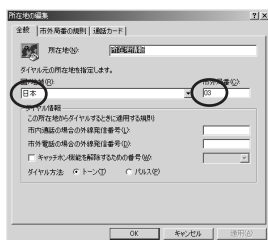


- 20 **編集** ボタンをクリックします。



[所在地の編集] 画面が表示されます。

- 21 「国/地域」を「日本」とし、「市外局番」を入力します。



- 22 「ダイヤル方法」で「トーン」を選択し、**OK** ボタンをクリックします。

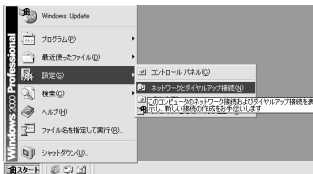
[電話とモデムのオプション] 画面にもど
ります。

- 23 **OK** ボタンをクリックします。

[電話とモデムのオプション] の設定が終
了します。

ネットワークとダイヤルアップ接続の設定

1 **スタート** [設定] [ネットワークとダイヤルアップ接続] を選択します。



[スタートメニュー] は図と異なることがあります。

[ネットワークとダイヤルアップ接続] ウィンドウが表示されます。

2 [新しい接続の作成] アイコンをダブルクリックします。



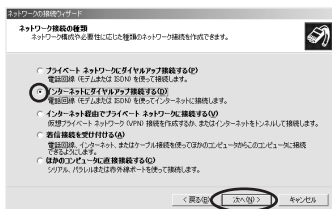
[ネットワークの接続ウィザード] 画面が表示されます。

3 **次へ** ボタンをクリックします。



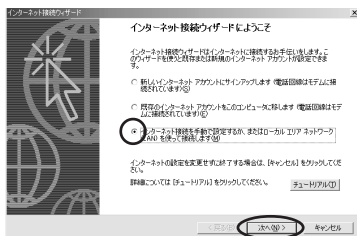
ネットワーク接続の種類を選択する画面が表示されます。

4 「インターネットにダイヤルアップ接続する」を選択し、**次へ** ボタンをクリックします。



[インターネット接続ウィザード] 画面が表示されます。

5 「インターネット接続を手動で設定する…」を選択し、**次へ** ボタンをクリックします。



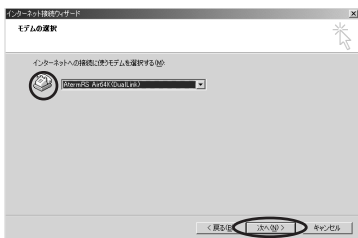
インターネット接続の設定をする画面が表示されます。

6 「電話回線とモデムを使ってインターネットに接続します」を選択し、**次へ** ボタンをクリックします。



[モデムの選択] 画面が表示されます。

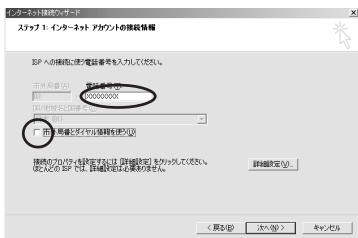
- 7 接続に使うモデムで IWX70 用または RS20 用のモデム情報を選択し、
次へ ボタンをクリックします。



モデム情報が1つしかインストールされていないときは、この画面は表示されません。

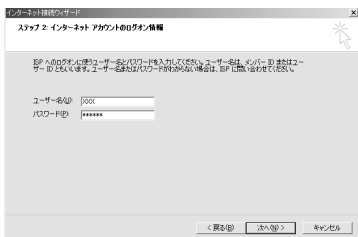
インターネットアカウントの接続情報を設定する画面が表示されます。

- 8 「電話番号」に接続するアクセスポイントの電話番号を市外局番から入力し、「市外局番とダイヤル情報を使う」をクリックして にします。



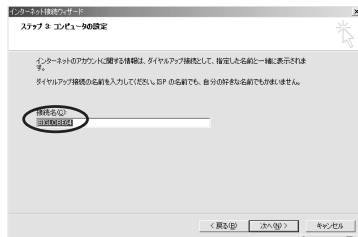
- 9 次へ ボタンをクリックします。
インターネットアカウントのログオン情報画面が表示されます。

- 10 プロバイダから指定されたユーザ設定情報などの資料にしたがって、「ユーザー名」(ユーザID)と「パスワード」を入力します。



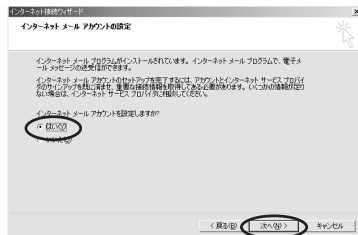
- 11 次へ ボタンをクリックします。
コンピュータの設定の画面が表示されます。

- 12 「接続名」にダイヤルアップ接続の名前を任意に入力します。
ここでは例として「BIGLOBE64」と入力します。



- 13 次へ ボタンをクリックします。
インターネットメールアカウントを設定する画面が表示されます。

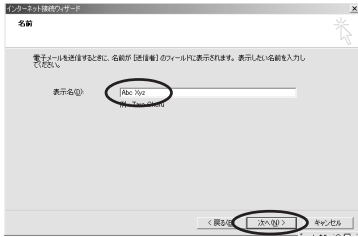
- 14 「はい」を選択し、次へ ボタンをクリックします。
インターネットメールアカウントを設定しない場合「いいえ」を選択し、に進みます。



名前を設定する画面が表示されます。

15

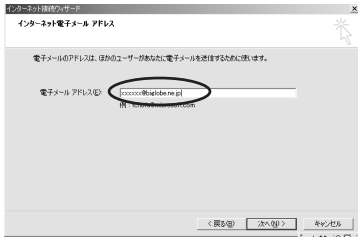
電子メールを送信するときに表示する名前を任意に入力し、**次へ** ボタンをクリックします。



インターネット電子メールアドレスを設定する画面が表示されます。

16

プロバイダから指定されたユーザ設定情報などの資料にしたがって、「電子メールアドレス」を入力します。



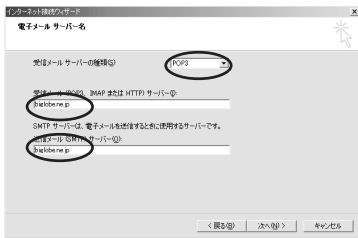
17

次へ ボタンをクリックします。

[電子メールサーバー名]画面が表示されます。

18

プロバイダから指定されたユーザ設定情報などの資料にしたがって、メールサーバーの種類と名前を入力します。



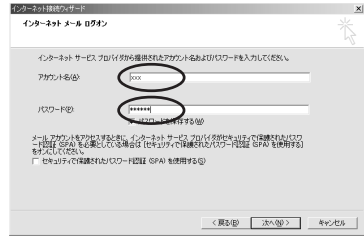
19

次へ ボタンをクリックします。

インターネットメールログオンを設定する画面が表示されます。

20

プロバイダから指定されたユーザ設定情報などの資料にしたがって、「アカウント名」と「パスワード」を入力します。



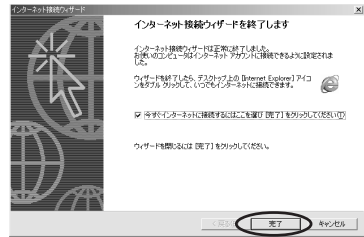
「パスワードを保存する」をクリックして にしておくと、次の接続からパスワードを入力する必要がなくなります。

21

次へ ボタンをクリックします。

22

完了 ボタンをクリックします。



「今すぐインターネットに接続...」が になっているとブラウザが起動し、インターネットに接続できます。

[ネットワークとダイヤルアップ接続] ウィンドウにもどり、**2** でつけた名前の接続アイコンができます。



BIGLOBE64

モデムのプロパティの設定

- 「ネットワークとダイヤルアップ接続の設定」で作成した接続アイコン(例: BIGLOBE64)の上で右クリックします。

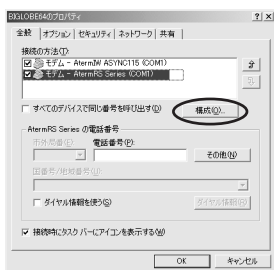


BIGLOBE64

ショートカットメニューが表示されます。

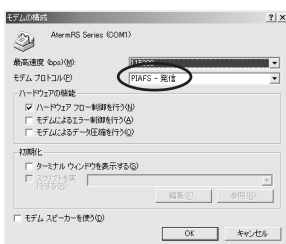
- [プロパティ] を選択します。
[プロパティ] 画面が表示されます。

- 構成 ボタンをクリックします。



[モデムの構成] 画面が表示されます。

- 「モデムプロトコル」を設定します。



次の表を参照し、接続するアクセスポイントや通信方式によってモデムプロトコルを選択します。通常は「PPP (64K)」を選択します。

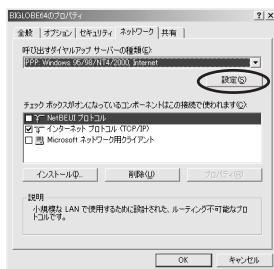
アクセスポイント または接続方法	モデムプロトコル
同期64K接続	PPP (64K)
同期128K接続	PPP (128K)
非同期57.6K接続	V.110 (57.6K)
PIAFS通信	PIAFS - 発信
着信接続 (ダイヤルアップサーバ)	AUTO (1ch)

- 「モデムによるエラー制御を行う」
「モデムによるデータ圧縮を行う」が になっているときは、クリックして にします。

- OK ボタンをクリックします。
[プロパティ] 画面にもどります。

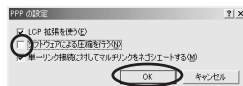
- [ネットワーク] タブをクリックします。

- 設定 ボタンをクリックします。



[PPPの設定] 画面が表示されます。

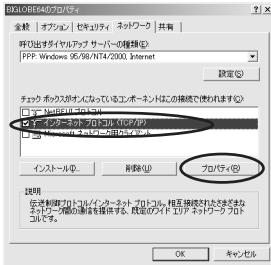
- 「ソフトウェアによる圧縮を行う」をクリックして にし、OK ボタンをクリックします。



[プロパティ] 画面にもどります。

10

「チェックボックスがオンになっているコンポーネント・・・」の「インターネットプロトコル(TCP/IP)」をクリックし、「プロパティ」ボタンをクリックします。

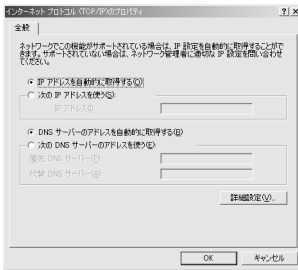


[インターネットプロトコル(TCP/IP)のプロパティ]画面が表示されます。

11

「IPアドレス」、「DNSサーバーのアドレス」がプロバイダから通知される場合は、「IPアドレスを自動的に取得する」、「DNSサーバーのアドレスを自動的に取得する」を選択します。

これらがプロバイダから通知されない場合は「次のIPアドレスを使う」、「次のDNSサーバーのアドレスを使う」を選択し、「IPアドレス」、「優先DNSサーバー」、「代替DNSサーバー」(セカンダリDNS)を入力します。



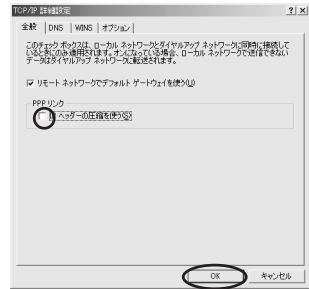
12

詳細設定 ボタンをクリックします。

[TCP/IP詳細設定]画面が表示されます。

13

「PPPリンク」の「IPヘッダーの圧縮を使う」の をクリックして、**OK** ボタンをクリックします。



[インターネットプロトコル(TCP/IP)のプロパティ]画面にもどります。

14

OK ボタンをクリックします。

[プロパティ]画面にもどります。

15

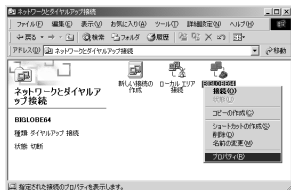
OK ボタンをクリックします。

[ネットワークとダイヤルアップ接続]画面にもどります。

PIAFS、ITMUX を設定する

PIAFS32K、PIAFS64K、ITMUX通信をおこなうには以下の設定が必要です。

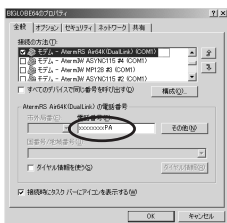
- 1 「ネットワークとダイヤルアップ接続の設定」で作成した接続アイコン（例：BIGLOBE64）の上で右クリックします。



ショートカットメニューが表示されます。

- 2 [プロパティ] を選択します。
[プロパティ] 画面が表示されます。

- 3 接続するアクセスポイントや通信方式によって「電話番号」の末尾に次の文字を入力します。



PIAFS32Kアクセスポイントに接続するとき (IWX70・RS20)

電話番号の末尾に「PF」と入力

PIAFS64Kアクセスポイントに接続するとき (IWX70・RS20)

電話番号の末尾に「PD」と入力

ITMUX 機能を使用して同期 64K アクセスポイントに接続するとき (IWX70)

電話番号の末尾に「PA」と入力

ITMUX 機能を使用して 128kbps マルチリンクPPPアクセスポイントに接続するとき (IWX70)

電話番号の末尾に「PB」と入力

デュアルリンクワイヤレス通信で RS20 から発信するとき (RS20) 電話番号の末尾に「DL」と入力

- 4 OK ボタンをクリックします。
[ネットワークとダイヤルアップ接続] ウィンドウにもどります。



この操作で設定した内容は接続アイコンのプロパティとして保存されるので、インターネットに接続するときには設定した通信方式で接続されます。接続アイコンは複数登録することができます。PIAFS アクセスポイント用とITMUX用など通信方式ごとに接続アイコンを作って、接続方法を使い分けることもできます。

無線ポートのデータ発信モードを設定する

IWX70の無線ポートのデータ発信モードを設定します。RS20からインターネットに接続するとき、IWX70の無線ポートのデータ発信モードの設定が必要です。プロバイダのほとんどはISDN同期64Kのアクセスポイントを用意しているので、初期値のままでも発信ができます。非同期アクセスポイントやPIAFSアクセスポイントなどに接続する場合は、無線ポートのデータ発信モードを変更します。

1 **スタート** [プログラム] [Aterm IWX70&RS20ユーティリティ] [IWX70&RS20らくらくアシスタント]を選択し、『らくらくアシスタント』を起動します。

[らくらくアシスタントメニュー]が表示されます。

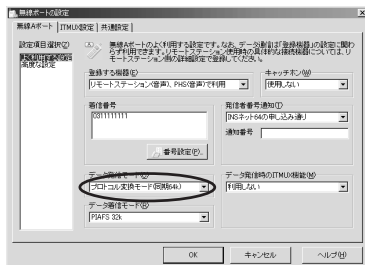
2 [IWX70&RS20の詳細設定]を選択します。

[ターミナルアダプタの詳細設定]画面が表示されます。

3 設定する無線ポートを選択します。

[無線ポートの設定]画面が表示されます。

4 「データ発信モード」を選択します。



PIAFS スルーモード

子機のPIAFSデータをIWX70で変換せずにそのままINSネット64に送出し、PIAFS対応アクセスポイントやPHSデータ端末と通信します。

プロトコル変換モード (非同期 9.6K/14.4K/19.2K/28.8/38.4K/57.6K)

子機の無線データをIWX70で一時的に終端し、非同期対応アクセスポイントに合わせてデータを変換して通信します。対応する通信速度の中から選択します。

プロトコル変換モード (同期 64K)
子機の無線データをIWX70で一時的に終端し、ISDN同期64Kアクセスポイントに合わせてデータを変換して通信します。(初期値)

5 **OK** ボタンをクリックします。

[ターミナルアダプタの詳細設定]画面にもどります。



「通信モード指定発信」(P.79)を使用して、発信モードを選択することもできます。

接続を確認する

プロバイダのアクセスポイントダにダイヤルし、正しく接続できるか確認します。

- 1 RS20 から接続する場合は PHS ランプが緑色に点灯していることを確認します。

- 2 **スタート** [設定] [ネットワークとダイヤルアップ接続] を選択します。

- 3 接続アイコン (例: BIGLOBE64) をダブルクリックします。



BIGLOBE64

「ネットワークとダイヤルアップ接続の設定」の ② で「接続名」に入力した名前の接続アイコンが表示されます。

[接続] 画面が表示されます。

- 4 「ユーザー名」がプロバイダから指定されたユーザ設定情報などの資料と合っていることを確認し、パスワードを入力します。



「パスワードの保存」をクリックして にすると、次回の接続からパスワードを入力する必要がなくなります。

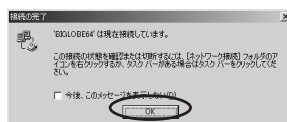
- 5 **ダイヤル** ボタンをクリックします。

IWX70がINS ネット 64を通じてプロバイダにダイヤルします。



プロバイダに電話をかけてつなぐとユーザー名 (ユーザID) とパスワードの認証がおこなわれ、そのあとプロバイダのホストコンピュータに接続されます。
[接続完了]画面とタスクトレイのインジケータに [ネットワークとダイヤルアップ接続] アイコンが表示されます。

- 6 **OK** ボタンをクリックします。



INS ネット 64 に接続されます。

IWX70またはRS20の液晶ディスプレイにデータ通信中を表す \rightarrow または \rightarrow が表示されます。

IWX70からインターネットに接続した場合、IWX70の液晶ディスプレイには、使用中のBチャンネルを問わず B1 または B2 と \rightarrow または \rightarrow が表示されます。RS20などの子機から PIAFS スルーモードでインターネットに接続した場合は、IWX70の液晶ディスプレイに \rightarrow 、 \rightarrow は表示されず、B1 または B2 だけが表示されます。

IWX70の液晶ディスプレイに \rightarrow が表示されているときは、1つのBチャンネルを使って64kbpsの速度で通信している状態を示します。 \rightarrow が表示されているときは、2つのBチャンネルを使って128kbpsの速度で通信している状態を示します。

RS20の液晶ディスプレイに
➡が表示されているときは、1
つの無線チャネルを使って
32kbpsの速度で通信している
状態を示します。➡が表示され
ているときは、2つの無線チャ
ネルを使って64kbpsの速度で
通信している状態を示します。

7

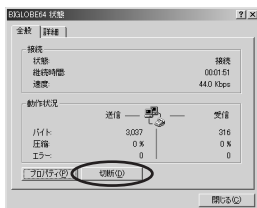
タスクトレイのインジケータの[ネッ
トワークとダイヤルアップ接続]アイ
コンをクリックします。



[状態]画面が表示されます。

8

切断 ボタンをクリックします。



INSネット64との接続が切断されます。
通信回線が正常に切断されると、IWX70
の液晶ディスプレイに「データセッタン
」と約20秒間表示されます。



切断 ボタンをクリックして
もIWX70またはRS20の液
晶ディスプレイにデータ通信
中を表す ➡ または ➡ が表示
されているときは、通信回線
がつながったままになってい
ます。このようなときは
IWX70に接続されているINS
回線ケーブルを抜いて通信回
線を強制的に切断してくださ
い。なお、INS回線ケーブルを
抜くとすべての通信が切断さ
れるので、電話機などの他の
機器が通信中ではないことを
確認してからINS回線ケー
ブルを抜いてください。

通信相手に接続できなかった
場合にIWX70が同じ番号に
自動的に再発信する回数は、
最初の発信から数えて3分間
で2回以内に制限されていま
す。この制限内で接続できな
かった場合は、時間をおいて
から接続し直してください。



アクセスポイントに接続した
あとに認証の失敗などでイン
ターネットに接続できなかった
場合も、通信料金がかかります。


1-6 . インターネット接続の手動設定 (Macintosh)


インターネットに接続するための設定は『らくらくアシスタント』の「インターネット接続の設定」(「取扱説明書」)で設定ができます。ここでは『らくらくアシスタント』で設定がうまくできなかった場合に、手動で設定する手順を説明します。


以降の手順はMacintoshにIWX70を接続した場合の設定を例に説明します。お使いの環境によっては手順や画面が異なることがあります。RS20を接続した場合の手順も同様です。


設定の前に

インターネットの接続に必要な、TCP/IP、モデム、リモートアクセス(PPP)の設定をします。ここではMac OS 7.6以上に添付されている「Open Transport PPP」を使って設定する方法を説明します。

Mac OS 7.6以上をお使いの場合TCP/IPソフトウェアが添付されています。 (アップルメニュー) [コントロールパネル]に「TCP/IP」が入っていることを確認してください。入っていない場合は、Macintoshに添付されているCD-ROMから、カスタムインストールでTCP/IPをインストールしてください。


Open Transport PPPが標準で添付されています。 (アップルメニュー) [コントロールパネル]に「PPP」が入っていないときは、Macintoshに添付されているCD-ROMからインストールしてください。

Performaシリーズをお使いの場合 (アップルメニュー) [コントロールパネル] [機能拡張マネージャ]で「A/ROSE」のチェックマークをはずさないと、ソフトウェアが動作しない場合があります。機能拡張マネージャについては、Macintoshの取扱説明書を参照してください。

モデム内蔵の機種をお使いの場合は、 (アップルメニュー) [コントロールパネル] [機能拡張マネージャ]で内蔵モデムに関するチェックを外さないと、モデムポートが機能しないことがあります。うまく動作しない場合は、モデムポートの代わりにプリンタポートにIWX70またはRS20を接続してください。詳細は、アップルコンピュータにお問い合わせください。

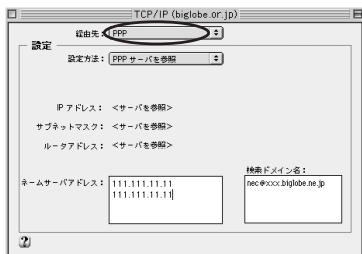
TCP/IP の設定

プロバイダに接続するときの条件を設定します。

- 1 1 マニューバーの  (アップルメニュー) から [コントロールパネル] [TCP/IP] を選択します。

[TCP/IP] 画面が表示されます。

- 2 「経路先」のプルダウンメニューから「PPP」を選択します。



- 3 「設定方法」のプルダウンメニューから「PPP サーバを参照」を選択します。

- 4 契約しているプロバイダのユーザ設定情報などの資料にしたがって、「ネームサーバアドレス」にDNSのIPアドレスを入力します。

1 行目にプライマリを入力して改行し、2 行目にセカンダリを入力します。セカンダリはプロバイダから指示がなければ入力しなくても問題ありません。

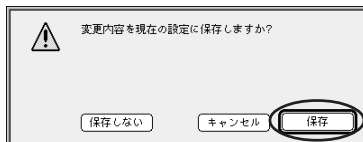
文字は半角の英数字で入力します。大文字、小文字の区別もプロバイダの指示にしたがってください。

- 5 「検索ドメイン名」にドメイン名(プロバイダのサーバ名)を入力します。

- 6 [TCP/IP]画面のクローズボックスをクリックします。

7

保存 ボタンをクリックします。



TCP/IP の設定が終了します。

続けてモデムの設定をします。

CCL ファイルのインストール

IWX70 と RS20 用のモデム情報ファイルを Macintosh にインストールします。

- 1 添付 CD-ROM『AtermIWX70 シリーズユーティリティ集』を CD-ROM ドライブにセットします。

CD-ROM ウィンドウが表示されます。

- 2 [CCL ファイル] フォルダをダブルクリックします。


Aterm 用の CCL ファイルの一覧が表示されます。

- 3 これらのファイルをハードディスクの [システム] フォルダ [機能拡張] フォルダ [Modem Script] フォルダにコピーします。

同じ名前のファイルがある場合は上書きします。

IWX70 と RS20 用のモデム情報ファイルがインストールされます。

モデムの設定

- 1 メニューバーの  (アップルメニュー) から [コントロールパネル] [モデム] を選択します。

[モデム] 画面が表示されます。

- 2 「経由先」で IWX70 または RS20 を接続したポートを選択します。USBポートに接続している場合は「経由先」で「Aterm」を選択します。

- 3 「モデム」でモデムの種類を選択します。



IWX70 の場合

接続するアクセスポイントによって次のようにモデムの種類を選択します。

アクセスポイント	モデム情報 (CCLファイル)
非同期57.6K	NEC AtermIW 57.6k
同期128K	NEC AtermIW MP
同期64K	NEC AtermIW 64kPPP
PIAFS32K	NEC AtermIW 32kPIAFS
PIAFS64K	NEC AtermIW 64kPIAFS

USBポートに接続している場合は、モデムの種類のうしろに「(USB)」とついたモデム情報を選択します。アクセスポイントの接続条件は、プロバイダにお問い合わせください。

RS20の場合

無線区間(RS20とIWX70との間)の通信方式によって次のようにモデムを選択します。

無線区間の通信方式	モデム情報 (CCLファイル)
PIAFS32K (V.42bis圧縮なし)	NEC AtermRS Direct
PIAFS32K (V.42bis圧縮あり)	NEC AtermRS Compress
デュアルリンクワイヤレス通信 (64kbps)	NEC AtermRS DualLinks

USBポートに接続している場合は、モデムの種類のうしろに「(USB)」とついたモデム情報を選択します。

特に指定がない場合は「NEC AtermRS DualLinks」を選択してください。「デュアルリンクワイヤレス通信」はNEC独自の通信方式で、無線 2 チャネルを使って 64kbps の速度で無線通信し、同期 / 非同期アクセスポイントに接続ができます。

4 [モデム] 画面のクローズボックスをクリックします。

5  ボタンをクリックします。

モデムの設定が終了します。続けてリモートアクセス(またはPPP)の設定をします。

.....




デュアルリンクワイヤレス通信で接続する場合はFree PPPなどの通信ソフトを使用し、ATコマンドで「デュアルリンクワイヤレス通信モード」に設定してください。(「取扱説明書」)

.....

リモートアクセス(またはPPP)の設定

ここではリモートアクセス(Mac OS 8.5)を例に説明します。Mac OS 8.0 をお使いの場合は「リモートアクセス」を「PPP」に置き換えてお読みください。

1  (アップルメニュー)から[コントロールパネル] [リモートアクセス](または[PPP])を選択します。

[リモートアクセス](または[PPP])画面が表示されます。

2 「登録利用者」が●になっていることを確認します。

3 「名前」(ユーザID)、「パスワード」を入力します。

「ユーザID」(ユーザ名)「パスワード」は、プロバイダのユーザ設定情報などの資料にしたがって入力します。

文字は半角の英数字で入力します。大文字、小文字の区別もプロバイダの指示にしたがってください。

「パスワードを保存」を にすると入力したパスワードが保存され、次回から入力する必要がなくなります。

- 4 「電話番号」にプロバイダの最寄りのアクセスポイントの電話番号を、半角で入力します。

ハイフンや()は入力する必要はありません。



- 5 「オプション」ボタンをクリックします。
[オプション]画面が表示されます。

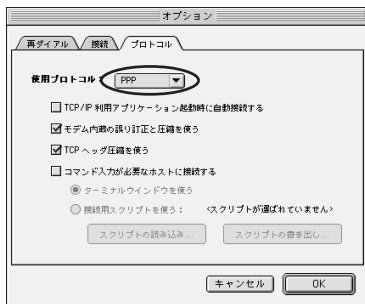
- 6 「接続」タブをクリックします。

- 7 「操作しないまま10分間が過ぎたら接続を切る」をにしておきます。



- 8 「プロトコル」タブをクリックします。

- 9 「使用プロトコル」を「PPP」にします。

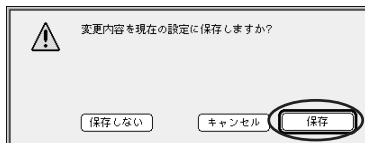


- 10 「モデム内蔵の誤り訂正と圧縮を使う」、「TCP ヘッダ圧縮を使う」をそれぞれにします。

- 11 「OK」ボタンをクリックします。
[リモートアクセス] (または [PPP]) 画面にもどります。

- 12 [リモートアクセス] (または [PPP]) 画面のクローズボックスをクリックします。

- 13 「保存」ボタンをクリックします。




リモートアクセス (または PPP) の設定が終了します。

接続を確認する

プロバイダのアクセスポイントにダイヤルし、正しく接続できるか確認します。

1

メニューバーの  (アップルメニュー) から [コントロールパネル] [リモートアクセス] (または [PPP]) を選択します。

[リモートアクセス] (または [PPP]) 画面が表示されます。

2

接続 ボタンをクリックします。



このとき「電話番号」に接続するアクセスポイントや通信方式によって「電話番号」の末尾に次の文字を入力すると、通信モードを指定して発信できます。

PIAFS32Kアクセスポイントに接続するとき (IWX70・RS20)

電話番号の末尾に「PF」と入力

PIAFS64Kアクセスポイントに接続するとき (IWX70・RS20)

電話番号の末尾に「PD」と入力

ITMUX機能を使用して同期64Kアクセスポイントに接続するとき (IWX70)

電話番号の末尾に「PA」と入力

ITMUX機能を使用して128kbpsマルチリンクPPPアクセスポイントに接続するとき (IWX70)

電話番号の末尾に「PB」と入力



デュアルリンクワイヤレス通信でRS20から発信するとき (RS20)



電話番号の末尾に「DL」と入力



IWX70がINSネット64を通じてプロバイダにダイヤルします。

プロバイダに電話をかけてつなげると名前 (ユーザID) とパスワードの認証がおこなわれます。そのあとプロバイダのホストコンピュータに接続され次の画面が表示されます。



IWX70またはRS20の液晶ディスプレイにデータ通信中を表す  または  が表示されます。

IWX70からインターネットに接続した場合、IWX70の液晶ディスプレイには、使用中のBチャンネルをあらわす B1または B2が表示されます。RS20などの子機からPIAFSスルーモードでインターネットに接続した場合は、IWX70の液晶ディスプレイに 、 は表示されず、B1または B2だけが表示されます。

IWX70の液晶ディスプレイに  が表示されているときは、1つのBチャンネルを使って64kbpsの速度で通信している状態を示します。 が表示されているときは、2つのBチャンネルを使って128kbpsの速度で通信している状態を示します。

RS20の液晶ディスプレイに
▲が表示されているときは、1
つの無線チャネルを使って
32kbpsの速度で通信している
状態を示します。▲が表示され
ているときは、2つの無線チャ
ネルを使って64kbpsの速度で
通信している状態を示します。

3

[リモートアクセス](または[PPP])
画面の「接続を切る」ボタンをクリック
してから、クローズボックスをクリック
します。

ブラウザソフトを終了しても電
話につながったままになってい
ます。インターネットの接続を
終了するときは、必ずこの画面
の「接続を切る」ボタンをクリック
してください。

インターネットの接続が切断されます。
通信回線が正常に切断されると、IWX70
の液晶ディスプレイに「データセッ
タ」と約20秒間表示されます。



インターネットの接続を終了
するときには、ブラウザソフト
を終了させただけでは回線
は切断されません。必ず切断
操作をしてください。

「接続を切る」ボタンをクリック
してもIWX70またはRS20
の液晶ディスプレイに▲また
は▲が表示されているときは、
通信回線がつながったままに
なっています。このようなと
きはIWX70に接続されてい
るINS回線ケーブルを抜いて、
通信回線を強制的に切断して
ください。なお、INS回線ケー
ブルを抜くとすべての通信が
切断されるので、電話機など
の他の機器が通信中ではない
ことを確認してからINS回線
ケーブルを抜いてください。
通信相手に接続できなかつた
場合にIWX70が同じ番号に
自動的に再発信する回数は、
最初の発信から数えて3分間
で2回以内に制限されていま
す。この制限内で接続できな
かつた場合は、時間をおいて
から接続し直してください。



アクセスポイントに接続した
あとに認証の失敗などでイン
ターネットに接続できなかつ
た場合も、通信料金がかかり
ます。

1-7 . インターネット接続の手動設定 (WindowsNT4.0)

WindowsNT4.0の場合、『らくらくアシスタント』でインターネットに接続するための設定をすることはできません。手動で設定する手順を説明します。

以降の手順はWindowsNT4.0搭載のパソコンにIWX70を接続した場合の設定を例に説明します。お使いの環境によっては手順や画面が異なることがあります。RS20を接続した場合の手順も同様です。

モデム情報のインストール

IWX70またはRS20をインターネットの接続に使用するモデムとして設定します。

1 パソコンを起動します。
ほかのアプリケーションソフトを使用しているときは、そのアプリケーションを終了します。

2 添付CD-ROM『AtermIWX70シリーズユーティリティ集』をパソコンにセットします。

「AtermIWX70シリーズユーティリティ集」のメニュー画面が表示されます。

3 [AtermIWX70シリーズユーティリティ集]のメニュー画面の[CD-ROMの終了]をクリックします。

[AtermIWX70シリーズユーティリティ集]のメニュー画面が終了します。

CD-ROMをセットしてもメニュー画面が表示されなかったときは、この操作は必要ありません。

4 **スタート** [設定] [コントロールパネル]を選択します。

[コントロールパネル]ウィンドウが表示されます。

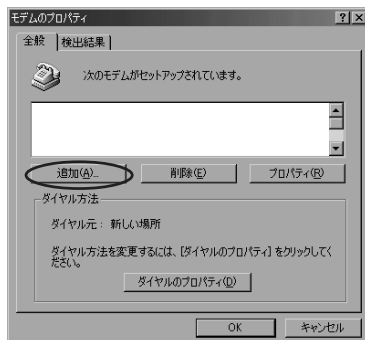
5 [モデム]アイコンをダブルクリックします。



モデム

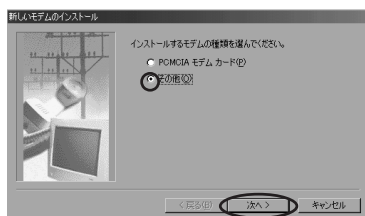
[モデムのプロパティ]画面が表示されます。

6 **追加** ボタンをクリックします。

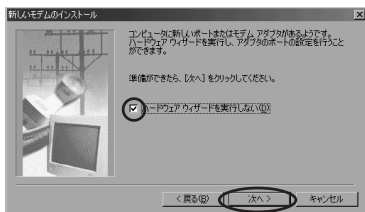


[新しいモデムのインストール]画面が表示されます。

7 「インストールするモデムの種類」の「その他」を選択し、**次へ** ボタンをクリックします。

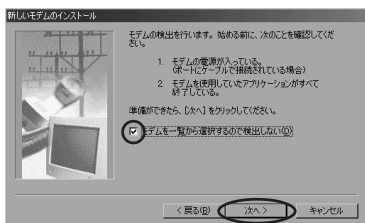


- 8 「ハードウェアウィザードを実行しない」を にして **次へ** ボタンをクリックします。



この画面が表示されない場合は、**10**に進みます。

- 9 「モデムを一覧から選択するので検出しない」を にして **次へ** ボタンをクリックします。

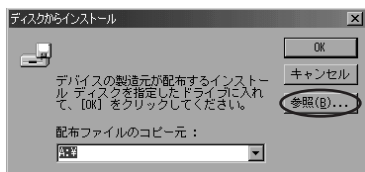


- 10 **ディスク使用** ボタンをクリックします。

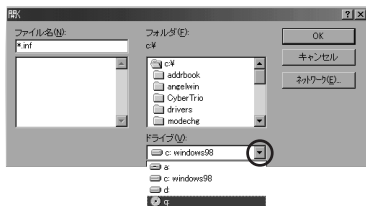


[ディスクからインストール]画面が表示されます。

- 11 **参照** ボタンをクリックします。



- 12 「ドライブ」の をクリックしてCD-ROMドライブ()を選択し、「フォルダ」欄の「inetnet」をダブルクリックします。

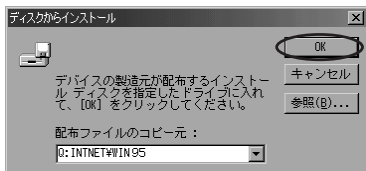


- 13 「win95」をダブルクリックし、ファイル名の「mdmnet.inf」をクリックして **OK** ボタンをクリックします。



[ディスクからインストール]画面にもどり、指定したCD-ROMドライブとフォルダ名が表示されます。

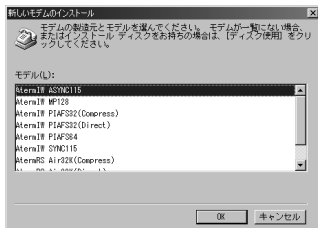
- 14 **OK** ボタンをクリックします。



[新しいモデムのインストール]画面が表示されます。

15

使用するモデムを選択します。



IWX70 の場合

接続するアクセスポイントによって
次のように選択します。

アクセスポイント	モデムの種類
ISDN回線 64 kbps (同期)	AtermIW SYNC115
ISDN回線非同期	AtermIW ASYNC115
ISDN回線 128 kbps (同期)	AtermIW MP128
PIAFS 32K	AtermIW PIAFS32 (Direct)
	AtermIW PIAFS32 (Compress)
PIAFS 64K	AtermIW PIAFS64

アクセスポイントの接続条件は、プロバイダにお問い合わせください。

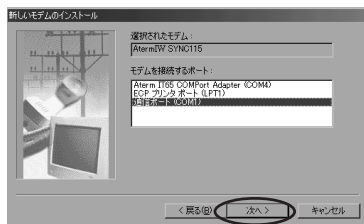
RS20 の場合

IWX70 との無線区間の通信方式によって次のように選択します。IWX70 のモデムの種類を ISDN 用にした場合、無線区間の通信方式は「デュアルリンクワイヤレス通信」となります。

無線区間の通信方式	モデムの種類
PIAFS32K (V.42bis圧縮あり)	AtermRS Air32K (Compress)
PIAFS32K (V.42bis圧縮なし)	AtermRS Air32K (Direct)
デュアルリンクワイヤレス通信 (64 kbps)	AtermRS Air64K (DualLink)

16

IWX70 または RS20 を接続しているポートを選択し、**次へ** ボタンをクリックします。



17

完了 ボタンをクリックします。

モデム情報がインストールされます。

リモートアクセスサービスの設定

① **スタート** [設定] [コントロールパネル] を選択します。

② [ネットワーク] アイコンをダブルクリックします。



ネットワーク

[ネットワーク] 画面が表示されます。

③ [サービス] タブをクリックします。

④ 「リモートアクセスサービス」を選択し、**プロパティ** ボタンをクリックします。



「リモートアクセスサービス」が組み込まれていない場合は、**追加** ボタンをクリックして組み込んでください。

[リモートアクセスセットアップ] 画面が表示されます。

⑤ **追加** ボタンをクリックします。



[RAS デバイスの追加] 画面が表示されます。

⑥ 「RAS対応デバイス」からアクセスポイントに対応したモデムを次のように選択します。

アクセスポイント	モデムの種類
ISDN回線 64 kbps (同期)	AtermIW SYNC115
ISDN回線非同期	AtermIW ASYNC115
ISDN回線 128 kbps (同期)	AtermIW MP128

⑦ **OK** ボタンをクリックします。

[リモートアクセスセットアップ] 画面にもどります。

⑧ **構成** ボタンをクリックします。



[ポート使用の構成] 画面が表示されます。

⑨ 「ポートの使い方」の「ダイヤルアウトのみ」を選択し、**OK** ボタンをクリックします。

[リモートアクセスセットアップ] 画面にもどります。

「ダイヤルアウトのみ」を選択すると発信専用になります。着信も受ける場合は「ダイヤルアウトと着信」を選択します。ただし「ダイヤルアウトと着信」を選択すると RAS 着信待ちとなって COM ポートを占有するため、『らくらくアシスタント』が起動できなくなります。『らくらくアシスタント』を使用するときには、いったん「ダイヤルアウトのみ」に切り替え、設定終了後「ダイヤルアウトと着信」にもどしてください。

10

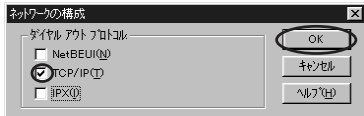
「ネットワーク」ボタンをクリックします。



[ネットワークの構成] 画面が表示されます。

11

「ダイヤルアウトプロトコル」の「TCP/IP」を にし、「OK」ボタンをクリックします。



[リモートアクセスセットアップ] 画面にもどります。

12

「続行」ボタンをクリックします。



[ネットワーク] 画面にもどります。

13

[プロトコル] タブをクリックします。

14

「プロトコル」の「TCP/IP プロトコル」が追加されていることを確認し、「OK」ボタンをクリックします。



[ネットワーク設定の変更] 画面が表示されます。

15

「はい」ボタンをクリックします。

WindowsNT 4.0 が再起動します。

プロバイダの設定

インターネットの接続に利用するプロバイダの設定をします。

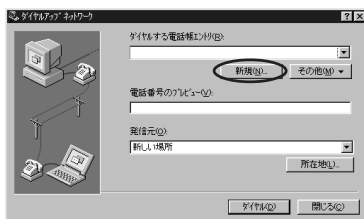
1

スタート [プログラム] [アクセサリ] [ダイヤルアップネットワーク] を選択します。

[ダイヤルアップネットワーク]画面が表示されます。

2

新規 ボタンをクリックします。

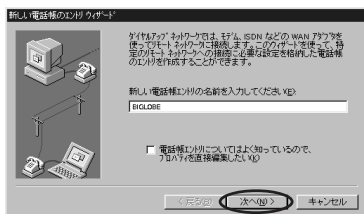


[新しい電話帳のエントリウィザード]画面が表示されます。

[新しい電話帳のエントリウィザード]画面が表示されないときは、②以降の操作を実行してください。

3

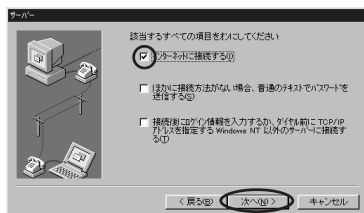
「新しい電話帳エントリの名前を入力してください」にプロバイダの名前を入力し、**次へ** ボタンをクリックします。



名前は英数、カナ、漢字、半角などで任意に入力できます。入力した名前で作成用アイコンが作成されます。

4

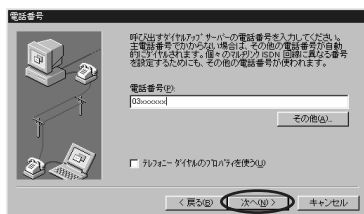
「インターネットに接続する」を にし、**次へ** ボタンをクリックします。



[電話番号]画面が表示されます。

5

接続するプロバイダのアクセスポイントの電話番号を市外局番から入力し、**次へ** ボタンをクリックします。



接続するアクセスポイントや通信方式によって「電話番号」の末尾に次の文字を入力します。

PIAFS32Kアクセスポイントに接続するとき (IWX70・RS20)

電話番号の末尾に「PF」と入力

PIAFS64Kアクセスポイントに接続するとき (IWX70・RS20)

電話番号の末尾に「PD」と入力

ITMUX機能を使用して同期64Kアクセスポイントに接続するとき (IWX70)

電話番号の末尾に「PA」と入力

ITMUX機能を使用して128kbpsマルチリンクPPPアクセスポイントに接続するとき (IWX70)

電話番号の末尾に「PB」と入力

デュアルリンクワイヤレス通信でRS20から発信するとき (RS20)

電話番号の末尾に「DL」と入力

この指定をした場合は「テレフォニーダイヤルのプロパティを使う」の をクリックしてします。

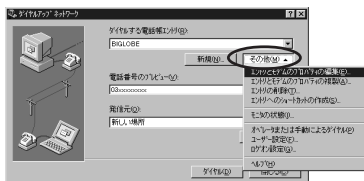
[新しい電話帳のエントリウィザード]画面にもどります。

6 **完了** ボタンをクリックします。



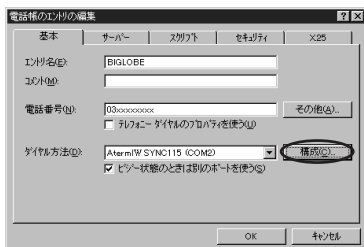
[ダイヤルアップネットワーク]画面にもどります。

7 **その他** ボタンをクリックし、[エントリとモデムのプロパティの編集]を選択します。



[電話帳のエントリの編集]画面が表示されます。

8 **基本** タブをクリックし、設定内容を確認して **構成** ボタンをクリックします。



[モデムの構成]画面が表示されます。

9 「初期速度」を「115200」に設定します。

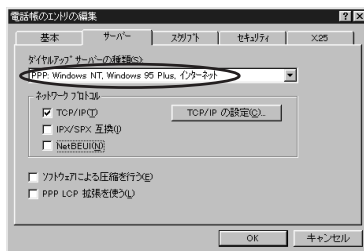


10 「ハードウェアの機能」の「ハードウェアフロー制御を行う」を にします。

11 他は にし、**OK** ボタンをクリックします。

[電話帳のエントリの編集]画面にもどります。

12 [サーバー] タブをクリックし、「ダイヤルアップサーバーの種類」を「PPP: Windows NT, Windows 95 Plus, インターネット」にします。

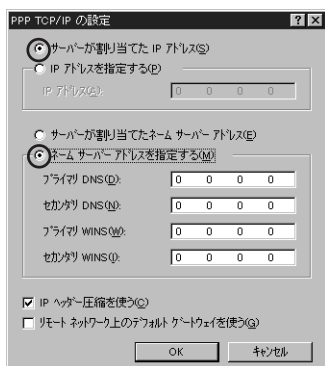


13 「ネットワークプロトコル」の「TCP/IP」を にします。

他は にし、**TCP/IPの設定** ボタンをクリックします。

[PPP TCP/IPの設定]画面が表示されます。

- 14 「サーバーが割り当てた IP アドレス」
「ネームサーバーアドレスを指定する」
を選択します。



- 15 「プライマリ DNS」と「セカンダリ DNS」にプロバイダより指定された IP アドレスを半角で入力します。

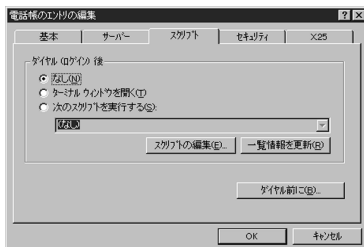
設定内容はプロバイダによって異なります。プロバイダのユーザ情報資料などにしたがって入力してください。

「セカンダリ DNS」はプロバイダから指示がなければ入力しなくても問題ありません。

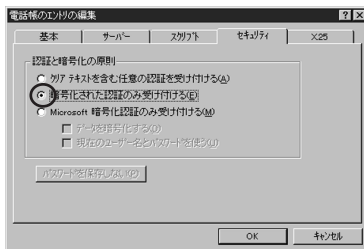
- 16 「IP ヘッダー圧縮を行う」を にし、**OK** ボタンをクリックします。

[電話帳のエントリの編集]画面にもどります。

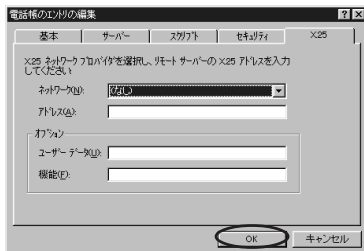
- 17 [スクリプト]タブをクリックし、表示内容が次のようになっていることを確認します。



- 18 [セキュリティ]タブをクリックし、「認証と暗号化の原則」の「クリアテキストを含む任意の認証を受け付ける」または「暗号化された認証のみを受け付ける」を選択します。



- 19 [X25]タブをクリックし、表示内容が次のようになっていることを確認して **OK** ボタンをクリックします。



[ダイヤルアップネットワーク]画面にもどります。

- 20 **閉じる** ボタンをクリックします。
プロバイダの設定が完了します。

無線ポートのデータ発信モードを設定する

IWX70の無線ポートのデータ発信モードを設定します。RS20からインターネットに接続するとき、IWX70の無線ポートのデータ発信モードの設定が必要です。プロバイダのほとんどはISDN同期64Kのアクセスポイントを用意しているため、初期値のままでも発信ができます。非同期アクセスポイントやPIAFSアクセスポイントなどに接続する場合は、無線ポートのデータ発信モードを変更します。

1 **スタート** [プログラム] [Aterm IWX70&RS20 ユーティリティ] [IWX70&RS20らくらくアシスタント]を選択し、『らくらくアシスタント』を起動します。

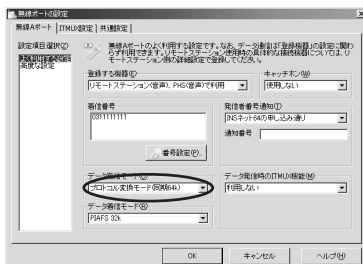
[らくらくアシスタントメニュー]が表示されます。

2 [IWX70&RS20の詳細設定]を選択します。

[ターミナルアダプタの詳細設定]画面が表示されます。

3 設定する無線ポートを選択します。
[無線ポートの設定]画面が表示されます。

4 「データ発信モード」を選択します。



PIAFS スルーモード

子機のPIAFSデータをIWX70で変換せずにそのままINSネット64に送出し、PIAFS対応アクセスポイントやPHSデータ端末と通信します。

プロトコル変換モード(非同期 9.6K/14.4K/19.2K/28.8/38.4K/57.6K)

子機の無線データをIWX70で一時的に終端し、非同期対応アクセスポイントに合わせてデータを変換して通信します。対応する通信速度の中から選択します。

プロトコル変換モード(同期 64K) 子機の無線データをIWX70で一時的に終端し、ISDN同期64Kアクセスポイントに合わせてデータを変換して通信します。(初期値)

5 **OK** ボタンをクリックします。

[ターミナルアダプタの詳細設定]画面にもどります。



「通信モード指定発信」(P.79)を使用して、発信モードを選択することもできます。

7



[ダイヤルアップネットワークモニタ]画面の[状態]タブ内の、**切断** ボタンをクリックします。

8

はい ボタンをクリックします。

INS ネット 64 との接続が切断されます。通信回線が正常に切断されると、IWX70 の液晶ディスプレイに「データセッター」と約 20 秒間表示されます。



切断 ボタンをクリックしても IWX70 または RS20 の液晶ディスプレイにデータ通信中を表す  または  が表示されているときは、通信回線がつながったままになっています。このようなときは IWX70 に接続されている INS 回線ケーブルを抜いて通信回線を強制的に切断してください。なお、INS 回線ケーブルを抜くとすべての通信が切断されるので、電話機などの他の機器が通信中ではないことを確認してから INS 回線ケーブルを抜いてください。

通信相手に接続できなかった場合に IWX70 が同じ番号に自動的に再発信する回数は、最初の発信から数えて 3 分間で 2 回以内に制限されています。この制限内で接続できなかった場合は、時間を置いてから接続し直してください。



アクセスポイントに接続したあとに認証の失敗などでインターネットに接続できなかった場合も、通信料金がかかります。

2

データ通信の機能

インターネット通信やリモートアクセスするときのさまざまな機能と、Atermのメール機能を説明します。

データ通信の機能

Atermのメール機能

Windows® 2000はMicrosoft® Windows® 2000 operating systemの略です。
Windows® 98はMicrosoft® Windows® 98 operating systemの略です。
Windows® 95はMicrosoft® Windows® 95 operating systemの略です。
WindowsNT® 4.0はMicrosoft® WindowsNT® operating system version 4.0の略です。

2-1 . データ通信の機能

IWX70とRS20で使用できるデータ通信機能は次のとおりです。表内の『RS20機能利用』はRS20で利用できる機能です。IWX70では、通信モード指定発信以外のすべての機能が利用できます。



Atermの機能またはINSネット64の基本サービスで利用できる機能で、通話料金以外の課金はありません。



INSネット64の付加サービスで、表に書かれている付加サービスの契約と月額料金が必要です。

= 利用できます × = 利用できません

機能名	目的	必要な付加サービスの契約	RS20機能利用
非同期 / 同期PPP変換	同期PPP接続機能を持たないパソコンから同期アクセスポイントに接続する	¥0 なし	×
128kbpsマルチリンクPPP通信	Bチャンネル2本で高速データ通信をする	¥0 なし	×
リソースBOD	通信状態によって通信速度を64Kと128Kに切り替える	¥0 通信中着信通知サービス	×
スループットBOD		¥0 なし	×
PIAFS通信	PHSとデータ通信する	¥0 なし	
マルチアクセス	2台のパソコンから同時に接続する	¥0 なし	
ITMUX	2台のパソコンからBチャンネル1本で同じプロバイダに同時に接続する	¥0 なし	
通信モード指定発信	子機から通信モードを指定して発信する	¥0 なし	
無通信監視タイマ	一定時間通信がないときに切断する	¥0 なし	
強制切断タイマ	一定時間を超えたら通信を切断する	¥0 なし	
スティルスコールバック	サーバとクライアント間通信でクライアントに通信料金を発生させない	¥0 なし	
応答平均化	複数のAtermの着信応答を平均化する	¥0 なし	×
HLC	高位レイヤ整合性を設定する	¥0 なし	×
CTI機能	発信者番号などをデータポートに送出する	¥0 なし	×

設定のしかた

データ通信の機能は『らくらくアシスタント』またはATコマンドで設定します。『らくらくアシスタント』の使い方は「取扱説明書」(「5-2. 電話機能」)を参照してください。ATコマンドについては、「4. ATコマンド」を参照してください。

本章の読み方

この章では次のアイコンを用いて説明します。



IWX70 に接続したパソコンで利用できる機能をあらわします。



RS20 に接続したパソコンで利用できる機能をあらわします。



データ通信の機能を使うために必要な設定を説明します。各マークのうちろに書かれているところを参照してください。

Windows版の『らくらくアシスタント』の画面を例に説明しています。



Windows搭載のパソコンで設定する場合に参照してください。



Macintosh で設定する場合に参照してください。

同期 PPP (Point to Point Protocol) 接続機能を持たないパソコン (非同期 PPP 接続機能を持つパソコン) から、インターネットプロバイダの ISDN 回線 64kbps (同期) のアクセスポイントに接続します。

 IWX70

設定

通常はインターネット接続の設定をするときに使用する「モデム定義ファイル」(Windows: AtermIW SYNC115、Macintosh: NEC AtermIW 64KPPP) で指定されているので、設定は必要ありません。

AT コマンドで指定する場合は、発信する前に「AT \$ N1=1」と入力します。

.....



お願い

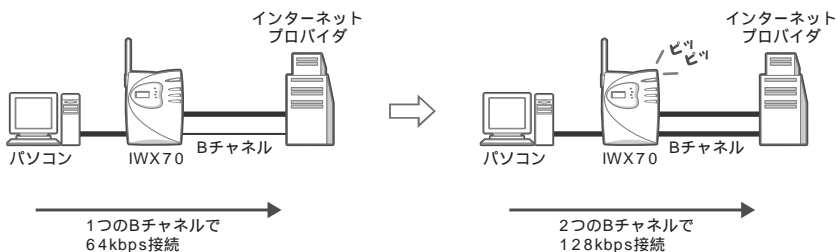
Macintosh でネットワークからの ACCM を許容しない PPP アプリケーションをお使いの場合は、「AT \$ N13=0」コマンドで ACCM を付加しないようにしてください。

(ACCM = Async Control Character Map の略。非同期 PPP 通信で使用する制御キャラクタを 2 バイトのキャラクタに変換するかどうかを決める。)

.....

IWX70

ISDN 回線 128kbps (同期) のアクセスポイントに対して 1 本目の B チャンネルで PPP 接続を完了後もう 1 本の B チャンネルで同様に発信し、128kbps のデータ通信をおこないます。128kbps マルチリンク PPP 通信の状態になると、IWX70 のブザーが「ビッピッ」と鳴ります。



設定

通常はインターネット接続の設定をするときに使用する「モデム定義ファイル」(Windows: AtermIW MP128、Macintosh: NEC AtermIW MP) で指定されているので、設定は必要ありません。

AT コマンドで指定する場合は、発信する前に「AT \$ N11=1」と入力します。



お知らせ

128kbps マルチリンク PPP 通信で発信してもプロバイダのアクセスポイントのポートがあいていない場合は、64kbps の接続になることがあります。

128kbps マルチリンク PPP 通信は B チャンネルを 2 本使用するので、データ通信以外に電話機やファクスを使用することはできません。また、通信料金は B チャンネル 1 本のときの 2 倍かかります。

128kbps マルチリンク PPP 通信をおこなうには、プロバイダ側が認証プロトコルとして PAP (パスワード認証プロトコル) をサポートし、1 本目と 2 本目の B チャンネルのネゴシエーションを同じ値で容認できる必要があります。ほとんどのプロバイダはこれに対応しています。

AtermIW シリーズ、ITX シリーズ、IT75 シリーズ、60/D、65EX シリーズ、65 シリーズ、50DSU、40/D、55 シリーズどうしであれば、128kbps マルチリンク PPP 通信を対向で実行することができます。この場合は発信側と着信側に「AT \$ M8=0」を設定してください。また、受信側では「応答平均化」を使用しないでください。他の機種との 128kbps マルチリンク PPP 対向通信はできません。



IWX70のシリアルポートを使用している場合は、パソコンのシリアルポートの速度を230.4kbpsに設定します。Windows98/Windows95の場合は、230.4kbpsに対応した市販の高速RS-232Cボードを購入してください。Macintoshの場合は230.4kbps対応の機種の場合のみ使用できます。

MacintoshでネットワークからのACCMを許容しないPPPアプリケーションをお使いの場合は、「AT \$ N13=0」コマンドでACCMを付加しないようにしてください。

(ACCM = Async Control Character Mapの略。非同期PPP通信で使用する制御キャラクタを2バイトのキャラクタに変換するかどうかを決める。)

INS ネット 64 は 1 本分の契約で B1 チャンネル、B2 チャンネルの 2 つの B チャンネルが同時に利用できます。BOD 機能を使用すると通信状態やデータ量によって B チャンネルの数を切り替えて、効率のよいデータ通信をおこなうことができます。

(BOD = Bandwidth On Demand)

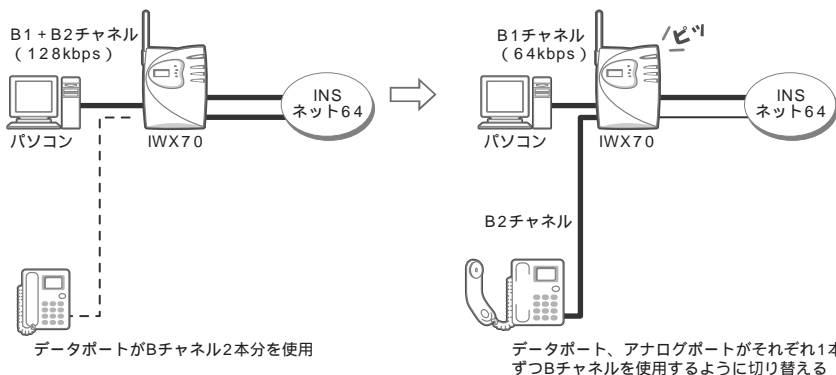


リソース BOD

128kbps マルチリンク PPP 通信中にアナログポートに接続している電話機に発信または着信があると、データ通信で使用している 2 本の B チャンネルの 1 つを削除して電話機が使用できるようにします。通話が終了すると 128kbps マルチリンク PPP 通信にもどります。



INS ネット 64 の「通信中着信通知サービス」を契約します。月額料金はかかりません。



設定

『らくらくアシスタント』で設定します。

① [ターミナルアダプタの詳細設定] 画面で IWX70 を接続しているデータポートを選択します。

[データポートの設定] 画面が表示されます。

- ② 「設定項目選択」で「MP・BOD機能」を選択します。
MP・BOD機能を設定する画面になります。

- ③ 「リソースBODを行う」をクリックして にします。



- ④ [OK] ボタンをクリックします。

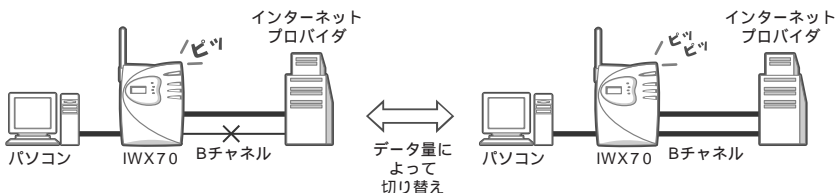
[ターミナルアダプタの詳細設定]画面にもどります。



Bチャンネルの1つが削除されたときや通信終了時には「ピッ」と音が鳴ります。2つ目のBチャンネルが追加されたときは「ピッピッ」と音が鳴ります。接続するプロバイダの回線状況によっては、電話終了後に2つ目のBチャンネルを追加できないことがあります。その場合は電話機の受話器を上げて2秒ほど待ってから受話器をもどすと、再度Bチャンネルの追加がおこなわれます。2つ目のBチャンネルの追加と電話をかけるタイミングが重なると、電話が話し中になることがあります。その場合は再度電話をかけ直してください。リソースBODとスループットBODの両方を設定した場合、スループットがしきい値以上になったときだけBチャンネルが追加されます。電話を切ったあとでも条件が合わなければBチャンネルは追加されません。リソースBODを利用して128kbpsマルチリンクPPP通信中に、IWX70前面のファンクションボタンを使って通信速度を切り替える「マニュアルBOD」が使用できます。(「取扱説明書」の「6-1. ファンクションボタンでIWX70を操作する」) リソースBODを利用すると128kbpsマルチリンクPPP通信中に64K同期通信の発信をすることができます。

スループットBOD

128kbps マルチリンク PPP 通信中に、通信データの量によって使用する B チャンネルの数を変更します。通信データ量が少ないときは 1 つの B チャンネルを使用し、データ量が多いときだけ 2 つの B チャンネルを使用します。B チャンネルを追加することを「リンク追加」、B チャンネルを削除することを「リンク削除」といいます。リンク追加・削除をおこなう条件として、しきい値と算出時間を設定します。



設定

『らくらくアシスタント』で設定します。

- ① [ターミナルアダプタの詳細設定] 画面で IWX70 を接続しているデータポートを選択します。
[データポートの設定] 画面が表示されます。
- ② 「設定項目選択」で「MP・BOD 機能」を選択します。
MP・BOD 機能を設定する画面になります。
- ③ 「スループット BOD」で「使用する」を選択し、リンク追加・削除をおこなう算出時間としきい値を指定します。



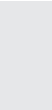

「しきい値」は回線利用率 (%) で指定します。

$$\text{回線利用率(\%)} = (\text{一定時間のデータ量の平均値}) \div (\text{回線の最大データ量}) \times 100$$

$$\text{回線の最大データ量} = 64\text{kbps} (= 8\text{kbps/秒})$$

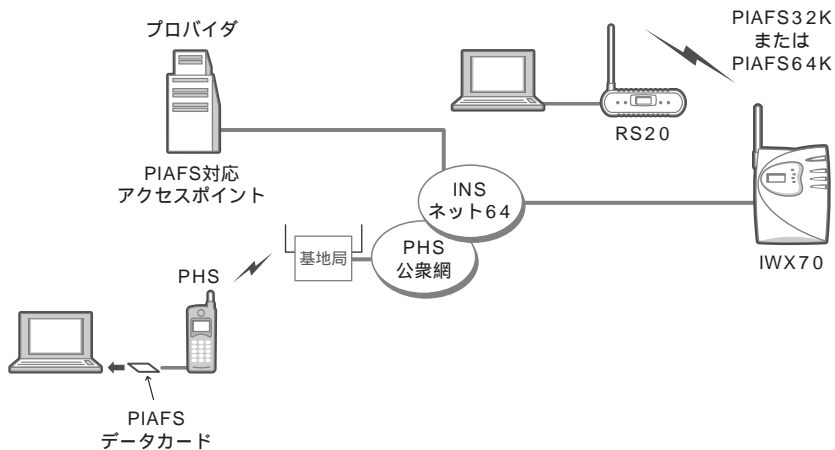
例 リンク追加算出時間 = 30 秒、リンク追加しきい値 = 70% のとき

30 秒間の回線利用率が 70% より大きくなったとき (30 秒間のデータ量の平均値が 44.8kbps より大きくなったとき) B チャンネルを追加

- 
- ④  ボタンをクリックします。
[ターミナルアダプタの詳細設定] 画面にもどります。

PIAFS (ピアフ) 通信

IWX70またはRS20に接続されたパソコンからPHSを接続したノートパソコンなどにダイヤルアップ接続し、データの送受信をおこなうことができます。PIAFS (ピアフ) とは PHS で高品質なデータ通信を実現するために標準化された規格です。IWX70、RS20 は PIAFS 2.0 版、PIAFS 2.1 版に対応しており、PHS 公衆網とINS ネット 64 を介して PIAFS32K 通信、PIAFS64K 通信ができます。



PHS から着信する

PIAFS モードで着信があった場合は、IWX70 または RS20 が自動的に通信モードを判別して PIAFS 通信をおこないます。

IWX70 で発信する

次の 2 つの方法があります。

ダイヤルアップ接続のモデムの種類を次のように選択します。

Windows

モデム定義ファイルを「AtermIW PIAFS32」または「AtermIW PIAFS64」に設定します。

取扱説明書 「3-3. らくらくアシスタントで簡単に設定する」

PIAFS 対応アクセスポイントを選択すると、自動的にモデム定義、ファイルが設定されます。

Macintosh

CCL ファイルを「NEC AtermIW 32kPIAFS」または「NEC AtermIW 64kPIAFS」に設定します。

取扱説明書 「4-3. らくらくアシスタントで簡単に設定する」

ダイヤルアップ接続のモデムの種類を同期 64K のものにし、接続のときに相手先の電話番号の末尾に PIAFS32K 通信の場合は「PF」、PIAFS64K (PIAFS2.0) 通信の場合は「PD」、PIAFS64K (PIAFS2.1) 通信の場合は「PP」を付けて発信します。

RS20 で発信する

次の2つの方法があります。

IWX70のデータ発信モードを「PIAFSスルーモード」に設定して、RS20のダイヤルアップ接続のモデムの種類を下記のとおりを選択します。

Windows

モデム定義ファイルを次のように設定します。

PIAFS64K	「AtermRS Air64K (DualLINK)」
PIAFS32K (圧縮あり)	「AtermRS Air32K (Compress)」
PIAFS32K (圧縮なし)	「AtermRS Air32K (Direct)」

取扱説明書 「3-3. らくらくアシスタントで簡単に設定する」

PIAFS対応アクセスポイントを選択すると、自動的にモデム定義、ファイルが設定されます。

Macintosh

CCL ファイルを次のように設定します。

PIAFS64K	「NEC AtermRS DualLINKS」
PIAFS32K (圧縮あり)	「NEC AtermRS Compress」
PIAFS32K (圧縮なし)	「NEC AtermRS Direct」

取扱説明書 「4-3. らくらくアシスタントで簡単に設定する」

ダイヤルアップ接続のモデムの種類を同期64Kのものにし、接続のときの相手先の電話番号を次のように指定します。

PIAFS32K 通信	「電話番号」の末尾の場合は「PF」を付けて発信
PIAFS64K 通信	「電話番号」の末尾の場合は「PD」を付けて発信



Windows98の場合は「市外局番とダイヤルのプロパティ」のチェックボックスがになっていると、正しく発信できないことがあります。その場合はチェックボックスをクリックして にして発信してください。

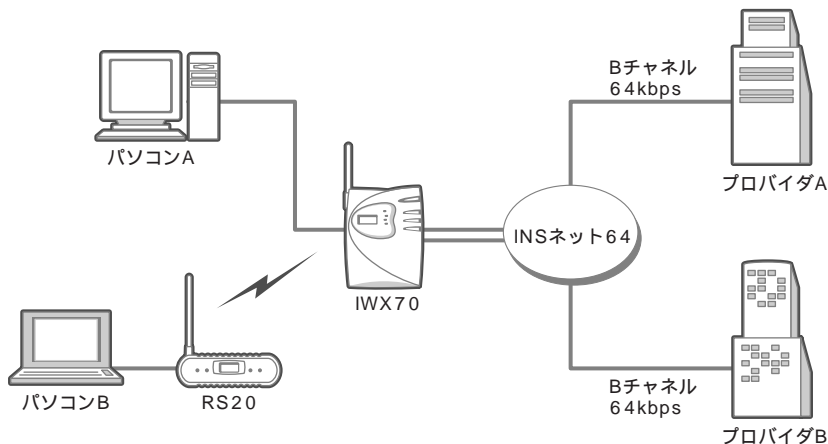
PIAFS64K通信をおこなう場合は、発信者番号通知をするように設定してください。(「取扱説明書」の「5-2. 電話機能」)



PIAFS (PHS Internet Access Forum Standard) は、高品質なデータ通信方式のために標準化された規格です。

マルチアクセス

2台のパソコンから別々のプロバイダに同時に接続することができます。パソコン1台につき1つのBチャンネルを使用し、それぞれ最高64kbpsの速度で接続します。



使い方

- 1 1台目のパソコンから64kbps同期でダイヤルアップ接続します。
1本目のBチャンネルを使って、64kbpsで接続します。
- 2 2台目のパソコンから64kbps同期でダイヤルアップ接続します。
2本目のBチャンネルを使って、64kbpsで接続します。

ダイヤルアップ接続のモデムの種類を選択し、通常どおりにダイヤルアップ接続をおこないます。



マルチアクセスはBチャンネルを2本使用するので、通信料金はBチャンネル1本のときの2倍かかります。

マルチアクセスはBチャンネルを2本とも使用するので、マルチアクセス通信中に電話機やファクスを使うことはできません。着信があった場合は、話し中になります。利用可能な通信モードは、64kbps 同期、非同期（シリアルポートのみ）、PIAFS32K/PIAFS64K通信です。

1本目と2本目の通信モードが非同期通信どうし、またはPIAFS32K/PIAFS64K通信どうしの組み合わせだとマルチアクセスはできません。

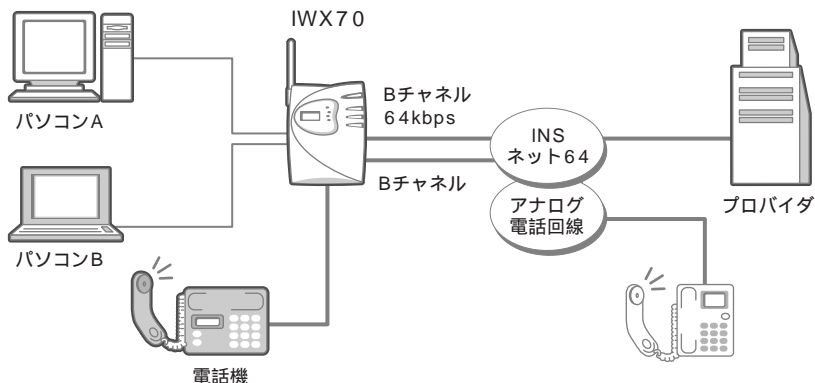
非同期通信とPIAFS32K/PIAFS64K通信の組み合わせでマルチアクセスをおこなうと十分な通信速度が得られなかったり、回線に接続できないことがあります。マルチアクセス中はチャンネル数を自動的に切り替える「BOD機能」は使用できません。

128kbps マルチリンク PPP 通信中は、マルチアクセス通信は使用できません。着信の場合もマルチアクセスが使用できます。その場合、シリアルポートとUSBポートのどちらに優先的に着信させるかを指定することができます。



マルチアクセスを利用するときは、同期（ISDN用）アクセスポイントに接続してください。

1つのユーザIDで2台のパソコンから同じプロバイダに同時に接続します。Bチャンネル1本で2台のパソコンを同時に接続するので1本分の通信費で接続ができ、あいているもう1本のBチャンネルで電話やファクスが使用できます。



使い方

次のいずれかの方法で接続します。

ATコマンドの「ATD」(ダイヤル発信)コマンドで、電話番号の末尾に「PA」(64kbps)または「PB」(128kbps)を付けて発信します。

Windowsの場合は『らくらくアシスタント』の[インターネット接続の設定]で「ITMUX機能を使用する」を選択し、作成された[ダイヤルアップ]アイコンで接続します。

設定

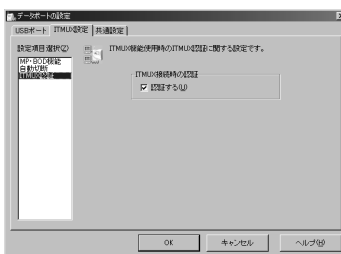
『らくらくアシスタント』で設定します。

Windows

取扱説明書 「3-3. らくらくアシスタントで簡単に設定する」

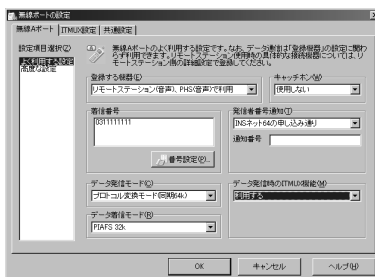
設定を変更する場合は以下のように設定します。

- ① [ターミナルアダプタの詳細設定] 画面で設定するデータポートまたは無線ポートを選択します。
[データポートの設定] または [無線ポートの設定] 画面が表示されます。
- ② [ITMUX 設定] タブをクリックします。
- ③ 「設定項目選択」で「ITMUX 認証」を選択し、「認証する」をクリックして にします。



無線ポートの場合は次の設定をおこないます。

- ④ [無線 A ポート] タブをクリックし、「データ発信時の ITMUX 機能」で「利用する」を選択します。



- ⑤ 「設定項目選択」の「MP・BOD 機能」「自動切断」で必要な設定をします。
- ⑥ ボタンをクリックします。
[ターミナルアダプタの詳細設定] 画面にもどります。



お知らせ

2台のパソコンは同じアクセスポイントに接続し、同じアカウント(ユーザID)、パスワードでログインします。2台目のパソコンが接続したアクセスポイントが1台目と異なっていると、ITMUX機能は使用できません。

ITMUXが利用できる通信モードは同期64K、または128KマルチリンクPPP接続の場合です。

無線ポートからITMUXを利用する場合は、プロトコル変換モード(同期64K)のみ使用できます。

無線ポート(RS20)の自動切断の設定は、RS20の[データポートの設定]の「タイマ」で設定します。

Macintoshの場合は『RS20らくらくユーティリティ』の[データポートの設定]で設定します。

増設登録したPHS電話機でITMUXを利用する場合は、前ページの設定をしてPHS電話機でダイヤルした番号の最後に「2」(同期64K)、「3」(同期128K)のどちらかのサブアドレスを付けて発信します。サブアドレスのダイヤルのしかたはPHS電話機の取扱説明書を参照してください。または、前ページの無線ポートの「データ発信時のITMUX機能」で「常時利用する(同期64K通信時)」または「常時利用する(同期128K通信時)」を設定して、常にITMUX機能を利用するように設定することもできます。

スティルスコールバック、USBネットワークを使用しているときはITMUXは使用できません。

ネットワークゲームなどのアプリケーションは動作しないことがあります。

PPP接続のときのプロバイダ側の認証プロトコルは、PAP(パスワード認証プロトコル)のみです。VJC、MS-CBCP、MLPPP、CCPは使用できません。



お願い

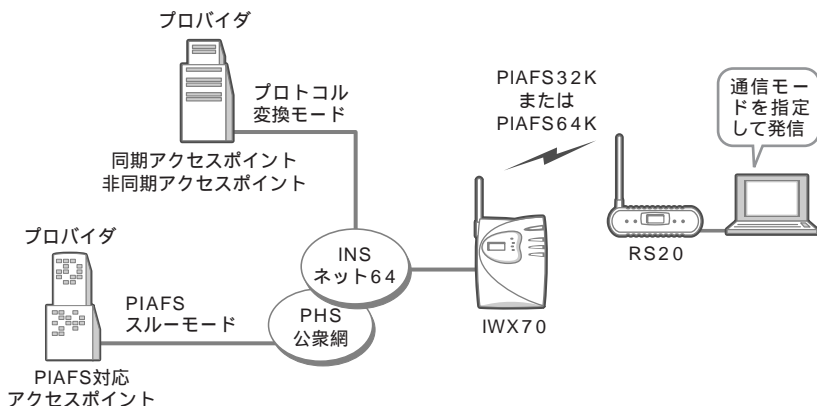
1台目のパソコンの接続が正しく完了したことを確認してから、2台目のパソコンで発信をしてください。

家族会員など、同じアクセスポイントに接続するけれども、異なるユーザIDで接続する場合は、「ITMUX接続時の認証」で「認証する」を に設定してください。

通信モード指定発信

子機から通信モードを指定して発信することができます。通常、IWX70がRS20などの子機から受け取ったデータをどのような通信方式でINS ネット64に発信するかは、IWX70の無線ポートの「データ発信モード」で設定します。しかし、このIWX70に設定されている通信モードを変更しないでRS20から通信モードを指定して発信することもできます。一時的にPIAFS対応アクセスポイントや非同期アクセスポイントに接続したいときなどに利用すると便利です。「通信モード指定発信」で発信したときだけ通信モードが変更できます。IWX70側の設定は必要ありません。

RS20



設定

ATコマンドの「ATD」(ダイヤル発信)コマンドで、発信先の電話番号のあとに以下の通信モードのコードを指定します。

通信モード		PIAFS32K	PIAFS64K (デュアルリンク)
PIAFSスルー		P0	D0
プロトコル変換	非同期9.6kbps	P1	D1
	非同期19.2kbps	P2	D2
	非同期28.8kbps	P3	D3
	非同期38.4kbps	P4	D4
	非同期48kbps	P5	D5
	非同期57.6kbps	P6	D6
	同期64kbps	P7	D7

例 電話番号 03-1111-2222 に PIAFS32K、PIAFS スルーで接続する場合
ATD0311112222P0

例 電話番号 03-7777-8888、サブアドレス 99 に PIAFS64K (デュアルリンクワイヤレス通信)、同期 64K で接続する場合
ATD0377778888 * 99D7 (*はサブアドレスセパレータ)



「ATD」(ダイヤル発信)コマンドで指定できるコマンドは、上記以外に次のものがあります。

通信モード	コード	発信可能
デュアルリンクワイヤレス通信	DL	IWX70・RS20
ITMUX (64Kモード)	PA	IWX70・RS20
ITMUX (128Kモード)	PB	IWX70・RS20
PIAFS32K	PF	IWX70
PIAFS64K (PIAFS2.0)	PD	IWX70
PIAFS64K (PIAFS2.1)	PP	IWX70・RS20

RS20 で指定可能な DL、PA、PB、PP は IWX70 に指定されている無線ポートの通信モードにしたがって INS ネット 64 に発信されます。
PIAFS64K のデュアルリンクワイヤレス通信は NEC 独自の通信方式です。



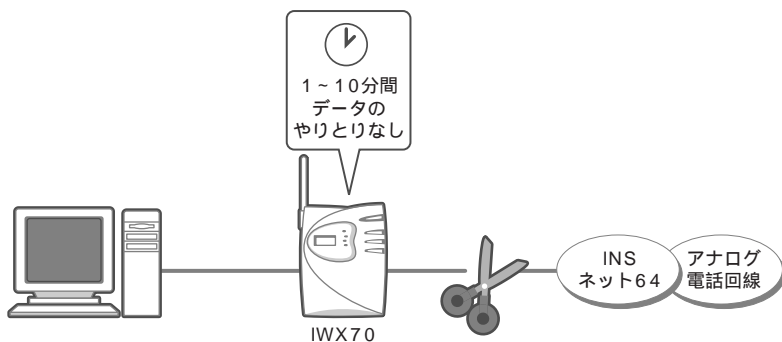
通信モードについては、「取扱説明書」(「5-1. ワイヤレス通信機能」)を参照してください。

無通信監視タイマ

通信状態を監視し、一定時間データのやりとりがないと自動的に通信を切断します。アクセスしていない間によけいな通信料金がかかることを防ぎます。

IWX70

RS20



設定

『らくらくアシスタント』で設定します。

IWX70の場合

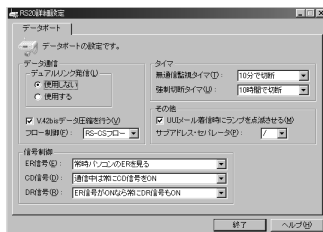
- ① [ターミナルアダプタの詳細設定]画面で設定するIWX70のデータポートを選択します。
[データポートの設定]画面が表示されます。
- ② 「設定項目選択」で「自動切断」を選択します。
- ③ 「無通信監視タイマ」で、監視する時間を1～10分の中から選択します。



- ④ **OK** ボタンをクリックします。
[ターミナルアダプタの詳細設定]画面にもどります。

RS20 の場合

- ① [ターミナルアダプタの詳細設定] 画面で RS20 のデータポートを選択します。
[RS20 詳細設定] 画面が表示されます。
- ② 「タイマ」の「無通信監視タイマ」で監視する時間を 1 ~ 10 分の中から選択します。



- ③ **終了** ボタンをクリックします。
[ターミナルアダプタの詳細設定] 画面にもどります。



お知らせ

RS20をMacintoshに接続している場合は『RS20らくらくユーティリティ』で設定します。

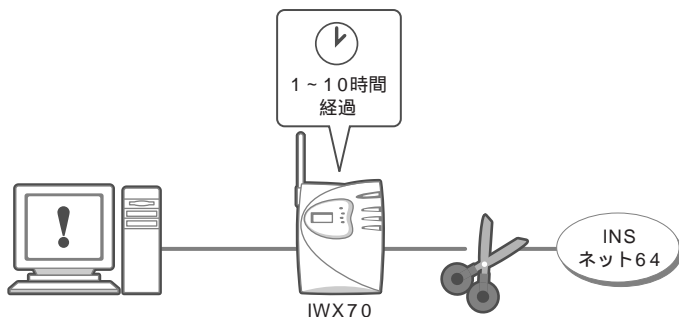


お願い

MacintoshでOpen Transport PPPを使用している場合やプロバイダによっては、監視パケットなどを定期的に発信している場合があります。その場合は無通信監視タイマは無効となり、通信は切断されません。パソコンから切断操作をおこなってください。

強制切断タイマ

設定した通信時間を超えると強制的に通信を切断します。パソコンでの切断操作を忘れるなど、よけいな通信料金がかかることを防ぎます。定期的に監視データを発信するので、無通信監視タイマが利用できないプロバイダとの接続の場合でも、切断忘れを防ぐことができます。

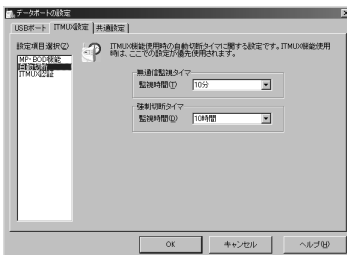


設定

『らくらくアシスタント』で設定します。

IWX70 の場合

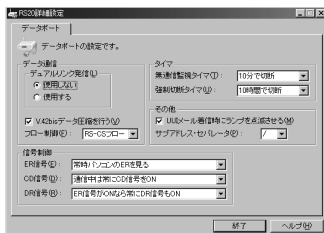
- ① [ターミナルアダプタの詳細設定] 画面で設定する IWX70 のデータポートを選択します。
[データポートの設定] 画面が表示されます。
- ② 「設定項目選択」で「自動切断」を選択します。
- ③ 「強制切断タイマ」で、切断までの時間を 1 ~ 10 時間の中から選択します。



- ④ **OK** ボタンをクリックします。
[ターミナルアダプタの詳細設定] 画面にもどります。

RS20 の場合

- ① [ターミナルアダプタの詳細設定] 画面で RS20 のデータポートを選択します。
[RS20 詳細設定] 画面が表示されます。
- ② 「タイマ」の「強制切断タイマ」で切断までの時間を 1 ~ 10 時間の中から選択します。



- ③ **終了** ボタンをクリックします。
[ターミナルアダプタの詳細設定] 画面にもどります。



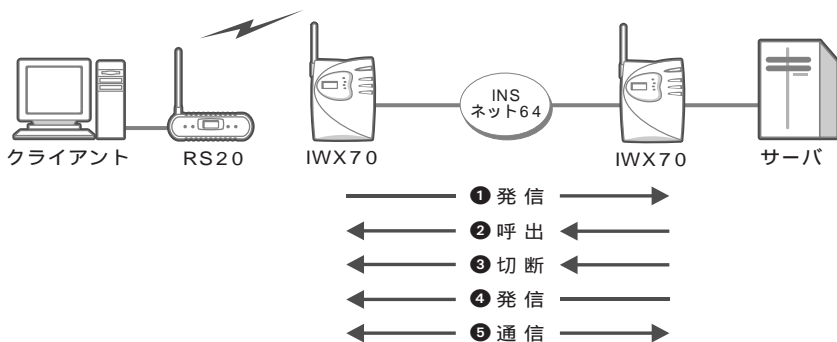
RS20をMacintoshに接続している場合は『RS20らくらくユーティリティ』で設定します。

スティルスコールバック

Atermを使用したダイヤルアップサーバやRASサーバなどリモートクライアントのネットワークで、クライアントから発信するとサーバが接続をいったん切断してサーバからクライアントへ発信し直します。電話料金はサーバ側にかかるので、クライアント側には通信料金がかりません。

IWX70

RS20



データ通信の機能

2-1 データ通信の機能

設定

クライアント（発信）側の設定

① IWX70 を設定します。

① [ターミナルアダプタの詳細設定] 画面でパソコンを接続したデータポートまたは無線ポートを選択します。

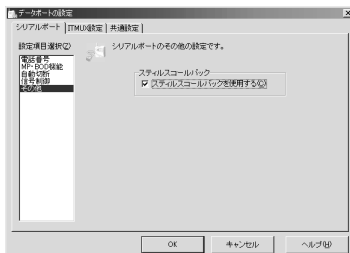
[データポートの設定] 画面が表示されます。

無線ポートを選択した場合は [無線ポートの設定] 画面が表示されます。

② 「設定項目選択」で「その他」を選択します。

無線ポートの場合は「高度な設定」を選択します。

③ 「スティルスコールバックを使用する」(無線ポートの場合は「スティルスコールバックを行う」)をクリックして にします。



画面はシリアルポートを選択したときの例です。

- ④ 「設定項目選択」で「電話番号」を選択します。
無線ポートの場合は「使用する設定」を選択します。
- ⑤ 「発信者番号通知」で「番号通知を行う」を選択します。



画面はシリアルポートを選択したときの例です。

- ② クライアントが接続された IWX70 または RS20 の設定をします。
 - ① AT コマンドで「RS-CS フロー制御あり」(初期値)に設定します。
AT コマンド AT¥Q=3
 - ② AT コマンドで「自動応答」(初期値は RING1 回で自動応答)に設定します。
AT コマンド ATS0=1

サーバ(着信)側の設定

- ① IWX70 を設定します。
 - ① 「クライアント側の設定」と同じ設定をします。
 - ② サーバを待ち受け状態(ER 信号を ON)にします。

発信のしかた

IWX70 ダイヤルアップネットワークで電話番号の末尾に「CB」を付けて発信します。
RS20 ダイヤルアップネットワークで電話番号の末尾に「/1」を付けて発信します。

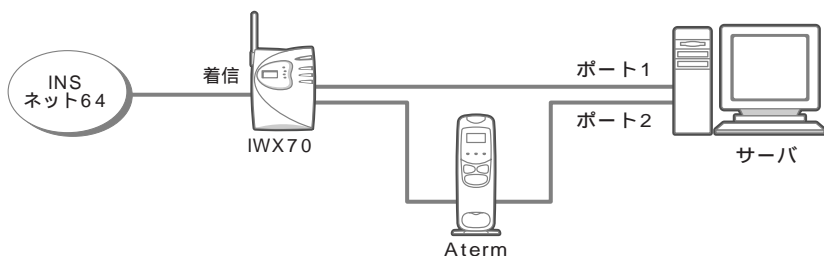


Aterm シリーズの IWX70、IT21L、ITX シリーズ、IW50/D、IT75 シリーズ、60L シリーズ、60/D、40/D、65EX シリーズ、65 シリーズ、50DSU、55 シリーズ、45 シリーズ、25DSU、IW60 シリーズ(子機モード)、IB55Pro/II、IC20 で利用できます。
スタイルスコールバックが実行されたかどうかは、通信後にクライアント側の累積通信料金が加算されていないことで確認できます。
インターネットに接続したり、電話の発信は通常どおり実行できます。
アナログポートでは使用できません。



クライアント側の同一回線内に複数のターミナルアダプタが接続されている場合は、Aterm が指定されるようにサブアドレスやダイヤルラインを利用してください。指定されていないと、サーバがかけ直したときに他のターミナルアダプタが応答することがあります。

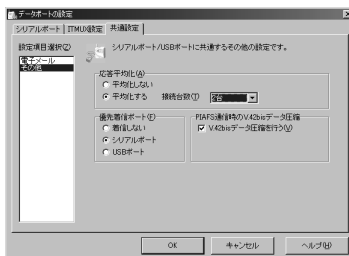
1本のINS ネット64回線に複数のAtermが接続されている場合に、各Atermへの着信応答を平均化します。サーバに複数のAtermが接続されている場合、クライアントからサーバにアクセスがあるとサーバの全ポートが着信してその中で早く応答したポートがクライアントと通信状態になります。そのため遅く応答したポートは着信から切断復旧までの間、次の着信を受けることができません。応答平均化を利用するとサーバの各ポートに交互に着信させることができますので、サーバへの無効な着信や接続の失敗を防ぐことができます。



設定

『らくらくアシスタント』で設定します。シリアルポートとUSBポートに共通の設定です。

- ① [ターミナルアダプタの詳細設定]画面でシリアルポートまたはUSBポートのどちらかを選択します。
[データポートの設定]画面が表示されます。
- ② [共通設定]タブをクリックします。
- ③ 「設定項目選択」で「その他」を選択します。
データポートに共通の設定をする画面になります。
- ④ 「応答平均化」で「平均化する」を選択し、「接続台数」に接続しているAtermの台数を入力します。



5  ボタンをクリックします。

[ターミナルアダプタの詳細設定] 画面にもどります。



Aterm シリーズの IWX70、IT21L、ITX シリーズ、IW50/D、IT75 シリーズ、60L、60/D、40/D、65EX シリーズ、65 シリーズ、50DSU、55 シリーズ、45 シリーズ、25DSU、IW60 シリーズ、IB55Pro/II、IC20 で利用できます。アナログポート、無線ポートに対しては使用できません。

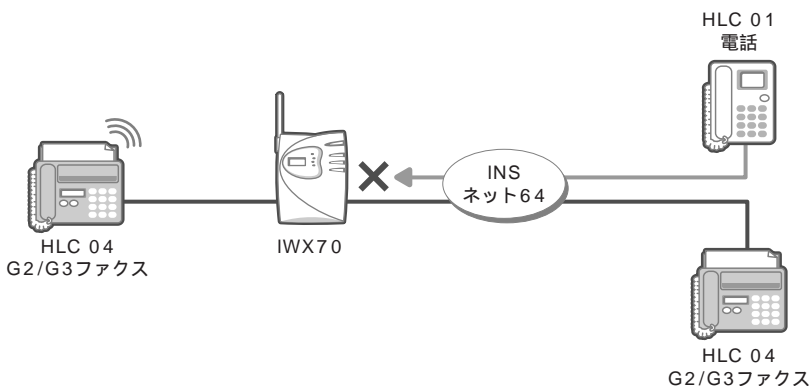


同一回線内に接続されているすべてのAtermに応答平均化を設定してください。設定されていないAtermがあると、正しく動作しません。

IWX70に接続したパソコンやアナログ通信機器の種別をHLCに設定し、HLCが一致する相手とだけ通信をおこないます。発信時はIWX70が自動的にHLCを付けて発信し、着信時は発信者からのHLCを照合して一致するときだけ通信を実行します。相手がINSネット64に加入している場合だけ利用できます。



例 HLCが04に設定されている場合



HLCコード

HLCコードは次のとおりです。IWX70のアナログポートに接続された機器は、「HLCを設定する」に設定すると、電話機は「01」、ファクスまたはモデムには「04」のHLCコードが自動的に設定されます。データポートにはHLCコードを任意に設定できます。

HLCコード	接続機器の種別
01	電話
04	G2/G3ファクス
33	G4ファクス
36	ミックスモード
49	テレテックス
50	ビデオテックス
53	テレックス
56	メッセージ処理システム (MHS)
65	OSIアプリケーション

設定

『らくらくアシスタント』で設定します。

- ① [ターミナルアダプタの詳細設定] 画面で設定する IWX70 のデータポートを選択します。

[データポートの設定] 画面が表示されます。

- ② 「HLCを設定する」をクリックして にし、HLC コードを任意に入力します。



- ③ **OK** ボタンをクリックします。

[ターミナルアダプタの詳細設定] 画面にもどります。

お知らせ

ファクス付電話機のように、相手が電話でもファクスでも着信を受け付けたいときは「HLCを設定するが着信判定しない」に設定します。「着信判定する」に設定されていると、相手がINS ネット 64 に接続された電話機またはファクスの場合に着信できないことがあります。

相手からの着信でHLCがない場合、通常は受け付けますが、Aterm アナログポートに接続する機器の設定が「FAXやモデムを接続する」になっていると着信は受け付けません。

CTI(コンピュータ・テレフォニー・インテグレーション)機能は、着信時に通知される情報をコンピュータで処理するなど、電話機とコンピュータを統合的に利用する機能のことです。IWX70のCTI機能は、アナログポートに通知される着信情報に含まれる発信者番号などを、着信時にデータポートにリザルトコードで送出します。

IWX70

RING ANALOG発信者番号 / 発信者サブアドレス 着番号 / 着信サブアドレス
(最大32桁) (最大19桁) (最大32桁) (最大19桁)

非通知理由を受信したときは、発信者番号 / 発信者サブアドレスのかわりに、以下の形式でリザルトコードを送出します。

RING ANALOG [非通知理由] 着番号 / 着信サブアドレス
P : ユーザ拒否
C : 公衆電話発信
O : サービス提供不可
S : サービス競合

設定

AT コマンドで「AT\$A16=1」を入力し、「CTIモードを使用する」に設定します。



お知らせ

サブアドレスセパレータの「/」と、リザルトコードの最後に付加される「CR」「LF」は固定です。

i・ナンバーを使用しているときは、着信番号のかわりにi・ナンバー情報に対応した電話番号が表示されます。



お願い

リザルトコードについては「4・ATコマンド」を参照してください。

2-2 . Aterm のメール機能

INS ネット 64 の基本サービス「ユーザ間情報通知サービス (UII)」と Aterm のメール機能を組み合わせてメールサービスが利用できます。

メール機能とは

Aterm で利用できるメールサービスは次の 3 種類です。

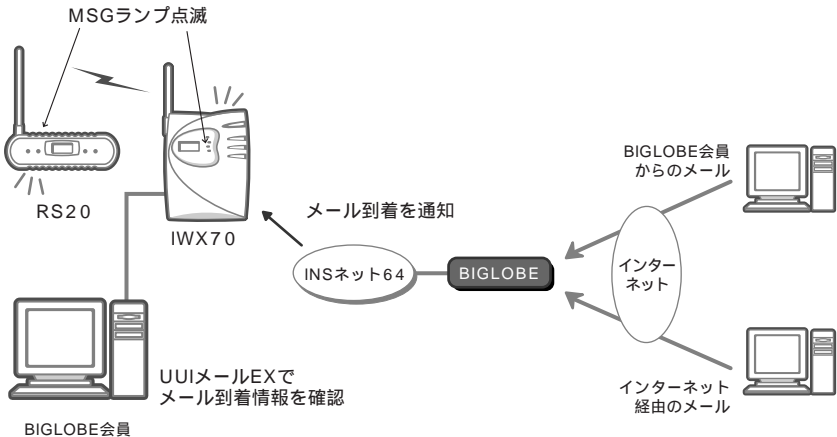
電子メール着信通知

BIGLOBE に電子メールが届くと、IWX70 または RS20 の MSG ランプが点滅して電子メールの到着を知らせます。BIGLOBE にアクセスしなくてもメールの着信が確認できるので、メールの確認のためにパソコンを起動したり、インターネットにアクセスする手間がはぶけます。

またユーティリティソフト『UIIメールEX』を使うと、電子メールの送信者 (from: 先頭 10 バイト)、件名 (Subject: 先頭 100 バイト) をパソコンに表示させることができます。さらに BIGLOBE 側の設定で通知する条件などを設定することで、必要なメールの到着だけに限定して通知することもできます。

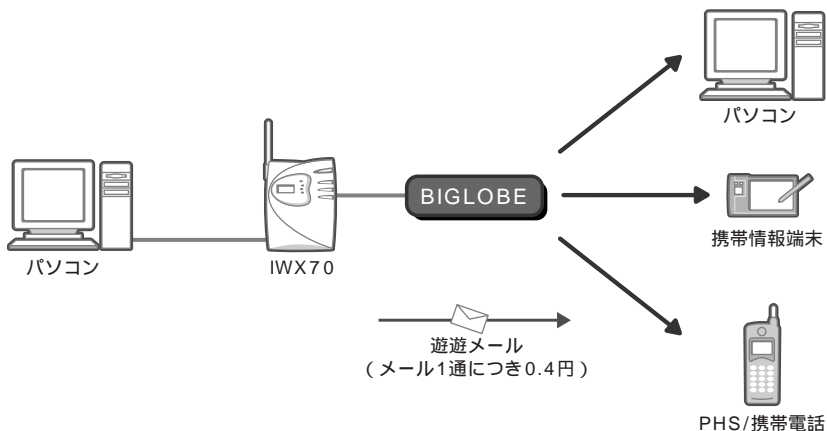


BIGLOBE に加入契約をし、メールオプションの申し込みをします。(有料)
すでに BIGLOBE 会員の方はメールオプションだけを申し込んでください。



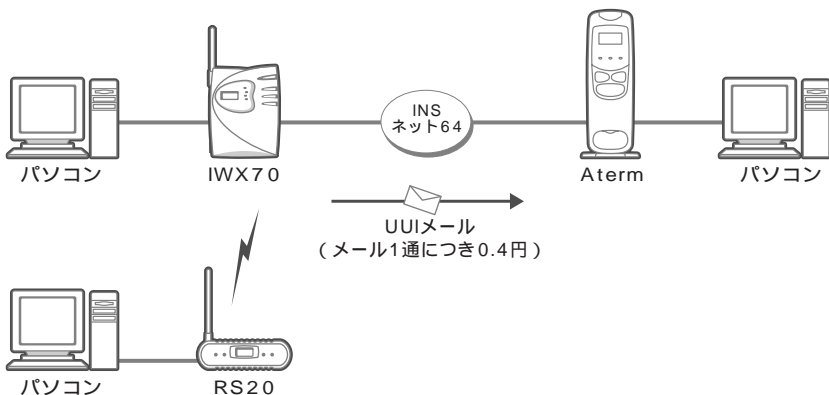
遊遊メール（UUIメール変換サービス）
BIGLOBEにUUIメールを送信すると、BIGLOBEのサーバが電子メールの形式に変換してインターネット上に送信します。電子メールでの呼び出しやメッセージ送信ができるPHS電話機、携帯電話、携帯情報端末（PDA）などのショートメッセージサービスを利用することもできます。また、IWX70に接続した電話機のプッシュボタンでメッセージを送信することもできます。

¥ BIGLOBEに加入契約をし、メールオプションの申し込みをします。（有料）
すでにBIGLOBE会員の方はメールオプションだけを申し込んでください。



UUIメール
プロバイダやパソコン通信サービスを経由せずに、IWX70またはRS20と相手側のAterm間で直接メールを送受信することができます。

¥0 「ユーザ間情報通知サービス」を「着信許可」と申し込みます。（無料）



メール機能を利用するには

Atermのメール機能を利用するには、以下の申し込みとツール、Atermの設定が必要です。

必要な申し込み

利用するメール機能によって、INS ネット 64 の基本サービスの契約とBIGLOBEのメールオプションを次のように申し込みます。

申し込み	メールサービス	電子メール 着信通知	遊遊メール	UIIメール
INSネット64 基本サービス	ユーザ間情報通知	着信許可		
	発信者番号通知	-	通常通知（通話ごと非通知）または 通常非通知（回線ごと非通知）*1	
	通信中着信通知	申込推奨 *2		
BIGLOBE		BIGLOBEの加入と メールオプションの申込（有料）*3		-

- *1 「通常非通知」を契約している場合は『らくらくアシスタント』の設定で、データポートの発信者番号通知を「行う」に設定します。
- *2 「通信中着信通知」を申し込むと、Bチャンネル2本を使った通信中でもUIIメールの着信を受け付けることができます。
- *3 BIGLOBEのメールオプションや申し込みについては下記を参照してください。

BIGLOBE ホームページ

<http://www.biglobe.ne.jp/>（平成12年6月現在）

BIGLOBE メールオプションの設定

<http://www.biglobe.ne.jp/blmail/>（平成12年6月現在）

使用するツール

IWX70に接続されている電話機のプッシュボタンで操作したり、添付CD-ROM『Aterm IWX70 シリーズユーティリティ集』に収録されている『UIIメールEX』を使用してメール機能を利用します。

メールサービス ツール		RS20対応	電子メール 着信通知	遊遊メール	UIIメール
UIIメールEX			*1	*2	
電話機	テレホン UIIメール	x	x	x	
	テレホン 遊遊メール	x	x	*2	x

- *1 BIGLOBE で設定した「通知表示名」の登録が必要です。
- *2 BIGLOBE のID 登録が必要です。



『BIGLOBE』は NEC が運営するインターネットプロバイダです。

『UIIメールEX』についてはCD-ROMにHTML形式のオンラインマニュアルが収録されています。CD-ROMの「UIIメールEX」フォルダ内の「index.htm」ファイルをブラウザで開くと、UIIメールEXの使い方などの詳しい説明を見ることができます。

Atermの設定

設定

データポートに発信者通知番号と着信番号を設定します。Atermのメール機能をIWX70で利用するか、RS20で利用するかによって設定が異なります。以下の手順はWindows98搭載のパソコンで設定する場合を例に説明します。Macintoshの場合は一部の手順と画面が異なります。

① 『らくらくアシスタント』を起動します。

② [らくらくアシスタントメニュー]で[ターミナルアダプタの詳細設定]を選択します。(「取扱説明書」の「3-3.らくらくアシスタントで簡単に設定する」・「4-3.らくらくアシスタントで簡単に設定する」)

[ターミナルアダプタの詳細設定]画面が表示されます。

Macintoshの場合は[IWX70らくらくアシスタント]画面で[データポートの詳細設定]を選択し、④に進みます。

③ IWX70を接続しているデータポート(シリアルポートまたはUSBポート)を選択します。



シリアルポートとUSBポートに共通の設定です。

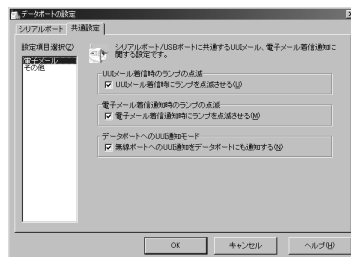
[データポートの設定画面]が表示されます。

④ [共通設定]タブをクリックします。

⑤ 「データポートへのUII通知モード」の「無線ポートへのUII通知をデータポートにも通知する」を指定します。

IWX70で利用する場合は にします。

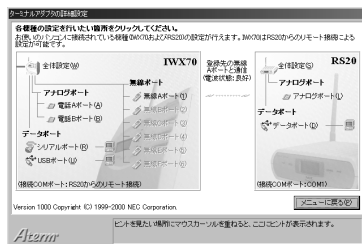
RS20で利用する場合はクリックして にします。



⑥ OK ボタンをクリックします。

[ターミナルアダプタの詳細設定]画面にもどります。

⑦ RS20を接続しているデータポートを選択します。

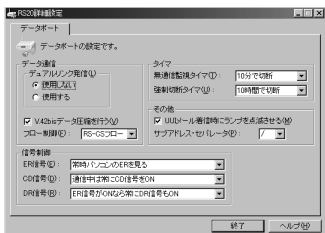


[RS20の詳細設定]画面が表示されます。

Macintoshの場合は[RS20らくらくユーティリティ]を起動し、[データポート設定]タブをクリックします。

- ⑧ 「その他」の「UIメール着信時にランプを点滅させる」を指定します。

IWX70 で利用する場合はクリックして にします。
RS20 で利用する場合は にします。



- ⑨ **終了** ボタンをクリックし、 **はい** ボタンをクリックします。

[ターミナルアダプタの詳細設定]画面にもどります。



この設定をおこなっても、テレホン UI メールが着信したときは通知されません。

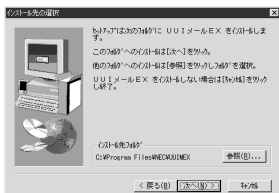
Windows で UII メール EX を使う

Windows98搭載のパソコンにIWX70を接続した場合の手順を例に説明します。RS20を接続した場合の手順も同様です。

UII メール EX のインストール

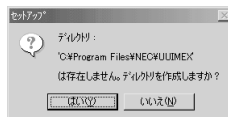
『UIIメールEX』をパソコンのハードディスクにインストールし、使用できるようにします。

- 1 パソコンを起動します。
ほかのアプリケーションソフトを使用しているときは、そのアプリケーションを終了します。
- 2 添付CD-ROM『AtermIWX70シリーズユーティリティ集』をパソコンにセットします。
[らくらくセットアップガイド]のメニュー画面が表示されます。
- 3 [セットアップガイドを見ないでインストール]をクリックします。
インストーラ集が表示されます。
- 4 [UIIメールEXのインストール]をクリックします。
[インストール先の選択]画面が表示されます。
- 5 UIIメールEXのインストール先を指定します。
表示されているインストール先でよければそのままにします。変更する場合は [参照] ボタンをクリックし、インストール先を指定します。



- 6 次へ ボタンをクリックします。

次の画面が表示された場合は
はい ボタンをクリックします。



- 7 UIIメールEXを登録するプログラムフォルダ名を指定し、次へ ボタンをクリックします。

プログラムフォルダ名を変更する場合はフォルダ名を入力するか「既存のフォルダ」から選択します。



インストールが始まります。

[コンポーネントの選択]画面が表示されます。

- 8 「スタートアップに登録する」が になっていることを確認し、次へ ボタンをクリックします。



「スタートアップに登録する」が になっていると、パソコンを起動したときにUIIメールEXが自動的に起動します。

[セットアップの完了]画面が表示されます。

9

「今すぐUIメールEXを起動する」が になっていることを確認して **終了** ボタンをクリックします。



「README.TXTを参照する」を しておく、メモ帳が起動してUIメールEXについての説明が表示されます。内容を確認したらメモ帳を終了します。

タスクトレイに[UIメールEX]アイコンが表示されます。



10

CD-ROM ドライブのアクセスランプが消えたのを確認し、CD-ROMを取り出します。

UIメールEX の環境設定をする

メール機能の環境を設定します。

1

タスクトレイの「UIメールEX」アイコンを右クリックします。

2

[環境設定] を選択します。



[環境設定] 画面が表示されます。

[UIメールEX]画面の[環境設定]アイコンをクリックした場合も同様です。

3

[メール着信通知] [UIメール] [遊遊メール] の中から利用するメールサービスのタブをクリックします。

メール着信通知



メール到着検出時にポップアップする にすると、電子メールが到着したことをパソコンの画面上で知らせます。

参照 ボタン

「利用するメールソフト」を設定するときにクリックします。使用する電子メールソフトを選択します。

利用するメールソフト

参照 ボタン

で指定した電子メールソフトが表示されます。電子メールソフトを指定していない場合は空欄です。

メール通知設定

電子メール着信通知をするときの名前を次の手順で登録します。

- ① 名前を登録する欄をクリックし、**登録** ボタンをクリックします。

[名前登録]画面が表示されます。「サービスプロバイダ」には「BIGLOBEメール」と表示されます。

- ② 「名前」に電子メールが着信したときに表示する自分の名前を入力します。

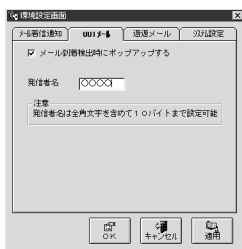


- ③ 「通知表示名」にBIGLOBEのメールオプション設定で入力した通知表示名と同じ名前を入力します。

- ④ **OK** ボタンをクリックします。

複数のメール通知設定を登録する場合は **適用** ボタンをクリックしてから **OK** ボタンをクリックして[環境設定]を終了し、再度①～③をくり返します。

UIIメール



メール到着検出時にポップアップする にすると、電子メールが到着したことをパソコンの画面上で知らせます。

発信者名

メールを発信するときの名前を任意に入力します。

遊遊メール



BIGLOBE-ID
BIGLOBEのIDを入力します。

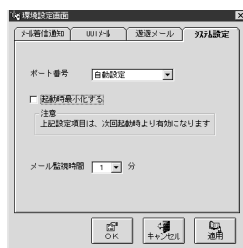
発信者番号通知

発信者番号通知の電話番号が表示されていることを確認します。表示されていないときは、『らくらくアシスタント』で契約者回線番号を設定してください。

- ④ [システム設定]タブをクリックします。

[システム設定]画面が表示されます。

- ⑤ 共通の設定をします。



ポート番号

IWX70またはRS20が接続されているCOMポートを指定します。「自動設定」を選択すると、UIIメールEXを起動したときに自動的にCOMポートが検出されます。

起動時最小化する

にすると、UIIメールEXの初期画面を起動したときに最小化します。

メール監視時間

メール到着を何分おきに確認するかを設定します。

- ⑥ **適用** ボタンをクリックしてから **OK** ボタンをクリックします。

アドレス帳に登録する

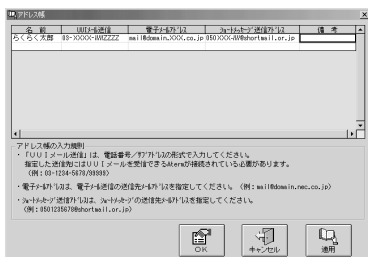
メールを送信する相手をアドレス帳に登録します。

- 1 タスクトレイの「UIメールEX」アイコンを右クリックし、[アドレス帳]を選択します。

[UIメール送信]画面の **アドレス帳** ボタンをクリックした場合も同様です。

[アドレス帳]画面が表示されます。

- 2 登録する欄をクリックし、アドレスを入力します。



名前
送信相手の名前を入力します。

UIメール送信

UIメール送信をする相手の電話番号を入力します。サブアドレスがある場合は「/」を入力してからサブアドレスを入力します。

電子メールアドレス

電子メール送信をする相手の電子メールアドレスを入力します。

備考

備考が必要なおきに入力します。

- 3 **適用** ボタンをクリックします。

続けて登録するときは、**1** ~ **3** を繰り返します。

- 4 **OK** ボタンをクリックします。

[UIメール送信]画面にもどります。

メールを送信する

- 1 タスクトレイの「UIメールEX」アイコンを右クリックし、[UIメール送信][電子メール送信][ショートメッセージ送信]の中から利用するメール送信サービスを選択します。

UIメール送信

プロバイダを経由せずに、Aterm どうして直接メールを送信します。

電子メール送信

遊遊メールで電子メールを送信します。

ショートメッセージ送信

遊遊メールでメッセージ送信ができるPHS電話機、携帯電話、携帯情報端末などにショートメッセージを送信します。

以降は「UIメール送信」を例に説明します。

[UIメール送信]画面が表示されます。

- 2 「利用サービス」が **1** で選択したメール送信サービスになっていることを確認します。



- 3 **追加** ボタンをクリックします。
[宛先選択]画面が表示されます。

- ④ 送信する相手をクリックし、**OK** ボタンをクリックします。



[UIメール送信] 画面にもどります。

アドレス帳に登録されていない送信先を直接入力するときは、**手入力** ボタンをクリックし、宛先を入力して **OK** ボタンをクリックします。

複数の相手に同じ内容のメールを送信する場合は、③ ~ ④ をくり返します。

- ⑤ 発信者名が表示されていることを確認します。

「UIメール送信」のときは環境設定のUIメールの「発信者名」に入力した名前が表示されます。「電子メール送信」「ショートメッセージ送信」のときは、環境設定の遊遊メールの「BIGLOBE-ID」が表示されます。

- ⑥ 送信するメッセージを入力します。

メッセージ入力欄の上に入力可能文字数(半角)が表示されるので、その範囲内で入力します。

あらかじめ保存してあるメッセージを送信するときは **差込ファイル** ボタンをクリックし、メッセージが保存されているファイルを指定します。

- ⑦ **送信** ボタンをクリックします。

メールの送信が実行され、送信結果(「送信完了」または「送信失敗」)が表示されます。

- ⑧ IWX70またはRS20 前面のSD/RDランプが消灯していることを確認し、**OK** ボタンをクリックします。

着信した電子メールを見る

BIGLOBE に電子メールが届くとIWX70またはRS20 前面のMSGランプがオレンジ色に点灯します。UIメールEXが起動しているときは、タスクトレイの[UIメールEX]アイコンも点滅します。

電子メール着信通知

[新着メール通知] 画面が表示されるので **はい** ボタンをクリックします。[メール参照] 画面でメールの「From」と「Subject」が確認できます。

UIメール

タスクトレイの[UIメールEX]アイコンを右クリックし、[UIメール受信]を選択し、メールの表題を確認します。



インターネットに接続しているときはIWX70またはRS20が接続されているパソコンのCOMポートまたはUSBポートが使用中なので、UIメールEXを起動することはできません。

MacintoshにIWX70を接続した場合の手順を例に説明します。RS20を接続した場合の手順も同様です。

UIメールEXのインストール

『UIメールEX』をMacintoshのハードディスクにインストールし、使用できるようにします。


- 1 Macintoshを起動します。
ほかのアプリケーションソフトを使用しているときは、そのアプリケーションを終了します。
- 2 添付CD-ROM『AtermIWX70シリーズユーティリティ集』をMacintoshにセットします。
CD-ROMのウィンドウが開くので、ウィンドウ内の「らくらくセットアップガイド」アイコンをダブルクリックします。ウィンドウが表示されないときはCD-ROMアイコンをダブルクリックします。
- 3 「セットアップガイドを見ないでインストール」をクリックします。
- 4 [UIメールEXのインストール]をクリックします。
画面にしたがってインストールをおこないます。
- 5 CD-ROMを取り出します。

メール機能の環境を設定します。

- 1 ハードディスクの[UIメールEX]フォルダをダブルクリックします。
- 2 [UIメールEX]アイコンをダブルクリックします。



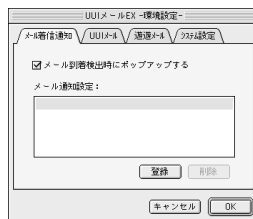
- 3 「まず初めに、環境設定を行ってください。」と表示されるので、[OK] ボタンをクリックします。

すでに環境設定をしてある場合は、[UIメールEX]画面のをクリックします。

[UIメールEX - 環境設定 -]画面が表示されます。

- 4 [メール着信通知] [UIメール] [遊遊メール]の中から利用するメールサービスのタブをクリックします。

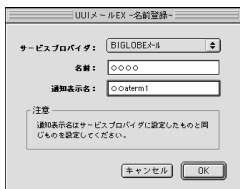
メール着信通知



メール到着検出時にポップアップする にすると、電子メールが到着したことをパソコンの画面上で知らせます。

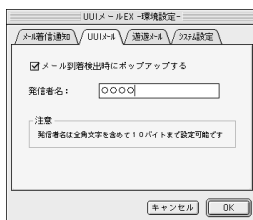
登録 ボタン

[名前登録]画面が表示されます。



「名前」に電子メール着信通知をするときの名前を入力し、「通知表示名」にBIGLOBEのメールオプション設定で入力した通知表示名と同じ名前を入力します。

UIIメール

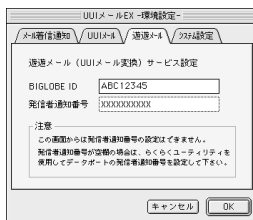


メール到着検出時にポップアップする にすると、電子メールが到着したことをパソコンの画面上で知らせます。

発信者名

メールを発信するときの名前を任意に入力します。

遊遊メール



BIGLOBE-ID

BIGLOBEのIDを入力します。

発信者番号通知

発信者番号通知の電話番号が表示されていることを確認します。表示されていないときは、『らくらくアシスタント』で契約者回線番号を設定してください。

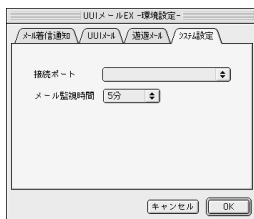
5

[システム設定]タブをクリックします。

[システム設定]画面が表示されます。

6

共通の設定をします。



接続ポート

IWX70またはRS20が接続されているポート(モデムポートまたはプリンタポート、USBポート)を選択します。

メール監視時間

メール到着を何分おきに確認するかを設定します。

7


OK ボタンをクリックします。

[UIIメールEX]画面にもどります。

アドレス帳に登録する

メールを送信する相手をアドレス帳に登録します。

- 1 ハードディスクの [UII メール EX] フォルダ内の [アドレス帳] アイコンをダブルクリックします。

UII メール EX が起動中の場合は、UII メール EX 画面の  ボタンをクリックします。

[UII メール EX - アドレス帳 -] 画面が表示されます。

- 2  ボタンをクリックします。



[UII メール EX - アドレス帳の編集 -] 画面が表示されます。

- 3 登録する欄をクリックし、アドレスを入力します。




名前
送信相手の名前を入力します。

UII メールアドレス
UII メール送信をする相手の電話番号を入力します。サブアドレスがある場合は「/」を入力してからサブアドレスを入力します。

電子メールアドレス
電子メール送信をする相手の電子メールアドレスを入力します。


ショートメッセージアドレス
ショートメッセージ送信をおこなう相手のアドレスを入力します。

- 4  ボタンをクリックします。
[UII メール EX - アドレス帳 -] 画面にもどります。
続けて登録するときは、3 ~ 4 を繰り返します。
- 5 クローズボックスをクリックし、アドレス帳ウィンドウを閉じます。


メールを送信する

- 1 ハードディスクの [UII メール EX] フォルダ内の [UII メール EX] アイコンをダブルクリックします。
[UII メール EX] 画面が表示されます。

- 2 ツールバーの中から利用するメール送信サービスのボタンをクリックします。


 UII メール
プロバイダを経由せずに、Aterm どうして直接メールを送信します。

 電子メール
遊遊メールで電子メールを送信します。

 ショートメッセージ
遊遊メールでメッセージ送信ができる PHS 電話機、携帯電話、携帯情報端末などにショートメッセージを送信します。

以降は「電子メール送信」を例に説明します。

[UII メール EX - メール送信 -] 画面が表示されます。

- 3  ボタンをクリックします。
[宛先選択] 画面が表示されます。



- ④ 送信する相手をクリックし、**OK** ボタンをクリックします。

[UIIメールEX - メール送信 -]画面にもどります。

アドレス帳に登録されていない送信先を直接入力するときは、**手入力** ボタンをクリックし、宛先を入力して**OK** ボタンをクリックします。

複数の相手に同じ内容のメールを送信する場合は、③ ~ ④ をくり返します。

- ⑤ 発信者名が表示されていることを確認します。

「UIIメール送信」のときは環境設定のUIIメールの「発信者名」に入力した名前が表示されます。「電子メール送信」「ショートメッセージ送信」のときは、環境設定の遊遊メールの「BIGLOBE-ID」が表示されます。

- ⑥ 「メッセージ」に送信するメッセージを入力します。

メッセージ入力欄の左に入力可能文字数(半角)が表示されるので、その範囲内で入力します。

あらかじめ保存してあるメッセージを送信するときは、**差込** ボタンをクリックし、メッセージが保存されているファイルを指定します。

- ⑦ **送信** ボタンをクリックします

メールの送信が実行され、送信結果(「送信完了」または「送信失敗」)が表示されます。

- ⑧ IWX70またはRS20 前面のSD/RDランプが消灯していることを確認し、**OK** ボタンをクリックします。

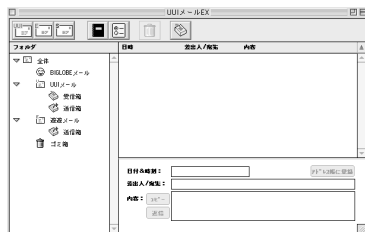
着信した電子メールを見る

BIGLOBE に電子メールが届くとIWX70またはRS20 前面のMSGランプがオレンジ色に点灯し、「新着メールがあります。」とパソコンに表示されます。

- ① **OK** ボタンをクリックします。

- ② 「UIIメールEX」を起動します。

電子メール着信通知の一覧が表示され、メールの内容が確認できます。



お知らせ

インターネットに接続しているときはIWX70またはRS20が接続されているモデム(プリンタ)ポートまたはUSBポートが使用中なので、UIIメールEXを起動することはできません。電子メール着信通知サービスの設定が正しくないと、MSGランプは点滅しません。

テレホンUIメールを使うには

IWX70 の液晶ディスプレイを見ながら、IWX70 のアナログポートに接続した電話機のプッシュボタンを使ってメールを送信します。



テレホンUIメールの送信

Aterm を持っている相手に電話機から UI メールを送信します。
ご利用の前に INS ネット 64 の契約内容が次のようになっているか確認してください。
必須項目の「ユーザ間情報通知サービス」が「着信許可」になっているか。
付加機能項目「月額使用料(無料)」の「通信中着信通知サービス」を申し込んでいるか。

使い方

- 1 IWX70 のアナログポートに接続されている電話機の手話器を上げます。
- 2 電話機のプッシュボタンで **[*][*][2][*][1][*]** と押します。
- 3 相手の電話番号を押します。
前回発信した電話番号に発信する場合は、電話番号のかわりに **[*][3]** を押します。
- 4 **[#]** を押します。
- 5 サブアドレス (最大 15 桁) を指定します。
サブアドレスを付ける場合: **[*]** サブアドレス **[#]**
サブアドレスを付けない場合: **[#]**
- 6 **[#][*]** を押してからメッセージを入力します。
メッセージは数字と **[*]** の組み合わせで押します。(「メッセージの作成のしかた」P.113)

例 ケ`ンキテ`スカ?

[2][4][0][4][0][3][2][2][4][4][0][4][3][3][2][1][6][7]
ケ ` ン キ テ ` ス カ ?

[*][3] を押すと前回のメッセージが表示されます。

メッセージとして入力できる文字数は 100 文字以内です。これを超えるとエラー通知音 (ピッピッ) が鳴り、それ以降に入力した文字は無視されます。

7 を押します。

メッセージの送信を中断するときは、最後の を押す前に受話器を置きます。
IWX70 の液晶ディスプレイに「ソウシンシマシタ」と表示されます。
送信が失敗したときは「ソウシンシッハ`イサイソウシンシテクタ`サイ」と表示されます。

8 受話器を置きます。



送信が失敗したときなど、もう一度同じ内容を送信するときは、受話器を上げて を押してから受話器を置きます。
なお再送信ができるのはテレホンUUIメール、テレホン遊遊メールの中で直前に実行した 1 つだけです。

受信したUUIメールを見る

UUIメールを受信するとIWX70前面のMSGランプがオレンジ色に点滅します。受信したUUIメールはIWX70に50件まで保存でき、液晶ディスプレイにメールの内容を表示することができます。

使い方

① IWX70のアナログポートに接続されている電話機の手話器を上げます。

② 電話機のプッシュボタンで **＊ ＊ 2 ＊ 2 ＊** と押します。

③ 表示するメールの番号 **0 1 ~ 5 0** を押します。

このとき次の操作ができます。

- ① 次ページ表示
- ② メール番号の確認
- ③ 次のメールを表示
- ④ 前のメールを表示
- ⑤ メール番号の選択にもどる
- ＊ ＊** 表示中のメールを削除

表示しようとしたメールに全角文字が含まれていると「PCメールテ`ス」と表示されます。全角文字が含まれているメールは、パソコンの「UUIメールEX」を使用して内容を確認してください。

④ **＊** を押してから手話器を置きます。

お知らせ

受信メールには01から順に番号が付きます。

受信メールが50件を超えると古いメールから削除され、メール番号は1つずつずれます。

テレホン遊遊メールを使うには

IWX70 の液晶ディスプレイを見ながら、IWX70 のアナログポートに接続した電話機のプッシュボタンを使ってメールを送信します。

IWX70

ご利用の前に次の点を確認してください。

BIGLOBE の加入とメールオプション「遊遊メールサービス」の申し込み
インターネットプロバイダ『BIGLOBE』に加入し、メールオプションの「遊遊メールサービス」を申し込みます。

BIGLOBE の ID 番号の登録

BIGLOBE に接続するときの ID 番号(ユーザ名)をあらかじめ IWX70 に登録しておきます。

発信者番号通知の設定

INS ネット 64 の発信者番号通知を「通常非通知」と契約している場合は、『らくらくアシスタント』の設定でデータボートの発信者番号通知を「行う」に設定します。(「取扱説明書」の「5-2. 電話機能」)

携帯情報端末 / PHS / 携帯電話のドメイン名の登録





携帯情報端末や PHS、携帯電話にテレホン遊遊メールを送信するときは、携帯情報端末、PHS、携帯電話のドメイン名をあらかじめ IWX70 に登録しておきます。

(「携帯情報端末 / PHS / 携帯電話のドメインネームの登録」 P.110)

BIGLOBE の ID 番号の登録

テレホン遊遊メールは BIGLOBE のサーバを介して、携帯情報端末や電子メールの送信先にメッセージを送ります。テレホン遊遊メールを利用する前に BIGLOBE に接続するときの ID 番号(ユーザ名)を登録します。

使い方

-  IWX70 のアナログポートに接続されている電話機の手話器を上げます。
-  電話機のプッシュボタンで *** * 8 5 * 8 5 *** と押します。
-  BIGLOBE の ID 番号(ユーザ名)を押します。
「メッセージの作成のしかた」(P.113)を見て文字コードを押します。
-  **# #** を押してから手話器を置きます。

携帯情報端末 / PHS / 携帯電話のドメイン名の登録

テレホン遊遊メールで携帯情報端末、PHS 電話機、携帯電話へショートメッセージを送信するときのドメイン名（組織名）とサーバ名を IWX70 に登録します。

使い方

① IWX70 のアナログポートに接続されている電話機の手受器を上げます。

② 電話機の手受器ボタンで *** * 8 4** と押します。

③ ドメイン名を登録する短縮番号 **0 1** ~ **0 8** を押します。

ここで登録した短縮番号はテレホン遊遊メールを送信するときには、次のように押します。

短縮番号 01 *** * 3 1**

短縮番号 08 *** * 3 8**

④ ***** を押してからドメイン名を押します。

「メッセージの作成のしかた」(P.113) を見て文字コードを押します。

ドメイン名は 40 文字まで入力できます。

⑤ **# *** を押してからサーバ名を押します。

サーバ名は 12 文字まで入力できます。

サーバ名はテレホン遊遊メールの送信のときに *** * 3 1** ~ *** ***
3 8 を押すと、IWX70 の液晶ディスプレイに表示されます。任意に入力することができますが、入力しなくても問題ありません。

⑥ **# #** を押してから手受器を置きます。

テレホン遊遊メールの送信（携帯情報端末 / PHS / 携帯電話への送信）

BIGLOBE の「遊遊メールサービス」を利用して、電話機から携帯情報端末や PHS 電話機、携帯電話あてにショートメッセージを送信します。

使い方

① IWX70 のアナログポートに接続されている電話機の手受器を上げます。

② 電話機の手受器ボタンで *** *** と押します。

- ③ 登録してあるドメイン名の番号 ③ ① ~ ③ ⑧ を押します。
- ④ * を押してから相手の携帯情報端末、PHS、携帯電話の番号を押します。
前回発信した電話番号に発信する場合は、電話番号のかわりに * ③ を押します。
パスワードがある場合は、電話番号に続けてパスワードを押します。
パスワードで「_」を入力するときは * ⑨ ① を押します。
- ⑤ # を押してからメッセージを押します。
メッセージは数字と * の組み合わせで押します。(「メッセージの作成のしかた」P.113)
* ③ を押すと前回のメッセージが表示されます。
メッセージとして入力できる文字数は98文字以内です。これを超えるとエラー通知音(ビッピッ)が鳴り、それ以降に入力した文字は無視されます。
- ⑥ # # を押します。
メッセージの送信を中断するときは、最後の # を押す前に受話器を置きます。
IWX70の液晶ディスプレイに「ソウシンシマシタ」と表示されます。
送信が失敗したときは「ソウシンシハ`イサイソウシンシテクタ`サイ」と表示されます。
- ⑦ 受話器を置きます。



お知らせ

送信が失敗したときなど、もう一度同じ内容を送信するときは、受話器を上げて * ③ ⑨ # を押してから受話器を置きます。
なお再送信ができるのはテレホンUUIメール、テレホン遊遊メールの中で直前に実行した1つだけです。

テレホン遊メールの送信（電子メールへの送信）

BIGLOBEの遊メールサービスを利用して、電話機から電子メールアドレスに電子メールを送信します。

使い方

- 1 IWX70のアナログポートに接続されている電話機の手話器を上げます。
- 2 電話機の手話ボタンで **[*][*][4][1]** と押します。
[4][1] のかわりに [4][2] を押すと、短縮番号にあらかじめ登録してあるメールアドレスを入力することができます。（「電子メールアドレスの登録」P.115）
- 3 **[*]** を押してから送信相手のメールアドレスを入力します。
メールアドレスは数字と **[*]** の組み合わせで入力します。（「メッセージの作成のしかた」P.113）
[2] で [4][2] を押した場合は、メールアドレスを登録した短縮番号 **[1] ~ [9]** を押します。
- 4 **[#][*]** を押してからメッセージを押します。
メッセージは数字と **[*]** の組み合わせで押します。（「メッセージの作成のしかた」P.113）
[*][3] を押すと前回のメッセージが表示されます。
メッセージとして入力できる文字数は98文字以内です。これを超えるとエラー通知音（ビッピッ）が鳴り、それ以降に押した文字は無視されます。
例 ケ`ンキテ`スカ？
[2][4][0][4][0][3][2][2][4][4][0][4][3][3][2][1][6][7]
ケ ` ン キ テ ` ス カ ？
- 5 **[#][#]** を押します。
メッセージの送信を中断するときは、最後の **[#]** を押す前に手話器を置きます。
IWX70の液晶ディスプレイに「ソウシンシマシタ」と表示されます。
送信が失敗したときは「ソウシンシッハ`イサイソウシンシテクタ`サイ」と表示されます。
- 6 手話器を置きます。



送信が失敗したときなど、もう一度同じ内容を送信するときは、手話器を上げて **[*][*][4][9][#]** を押してから手話器を置きます。
なお再送信ができるのはテレホンUIメール、テレホン遊メールの中で直前に実行した1つだけです。

メッセージの作成のしかた

電話機のプッシュボタンを使って送信するメッセージやメールアドレスを入力します。送信できる文字は以下の「文字コード」にあるカタカナ、アルファベット、数字、一部の記号です。またIWX70に登録してある定型文や自分で登録しておいた文章を組み合わせるとメッセージを作成することもできます。

文字コード

コード	文字	コード	文字	コード	文字	コード	文字	コード	文字	コード	文字
11	ア	51	ナ	91	ラ	36	K	76	¥	**	訂正
12	イ	52	ニ	92	リ	37	L	77	&	*1	頁めくり
13	ウ	53	ヌ	93	ル	38	M	78	—	*2	-
14	エ	54	ネ	94	レ	39	N	79	,	*3	前データ
15	オ	55	ノ	95	ロ	30	O	70	%	*4	[
21	カ	61	ハ	01	ワ	46	P	86	*	*5	大/小文字
22	キ	62	ヒ	02	ヲ	47	Q	87	#	*6]
23	ク	63	フ	03	ン	48	R	88	空白	*8	空白
24	ケ	64	ヘ	04	＊	49	S	89	.	*91	—
25	コ	65	ホ	05	°	40	T	80	@	*92	;
31	サ	71	マ	16	A	56	U	96	1		
32	シ	72	ミ	17	B	57	V	97	2		
33	ス	73	ム	18	C	58	W	98	3		
34	セ	74	メ	19	D	59	X	99	4		
35	ソ	75	モ	10	E	50	Y	90	5		
41	タ	81	ヤ	26	F	66	Z	06	6		
42	チ	82	(27	G	67	?	07	7		
43	ツ	83	ユ	28	H	68	!	08	8		
44	テ	84)	29	I	69	-	09	9		
45	ト	85	ヨ	20	J	60	/	00	0		

英字の大文字 / 小文字の切り替え
 文字入力 数字入力の切り替え
 数字入力 文字入力の切り替え
 定型文の入力

5
 8
 2 2
 0 5 定型文コード

定型文コード

コード	メッセージ	コード	メッセージ	コード	メッセージ
10	テ`ンワクタ`サイ	20	シキユ!	30	自作メッセージ
11	オクレマス	21	OKテ`ス	59	
12	ハソコウシマス	22	NGテ`ス		
13	チュウシテ`ス	23	シュウコ`ウ!		
14	サキコカエリマス	24	マッテテ!		
15	ルステ`ソアリ	25	ナニシテル?		
16	ジ`カンテ`ス	26	ト`コニル?		
17	ジ`タク	27	イマイカ`シ		
18	カイシャ	28	コ`メンナサイ		
19	カ`ッコウ	29	アリカ`トウ		

入力例

例 ゲ`ンキテ`スカ?

24 04 03 22 44 04 33 21 67
 ケ ` ン キ テ ` ス カ ?

例 Happy!

28 *5 16 46 46 50 68
 H (小文字切替) a p p y !

例 マチアワセハ6シ`

71 42 11 01 34 61 88 *8
 マ チ ア ワ セ ハ (空白×数字切替)
 06 *2*2 32 04
 6 (文字切替) シ `

例 定型文10「テ`ンワクタ`サイ」

*0510

自作メッセージの登録

定型文コード 30 ~ 59 に自分で作ったメッセージを登録しておくことができます。

使い方

① IWX70 のアナログポートに接続されている電話機の手話器を上げます。

② 電話機の手話ボタンで **[*][*][8][2][*]** と押します。

③ メッセージを登録する番号 **[3][0]** ~ **[5][9]** を押します。

定型文コード 10 ~ 29 には定型文がすでに登録されています。**[1][0]** ~ **[2][9]** を押すと液晶ディスプレイにその定型文が表示されるので、**[#]** を押して登録番号の入力にもどします。

④ **[*]** を押してから登録するメッセージを押します。

定型文として登録できる文字数は 22 文字以内です。

入力した文字を 1 文字削除するときは **[*][*]** を押します。

定型文コード 10 ~ 29 と組み合わせてメッセージを作成する場合は、**[*][0][5]** を押してから定型文コード **[1][0]** ~ **[2][9]** を押します。

入力した内容を見るときは **[*][1]** を押します。**[*][1]** を押すごとに液晶ディスプレイのページが切り替わります。

⑤ **[#][#]** を押してから手話器を置きます。

メッセージの作成を中断するときは、最後の **[#]** を押す前に手話器を置きます。

電子メールアドレスの登録

テレホン遊遊メールで電子メールを送信するときの電子メールアドレスを、IWX70 の短縮番号に登録しておくことができます。

使い方

① IWX70 のアナログポートに接続されている電話機の手話器を上げます。




② 電話機の手話ボタンで **[*][*][8][3]** と押します。

③ 電子メールアドレスを登録する短縮番号 **[0][1]** ~ **[0][9]** を押します。

ここで登録した短縮番号はテレホン遊遊メールを送信するときには、次のように押します。

短縮番号 01 **[*][*][4][2][*][1]**

短縮番号 09 **[*][*][4][2][*][9]**

- ④  を押してから電子メールアドレスを押します。
「メッセージの作成のしかた」(P.113)を見て文字コードを押します。
電子メールアドレスは 40 文字まで入力できます。
- ⑤   を押してから受話器を置きます。

3

USBネットワーク

IWX70のシリアルポートとUSBポートに接続されたパソコン間でファイルやプリンタを共有することができます。

USBネットワークとは

Windows98/Windows95の場合

Windows2000の場合

外部から着信可能なダイヤルアップサーバ

Windows® 2000はMicrosoft® Windows® 2000 operating systemの略です。

Windows® 98はMicrosoft® Windows® 98 operating systemの略です。

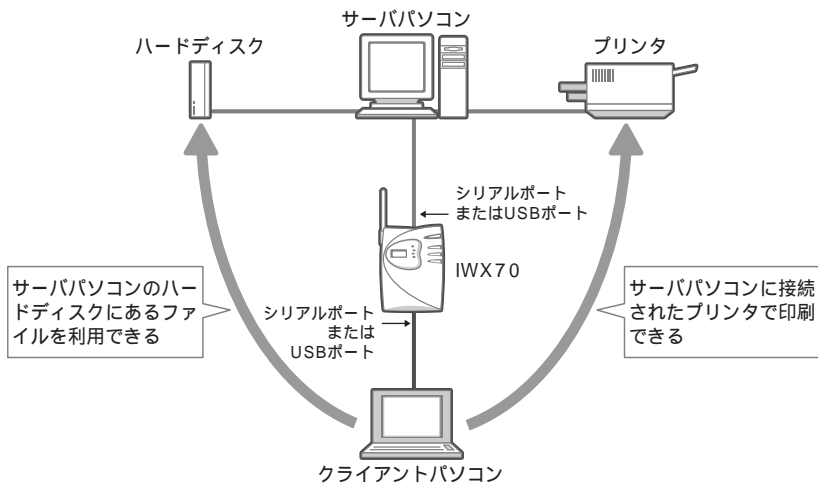
Windows® 95はMicrosoft® Windows® 95 operating systemの略です。

WindowsNT® 4.0はMicrosoft® WindowsNT® operating system version 4.0の略です。

3-1 . USB ネットワークとは

IWX70のシリアルポートとUSBポートに接続されたパソコン間で簡易ネットワークが構築できます。社内ネットワークなどで利用されているLAN (Local Area Network) の場合は専用のケーブルや接続用コネクタが必要ですが、IWX70のUSBネットワークはIWX70とパソコンが2台あれば、簡単に簡易ネットワークが利用できます。

USBネットワークを利用すると、サーバパソコンに接続されているプリンタをクライアントパソコンで利用したり、データを共有することができます。



「サーバ」とはネットワーク上で、他のコンピュータに資源を供給するコンピュータのことをいいます。USB ネットワークでの「資源」とはサーバに接続されたプリンタやサーバに保存されているデータのことです。「クライアント」はサーバが供給するこれらの資源を利用することができます。USBネットワークを使用するにはクライアントパソコンからサーバパソコンにインターネット接続のときと同様にダイヤルアップ接続して、サーバ上の資源を利用します。クライアントパソコンでは次の操作ができます。

- サーバパソコンで共有設定されたファイルをクライアントパソコンにコピーする。
- クライアントパソコンのファイルをサーバパソコンに共有設定されたパソコンにコピーする。
- クライアントパソコンから、サーバパソコンに接続されているプリンタで印刷する。
- サーバパソコンで共有設定されたファイルをクライアントパソコン上で開く。

USBネットワークを利用するための準備

USBネットワークを利用するには、次の準備が必要です。

パソコン

Windows 2000/Windows 98/Windows 95 のいずれかを搭載したサーバ用パソコンとクライアント用パソコンが必要です。2台のパソコンのどちらをサーバにするか、IWX70のシリアルポートとUSBポートのどちらにつなぐかといった制限はありません。

ダイヤルアップ接続

サーバパソコンとクライアントパソコンの両方でIWX70からインターネットにダイヤルアップ接続ができる状態にしておきます。また、USBポートで接続するパソコンにはUSBドライバのインストールが必要です。それぞれのパソコンに『らくらくアシスタント』などでインストールします。

ダイヤルアップサーバプログラム

サーバパソコンにはWindows 2000/Windows 98/Windows 95の「ダイヤルアップサーバプログラム」が必要です。Windows 2000/Windows 98には標準でダイヤルアップサーバプログラムがインストールされています。Windows 95の場合は「Microsoft Plus!」を別途購入するか、Windows 95のアップデートモジュール「ダイヤルアップネットワーク Ver. 1.3」をMicrosoftのホームページ (http://www.microsoft.com/japan/windows/dun1_3) で入手します。

Microsoftのホームページアドレスや製品名、モジュール名は変更になることがあります。

ダイヤルアップサーバプログラムをインストールするときに、Windows 95のインストールディスクが必要になることがあります。インストールのときに表示される指示にしたがってください。

Microsoft ネットワーク

USB ネットワークはWindows 2000/Windows 98/Windows 95のMicrosoft ネットワーク機能を利用します。Microsoft ネットワークを利用するには次の3つのコンポーネントが必要です。

アダプタ

Windows 98/Windows 95の場合、サーバパソコンとクライアントパソコンの両方に「ダイヤルアップアダプタ」が必要です。

プロトコル

Microsoft ネットワークのプロトコルの中の「NetBEUI」を使用します。サーバパソコンとクライアントパソコンで同じプロトコルを使います。

サービス / クライアント

サーバパソコンには「Microsoft ネットワーク共有サービス」、クライアントパソコンには「Microsoft ネットワーククライアント」が必要です。

パソコンに搭載されているOSがWindows 2000かWindows 98/Windows 95か、またサーバパソコンかクライアントパソコンかによって設定が異なります。ご使用の環境によって以降の手順を進めてください。

3-2 . Windows98/Windows95 の場合

Windows98/Windows95を搭載したパソコンでネットワークを利用するための設定を説明します。設定するパソコンがサーバパソコンか、クライアントパソコンかによって設定が異なります。

サーバの設定

Windows98/Windows95 搭載のパソコンをサーバパソコンにするための設定をします。ご使用の環境によってはネットワークに必要なソフトウェアがすでに組み込まれている場合があります。その場合はあらたに組み込む必要はありません。

Windows98を例に説明します。お使いの環境によっては手順や画面が異なることがあります。また操作の途中でWindows98のCD-ROMが必要になることがありますので、あらかじめ用意しておいてください。

ダイヤルアップサーバプログラムのインストール

1 **スタート** [設定] [コントロールパネル] を選択します。

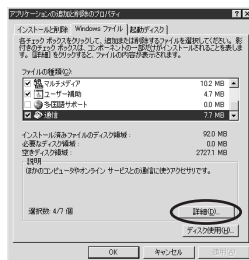
[コントロールパネル]ウィンドウが表示されます。

2 [アプリケーションの追加と削除]アイコンをダブルクリックします。

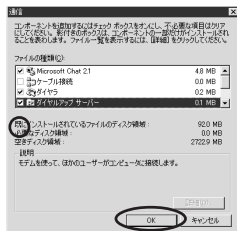
[アプリケーションの追加と削除のプロパティ]画面が表示されます。

3 [Windows ファイル]タブをクリックします。

4 「ファイルの種類」の中から「通信」をクリックし、**詳細** ボタンをクリックします。



5 「ダイヤルアップサーバ」をクリックして にし、**OK** ボタンをクリックします。



ディスクを挿入するように画面に表示された場合は、Windows98のCD-ROMをセットしてください。

ダイヤルアップサーバプログラムがインストールされます。

[アプリケーションの追加と削除のプロパティ]画面にもどります。

6 **OK** ボタンをクリックします。

[コントロールパネル]ウィンドウにもどります。

ネットワークの設定

- ① **スタート** [設定] [コントロールパネル] を選択します。

[コントロールパネル]ウィンドウが表示されます。

- ② [ネットワーク] アイコンをダブルクリックします。

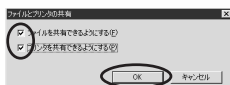
[ネットワーク] 画面が表示されます。

- ③ **ファイルとプリンタの共有** ボタンをクリックします。



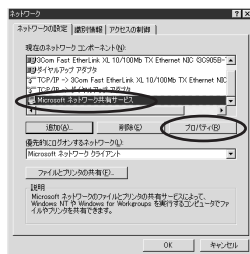
[ファイルとプリンタの共有] 画面が表示されます。

- ④ 「ファイルを共有できるようにする」、「プリンタを共有できるようにする」の両方を にし、**OK** ボタンをクリックします。



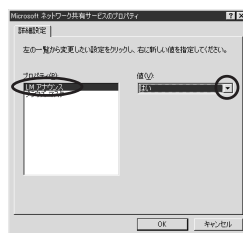
Microsoft ネットワーク共有サービスが追加され、[ネットワーク] 画面にもどります。

- ⑤ 「現在のネットワークコンポーネント」の中から「Microsoft ネットワーク共有サービス」を選択し、**プロパティ** ボタンをクリックします。



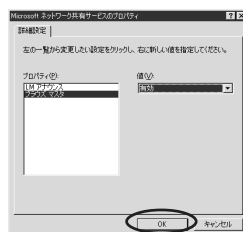
[Microsoft ネットワーク共有サービスのプロパティ] 画面が表示されます。

- ⑥ 「プロパティ」で「LM アナウンス」を選択し、「値」で「はい」を選択します。



- ⑦ 「プロパティ」で「ブラウズマスタ」を選択し、「値」で「有効」を選択します。

- ⑧ **OK** ボタンをクリックします。



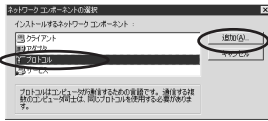
[ネットワーク] 画面にもどります。

- ⑨ **追加** ボタンをクリックします。

[ネットワークコンポーネントの選択] 画面が表示されます。

10

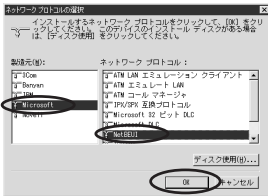
「インストールするネットワークコンポーネント」の中から「プロトコル」を選択し、「追加」ボタンをクリックします。



「ネットワークプロトコルの選択」画面が表示されます。

11

「製造元」の中から「Microsoft」を選択し、「ネットワークプロトコル」の中から「NetBEUI」を選択し、「OK」ボタンをクリックします。



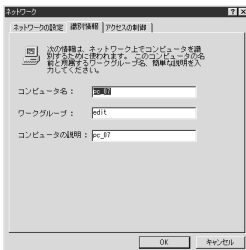
「ネットワーク」画面にもどります。

12

「識別情報」タブをクリックします。

13

「コンピュータ名」、「ワークグループ名」を入力します。



「コンピュータ名」は他のパソコンと重複しない名前を任意に入力します。「ワークグループ名」はクライアントと共通の名前を入力します。それぞれ半角15文字以内で入力します。

14

OK ボタンをクリックします。
[コントロールパネル]画面にもどります。

15

パソコンを再起動します。

ダイヤルアップサーバの設定

ダイヤルアップサーバの設定をしてサーバが着信できるようにします。

1

[マイコンピュータ]アイコンをダブルクリックします。

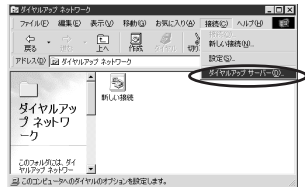
2

[ダイヤルアップネットワーク]アイコンをダブルクリックします。

[ダイヤルアップネットワーク]ウィンドウが表示されます。

3

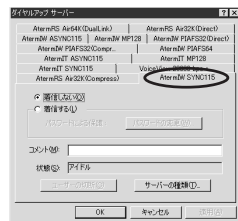
[接続] [ダイヤルアップサーバ]を選択します。



[ダイヤルアップサーバ]画面が表示されます。

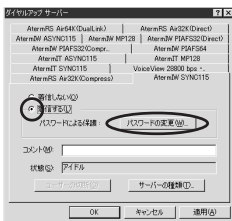
4

[AtermIW SYNC115]タブをクリックします。



モデム情報が表示されない場合は、IWX70のモデム情報がインストールされていません。「1-3. インターネット接続の手動設定」を参照し、モデム情報をインストールしてください。

- 5 「着信する」を選択し、**パスワードの変更** ボタンをクリックします。



[ダイヤルアップネットワークのパスワード]画面が表示されます。

- 6 「新しいパスワード」に任意のパスワードを入力し、「新しいパスワードの確認」に同じパスワードを入力します。

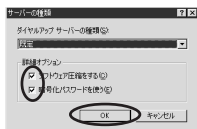


- 7 **OK** ボタンをクリックします。

[ダイヤルアップサーバー]画面にもどります。

- 8 **サーバーの種類** ボタンをクリックします。
[サーバーの種類]画面が表示されます。

- 9 「詳細オプション」の「ソフトウェア圧縮をする」、「暗号化パスワードを使う」を にし、**OK** ボタンをクリックします。



[ダイヤルアップサーバー]画面にもどります。

- 10 **OK** ボタンをクリックします。

[ダイヤルアップネットワーク]ウィンドウにもどります。

タスクトレイのインジケータに [ダイヤルアップサーバ]アイコンが表示され、接続待機状態になります。



ネットワークを使用している間は、ダイヤルアップサーバとして指定したモデム以外で着信することはできません。

ファイルの共有設定

サーバがクライアントに共有を許可するファイルを指定します。共有設定をしていないファイルは、クライアントから見ることはできません。共有設定はドライブまたはフォルダごとに設定します。

- 1 [マイコンピュータ]アイコンをダブルクリックし、クライアントに公開するドライブ、またはフォルダを表示します。

- 2 共有するドライブまたはフォルダをクリックし、[ファイル] [共有]を選択します。



[プロパティ]画面が表示されます。

- 3 「共有する」を選択し、「共有名」を任意に入力します。



- 4 「アクセスの種類」の中からクライアントに許可するアクセスの種類を選択します。

「フルアクセス」「パスワードで区別」を選択した場合は、「パスワード」を設定します。パスワードを設定しなければ、クライアントがアクセスするときにパスワードが不要となります。

- 5 **OK** ボタンをクリックします。

[マイコンピュータ] ウィンドウにもどり、共有設定したドライブまたはフォルダには手のマークが表示されます。



プリンタの共有設定

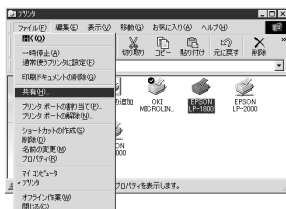
サーバがクライアントに使用を許可するプリンタを指定します。共有設定をしていないプリンタは、クライアントから利用できません。

- 1 [マイコンピュータ] アイコンをダブルクリックします。

- 2 [プリンタ] アイコンをダブルクリックします。

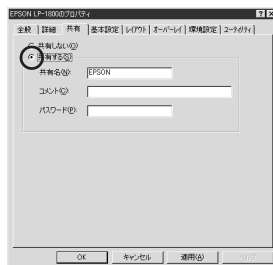
[プリンタ] ウィンドウが表示されます。

- 3 共有するプリンタをクリックし、[ファイル] [共有] を選択します。



[プロパティ] 画面が表示されます。

- 4 「共有する」を選択し、「共有名」、「パスワード」を任意に入力します。



「パスワード」は省略できます。

- 5 **OK** ボタンをクリックします。

[パスワードの確認] 画面が表示されます。

OK ボタンをクリックします。



④ でパスワードを指定している場合は、同じパスワードを入力してから **OK** ボタンをクリックします。

[プリンタ]ウィンドウにもどり、共有設定したプリンタには手のマークが表示されます。



クライアントの設定

Windows98/Windows95 搭載のパソコンをクライアントパソコンにするための設定をおこないます。ご使用の環境によってはネットワークに必要なソフトウェアがすでに組み込まれている場合があります。その場合はあらたに組み込む必要はありません。

Windows98を例に説明します。お使いの環境によっては手順や画面が異なることがあります。また操作の途中でWindows98のCD-ROMが必要になることがありますので、あらかじめ用意しておいてください。

ネットワークの設定

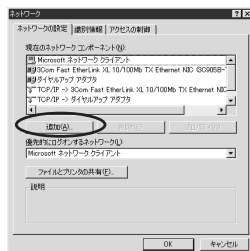
① **スタート** [設定] [コントロールパネル]を選択します。

[コントロールパネル]ウィンドウが表示されます。

② [ネットワーク]アイコンをダブルクリックします。

[ネットワーク]画面が表示されます。

③ **追加** ボタンをクリックします。



[ネットワークコンポーネントの選択]画面が表示されます。

4

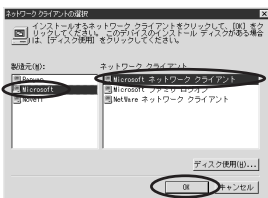
「インストールするネットワークコンポーネント」の中から「クライアント」を選択し、「追加」ボタンをクリックします。



[ネットワーククライアントの選択]画面が表示されます。

5

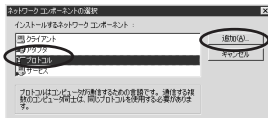
「製造元」の中から「Microsoft」を選択し、「ネットワーククライアント」の中から「Microsoft ネットワーククライアント」を選択し、「OK」ボタンをクリックします。



[ネットワークコンポーネントの選択]画面にもどります。

6

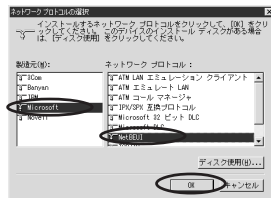
「インストールするネットワークコンポーネント」の中から「プロトコル」を選択し、「追加」ボタンをクリックします。



[ネットワークプロトコルの選択]画面が表示されます。

7

「製造元」の中から「Microsoft」を選択し、「ネットワークプロトコル」の中から「NetBEUI」を選択して「OK」ボタンをクリックします。



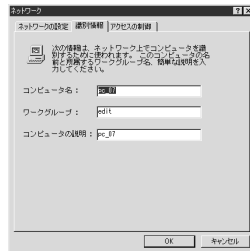
[ネットワーク]画面にもどります。

8

[識別情報]タブをクリックします。

9

「コンピュータ名」、「ワークグループ名」を入力します。



「コンピュータ名」は他のパソコンと重複しない名前を任意に入力します。「ワークグループ名」はクライアントと共通の名前を入力します。それぞれ半角15文字以内で入力します。

10

OK ボタンをクリックします。

[コントロールパネル]画面にもどります。

11

パソコンを再起動します。

ダイヤルアップネットワークの接続 先の設定

サーバに接続するためのダイヤルアップネットワークの設定をします。

1 [マイコンピュータ]アイコンをダブルクリックします。

2 [ダイヤルアップネットワーク]アイコンをダブルクリックします。

[ダイヤルアップネットワーク]ウィンドウが表示されます。

3 [新しい接続]アイコンをダブルクリックします。



新しい接続

[新しい接続]画面が表示されます。

4 「接続名」を任意に入力します。

ここでは例として「USBネットワーク」と入力します。

5 「モデムの選択」で「Aterm I/W SYNC115」を選択し、[次へ]ボタンをクリックします。



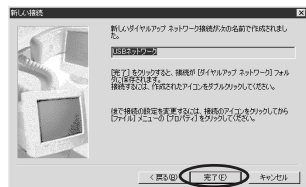
6 「市外局番」と接続するサーバの「電話番号」を入力します。

IWX70のシリアルポートに接続されているサーバの場合は「#/81」、USBポートに接続されているサーバには「#/71」を「電話番号」に入力します。RS20に接続されているサーバの場合は「#/91」(無線Aポート)と入力します。



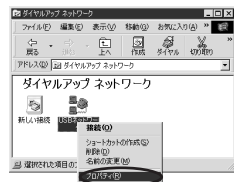
7 [次へ]ボタンをクリックします。

8 ダイヤルアップネットワークの接続名を確認し、[完了]ボタンをクリックします。



[ダイヤルアップネットワーク]ウィンドウにもどり、「接続名」で入力した名前のダイヤルアップネットワークアイコンが追加されます。

9 作成されたダイヤルアップネットワークアイコンを右クリックし、[プロパティ]を選択します。



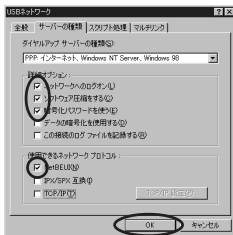
10

[サーバの種類] タブをクリックします。



11

「詳細オプション」の「ネットワークへのログオン」、「ソフトウェア圧縮をする」、「暗号化パスワードを使う」を にし、「使用できるネットワークプロトコル」の「NetBEUI」だけを にして **OK** ボタンをクリックします。



[ダイヤルアップネットワーク] 画面にもどり、クライアントの設定が完了します。

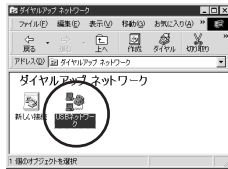
ネットワークの使い方

サーバへの接続

クライアントからダイヤルアップでサーバに接続します。

1

[ダイヤルアップネットワーク] ウィンドウ内のネットワーク接続用アイコン (例 : USB ネットワーク) をダブルクリックします。



[接続] 画面が表示されます。

2

「ユーザー名」と「パスワード」を入力します。

「パスワード」はサーバの設定の「ダイヤルアップサーバの設定」の ④ で登録したパスワードを入力します。

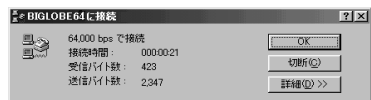


3

「電話番号」が「#81」(シリアルポート)または「#71」(USBポート)になっていることを確認し、**接続** ボタンをクリックします。

RS 20 に接続されているサーバは「#91」(無線 A ポート)になります。

「接続中」と表示されたあと、タスクトレイに [ダイヤルアップ] のインジケータが表示されます。





ネットワークの接続を切断するときは、インターネット接続のときと同様にタスクトレイの[ダイヤルアップ]インジケータをクリックし、**切断**ボタンをクリックします。

共有フォルダ/プリンタを使う

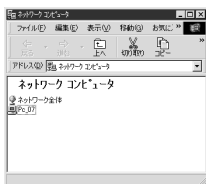
サーバが公開している共有フォルダや共有プリンタを使用します。

- 1 クライアントからダイヤルアップネットワークでサーバと接続しておきます。
- 2 デスクトップの[ネットワークコンピュータ]アイコンをダブルクリックします。



ネットワーク

- 3 サーバのアイコンをダブルクリックします。



サーバが共有を許可しているドライブ、フォルダ、プリンタが表示され、クライアントで使用できるようになります。

共有プリンタを使用する場合は、以降の手順にすんでください。共有ドライブまたは共有フォルダを使用する場合は、サーバの設定の「ファイルの共有設定」④の制限内でファイルが利用できます。

- 4 プリンタのアイコンをダブルクリックします。



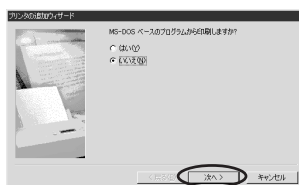
「...プリンタの設定を行う必要があります...」と表示されます。

- 5 **はい** ボタンをクリックします。



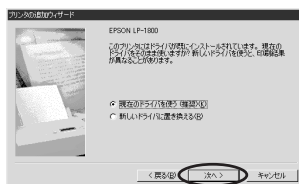
[プリンタの追加ウィザード]が表示されます。

- 6 「いいえ」を選択し、**次へ** ボタンをクリックします。



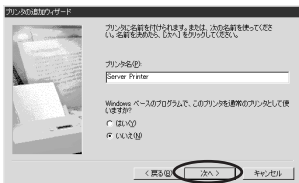
[プリンタの追加ウィザード]が表示されます。

- 7 「現在のドライバを使う」を選択し、**次へ** ボタンをクリックします。

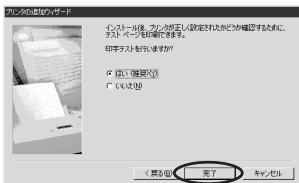


8

「プリンタ名」を任意に入力し、**次へ** ボタンをクリックします。

**9**

「はい」を選択し、**完了** ボタンをクリックします。



印字テストが実行され、プリンタのウィンドウが表示されます。

10

プリンタウィンドウを閉じます。

3-3 . Windows2000 の場合

Windows2000を搭載したパソコンでネットワークを利用するための設定を説明します。設定するパソコンがサーバパソコンか、クライアントパソコンかによって設定が異なります。設定をするときには、Windows2000の起動時にAdministrator権限のあるアカウントでログオンしてください。

サーバの設定

Windows2000 搭載のパソコンをサーバパソコンにするための設定をします。ご使用の環境によってはネットワークに必要なソフトウェアがすでに組み込まれている場合があります。その場合はあらたに組み込む必要はありません。

ダイヤルアップ接続の設定

サーバパソコンにクライアントパソコンからのダイヤルアップ接続を受けるための「着信接続」の設定をおこないます。

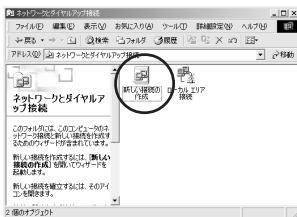
① **スタート** [設定] [コントロールパネル] を選択します。

[コントロールパネル]ウィンドウが表示されます。

② [ネットワークとダイヤルアップ接続] アイコンをダブルクリックします。

[ネットワークとダイヤルアップ接続]ウィンドウが表示されます。

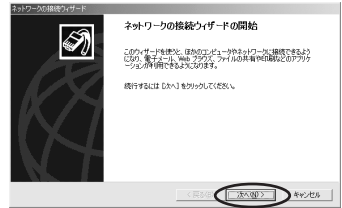
③ [新しい接続の作成] アイコンをダブルクリックします。



[ネットワークの接続ウィザード]画面が表示されます。

④

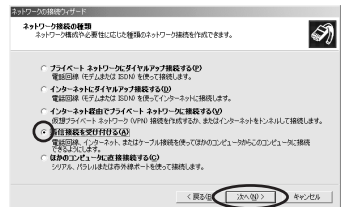
次へ ボタンをクリックします。



「ネットワークの接続の種類」を選択する画面が表示されます。

⑤

「着信接続を受け付ける」を選択し、次へ ボタンをクリックします。

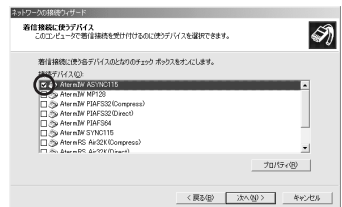


「着信接続に使うデバイス」を選択する画面が表示されます。

⑥

「接続デバイス」の中から接続しているポートに対応したモデム情報をクリックして にします。

サーバパソコンをシリアルポートに接続している場合は「AtermIW128K Support Series」を選択します。USBポートに接続している場合は「AtermIW128K Support Series for USB」を選択します。

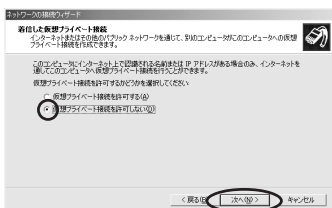


モデム情報が表示されない場合は、IWX70のモデム情報がインストールされていません。「1-2. インターネット接続の手動設定」を参照し、モデム情報をインストールしてください。

7 次へ ボタンをクリックします。

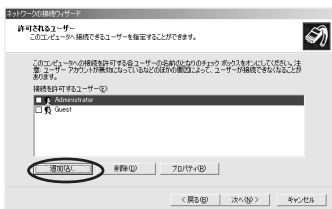
「着信した仮想プライベート接続」を指定する画面が表示されます。

8 「仮想プライベート接続を許可しない」を選択し、「次へ」ボタンをクリックします。



「許可されるユーザー」を選択する画面が表示されます。

9 追加 ボタンをクリックします。



「新しいユーザー」画面が表示されます。

接続を許可するユーザーがすでに表示されている場合は、 をクリックして にし、12に進みます。

10 「ユーザー名」と「パスワード」を入力します。



ここで入力したユーザー名とパスワードで、クライアントパソコンがダイヤルアップ接続します。

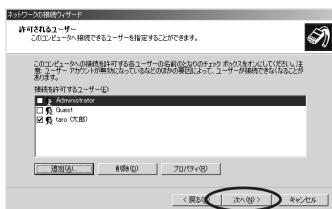
パスワードが不要であれば入力しなくてもかまいません。パスワードを指定した場合は「パスワードの確認入力」に同じパスワードをもう一度入力します。

11 OK ボタンをクリックします。

「許可されるユーザー」を指定する画面にもどります。

複数のユーザを登録する場合は、9 ~ 11 をくり返します。

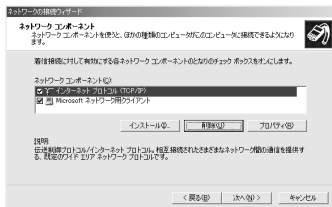
12 接続を許可するすべてのユーザーに がついていることを確認し、「次へ」ボタンをクリックします。



「ネットワークコンポーネント」を選択する画面が表示されます。

13 「ネットワークコンポーネント」に次の3つがあるか確認します。

NetBEUI プロトコル
Microsoft ネットワーク用クライアント
Microsoft ネットワーク用ファイルとプリンタ共有



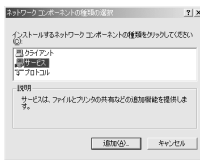
この画面の例では「NetBEUI プロトコル」「Microsoft ネットワーク用ファイルとプリンタ共有」が不足しています。以降はこの2つを追加する手順を説明します。

14

インストール ボタンをクリックします。
[ネットワークコンポーネントの種類
の選択] 画面が表示されます。

15

インストールするネットワーク
コンポーネントの種類を選択します。



追加するものによってそれぞれ次の
コンポーネントを選択します。

クライアント

「Microsoft ネットワーク用ク
ライアント」を追加する場合

サービス

「Microsoft ネットワーク用ファ
イルとプリンタ共有」を追加する場合

プロトコル

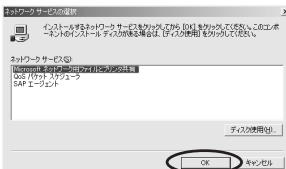
「NetBEUIプロトコル」を追加
する場合

ここでは例として「サービス」
を選択します。

[ネットワークサービスの選択]
画面が表示されます。

16

「Microsoft ネットワーク用ファ
イルとプリンタ共有」を選択して **OK**
ボタンをクリックします。



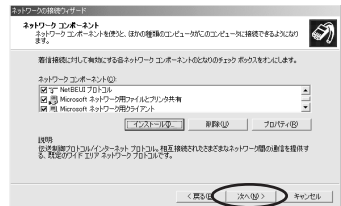
「ネットワークコンポーネント」
を選択する画面にもどります。

他に不足しているコンポーネ
ントがある場合は 14 ~ 15 を
くり返します。

途中で「今すぐ再起動しま
すか?」と表示された場合は、
いいえ ボタンをクリック
します。

17

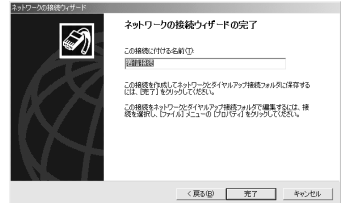
「NetBEUIプロトコル」、「Microsoft
ネットワーク用クライアント」、
「Microsoft ネットワーク用ファ
イルとプリンタ共有」がそろったら **次へ**
ボタンをクリックします。



「ネットワークの接続ウィザードの
完了」の画面が表示されます。

18

「この接続に付ける名前」に任意で
ネットワーク接続の名称を入力
します。
ここで入力した名前が [ネット
ワークとダイヤルアップ接続]
アイコンの名称になります。



19

完了 ボタンをクリックします。

[ネットワークとダイヤルアップ
接続] ウィンドウにもどり、13
で付けた名前のアイコンが
追加されます。

20

スタート [シャットダウン]
を選択し、Windows を再起動
します。

Windows が再起動し、[ネット
ワークとダイヤルアップ接続]
ウィンドウが表示されます。

21

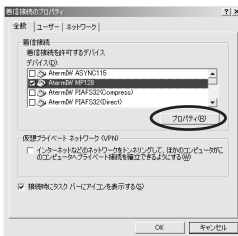
追加した [ネットワークとダイヤルアップ接続] アイコン (例 : 着信接続) をダブルクリックします。



[着信接続のプロパティ] 画面が表示されます。

22

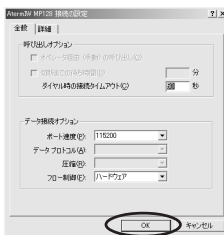
「デバイス」の中から ⑥ で選択したモデム情報を選択し、**プロパティ** ボタンをクリックします。



[接続の設定] 画面が表示されます。

23

「データプロトコル」が「AUTQ (1Ch)」になっていることを確認し、**OK** ボタンをクリックします。



[ネットワークとダイヤルアップ接続] ウィンドウにもどります。

ワークグループ名の確認

サーバパソコンのワークグループ名を確認します。クライアントパソコンはサーバと同じグループ名を指定します。

1

[コントロールパネル] の [システム] アイコンをダブルクリックします。

[システムのプロパティ] 画面が表示されます。

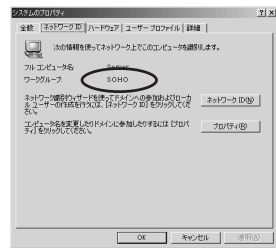
2

[ネットワーク ID] タブをクリックします。



3

「ワークグループ名」を確認します。



4

キャンセル ボタンをクリックします。

[コントロールパネル] ウィンドウにもどります。

ファイルの共有設定

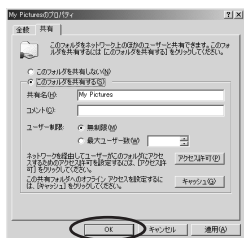
サーバがクライアントに共有を許可するファイルを指定します。共有設定をしていないファイルは、クライアントから見ることはできません。

共有設定はドライブまたはフォルダごとに設定します。

- 1 [マイコンピュータ] アイコンをダブルクリックし、クライアントに公開するドライブ、またはフォルダを表示します。
- 2 共有するドライブまたはフォルダをクリックし、[ファイル] [共有]を選択します。



- 3 「このフォルダを共有する」を選択し、OK ボタンをクリックします。



[マイコンピュータ] ウィンドウにもどり、共有設定したドライブまたはフォルダには手のマークが表示されます。



ドライブに対して共有設定をすると、クライアントパソコンからサーバパソコンのディスクがそのまま利用できるようになります。ただし、クライアントパソコン側のアプリケーションから直接サーバパソコンのファイルにアクセスするように設定した場合、サーバパソコン側でハードディスク内のフォルダの位置を変えたり、別のドライブへ移動させたときに、クライアント側のアプリケーションの設定も変更しなければなりません。

フォルダ単位で共有設定する場合は、クライアントから見える共有名はハードディスク上のフォルダ構成の影響を受けません。

プリンタの共有設定

サーバがクライアントに使用を許可するプリンタを指定します。共有設定をしていないプリンタは、クライアントから利用できません。

- 1 [コントロールパネル] の [プリンタ] アイコンをダブルクリックします。



[プリンタ] ウィンドウが表示されます。

2

共有するプリンタアイコンをクリックし、[ファイル] [共有]を選択します。



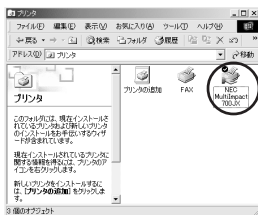
[プロパティ]画面が表示されます。

3

「共有する」を選択し、[OK] ボタンをクリックします。



[プリンタ]ウィンドウにもどり、共有設定したプリンタには手のマークが表示されます。



クライアントの設定

Windows2000 搭載のパソコンをクライアントパソコンにするために必要な設定をおこないます。ご使用の環境によってはネットワークに必要なソフトウェアがすでに組み込まれている場合があります。その場合はあらたに組み込む必要はありません。

ワークグループ名の設定

サーバパソコンのワークグループ名と同じグループ名を指定します。

1

[コントロールパネル]の[システム]アイコンをダブルクリックします。

[システムのプロパティ]画面が表示されます。

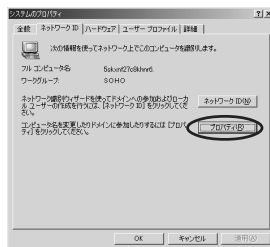
2

[ネットワーク ID] タブをクリックします。



3

プロパティ ボタンをクリックします。



[識別の変更]画面が表示されます。

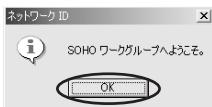
- ④ コンピュータ名を入力します。
サーバパソコンの名前やワークグループ名と重複しない名前を任意に入力します。



- ⑤ ワークグループ名を入力します。
「サーバの設定」の「ワークグループ名の確認」で確認したワークグループ名を入力します。

- ⑥ **OK** ボタンをクリックします。
「ワークグループへようこそ」と表示されます。

- ⑦ **OK** ボタンをクリックします。



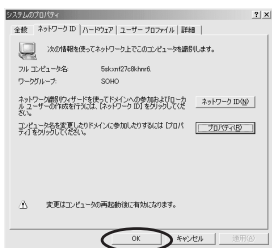
[ネットワーク ID] 画面が表示されます。

- ⑧ **OK** ボタンをクリックします。



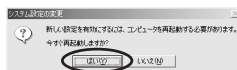
[システムのプロパティ] 画面にもどります。

- ⑨ **OK** ボタンをクリックします。



[システム設定の変更] 画面が表示されます。

- ⑩ **はい** ボタンをクリックします。



Windows が再起動します。

ダイヤルアップネットワークの接続先の設定

サーバにダイヤルアップ接続するためのダイヤルアップネットワークの設定をします。

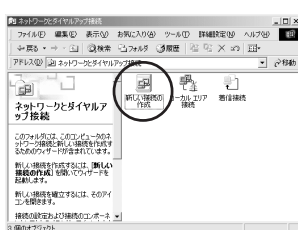
- ① **スタート** [設定] [コントロールパネル] を選択します。

[コントロールパネル] ウィンドウが表示されます。

- ② [ネットワークとダイヤルアップ接続] アイコンをダブルクリックします。

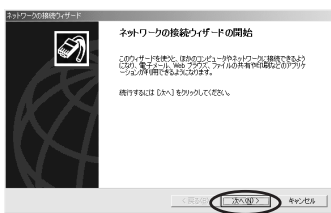
[ネットワークとダイヤルアップ接続] ウィンドウが表示されます。

- ③ [新しい接続の作成] アイコンをダブルクリックします。



[ネットワークの接続ウィザード] 画面が表示されます。

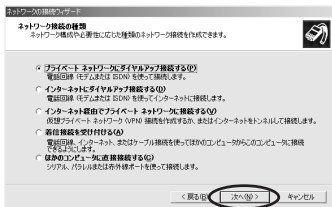
- ④ **次へ** ボタンをクリックします。



「ネットワークの接続の種類」を選択する画面が表示されます。

5

「プライベートネットワークにダイヤルアップ接続する」を選択し、「次へ」ボタンをクリックします。



「デバイスの選択」の画面が表示されます。

6

「この接続で使用するデバイスの選択」の中から接続しているポートに対応したモデム情報をクリックして にします。

クライアントパソコンをシリアルポートに接続している場合は「A term IW128K Support Series」を選択します。USBポートに接続している場合は「AtermIW128K Support Series for USB」を選択します。



モデム情報が表示されない場合は、IWX70のモデム情報がインストールされていません。「1-2. インターネット接続の手動設定」を参照し、モデム情報をインストールしてください。

7

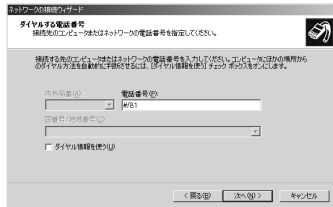
「次へ」ボタンをクリックします。

「ダイヤルする電話番号」を指定する画面が表示されます。

8

「電話番号」にサーバパソコンの内線番号を入力します。

サーバパソコンがシリアルポートに接続されている場合は「# / 81」、USBポートに接続されている場合は「# / 71」と入力します。サーバパソコンがRS20に接続されている場合は「# / 91」(無線Aポート)と入力します。



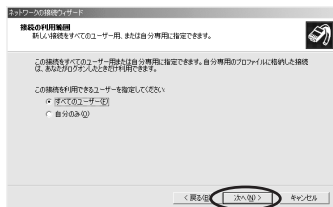
9

「次へ」ボタンをクリックします。

「接続の利用範囲」を指定する画面が表示されます。

10

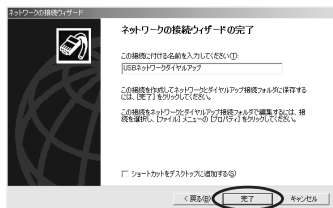
すべてのユーザーにこの接続の利用を許可するか自分だけが利用するかを選択し、「次へ」ボタンをクリックします。



「ネットワークの接続ウィザードの完了」の画面が表示されます。

11

この接続に付ける名前を任意に入力し、「完了」ボタンをクリックします。



[接続] 画面が表示されます。

12

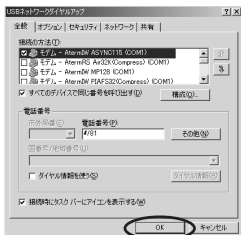
「プロパティ」ボタンをクリックします。



[ダイアログアップ]画面が表示されます。

13

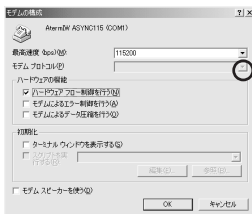
「接続の方法」に⑥で選択したモデム情報が表示され、になっていることを確認し、「構成」ボタンをクリックします。



[モデムの構成]画面が表示されます。

14

「モデムプロトコル」で「PPP(64K)」を選択します。



15

「モデムによるエラー制御を行う」にし、「OK」ボタンをクリックします。

[ダイアログアップ]画面にもどります。

16

[ネットワーク]タブをクリックします。

17

「インターネットプロトコル(TCP/IP)」を⑦にします。



18

「チェックボックスが…コンポーネント」に次の3つがあるか確認します。

NetBEUI プロトコル
Microsoft ネットワーク用クライアント
Microsoft ネットワーク用ファイルとプリンタ共有

⑦の画面では「NetBEUI プロトコル」が不足しています。以降は「NetBEUI」を追加する手順を例に説明します。

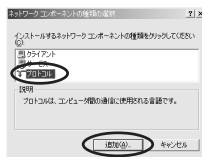
19

「インストール」ボタンをクリックします。

[ネットワークコンポーネントの種類を選択]画面が表示されます。

20

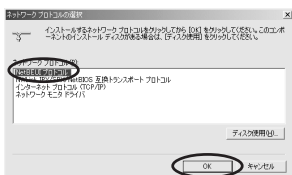
「プロトコル」を選択し、「追加」ボタンをクリックします。



[ネットワークプロトコルの選択]画面が表示されます。

21

「NetBEUI プロトコル」を選択して
OK ボタンをクリックします。



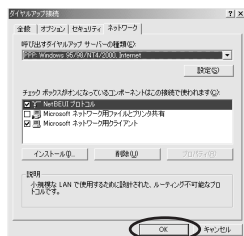
[ダイアルアップ接続]の画面にもどります。

他に不足しているコンポーネントがある場合は 17 ~ 21 をくり返します。

途中で「今すぐ再起動しますか?」と表示された場合は、**いいえ** ボタンをクリックします。

22

「NetBEUI プロトコル」「Microsoft ネットワーク用クライアント」「Microsoft ネットワーク用ファイルとプリンタ共有」がそろったら **OK** ボタンをクリックします。



[接続]画面にもどります。

23

キャンセル ボタンをクリックします。

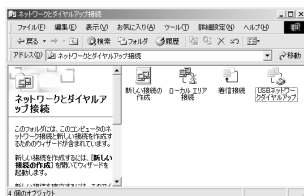
ネットワークの使い方

サーバへの接続

クライアントからダイアルアップでサーバに接続します。

1

[ネットワークとダイアルアップ接続]ウィンドウ内のネットワーク接続用アイコン(例:USBネットワークダイアルアップ)をダブルクリックします。



[接続]画面が表示されます。

2

「ユーザー名」と「パスワード」を入力します。

「パスワード」はサーバの設定の「ダイアルアップ接続の設定」の 10 で登録したユーザー名とパスワードを入力します。



- 3 「電話番号」が「#/81」(シリアルポート)または「#/71」(USBポート)になっていることを確認し、**ダイヤル** ボタンをクリックします。

RS20に接続されているサーバは「#/91」(無線Aポート)となります。「接続中」と表示されたあと、タスクトレイに[ダイヤルアップ]のインジケータが表示されます。



サーバに接続できるとサーバパソコンにも[ダイヤルアップ]のインジケータが表示されます。ネットワークの接続を切断するときは、インターネット接続のときと同様にタスクトレイの[ダイヤルアップ]インジケータをクリックし、**切断** ボタンをクリックします。

共有フォルダ/プリンタを使う

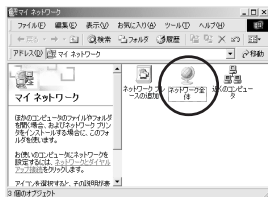
サーバパソコンがクライアントパソコンに利用を許可している共有フォルダや共有プリンタを使用します。

- 1 **ダイヤルアップネットワーク**でサーバと接続しておきます。
- 2 デスクトップの[マイネットワーク]アイコンをダブルクリックします。



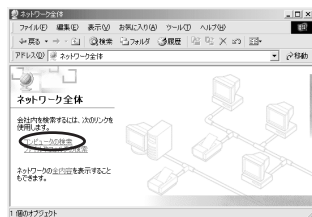
マイ ネットワーク

- 3 [ネットワーク全体]アイコンをダブルクリックします。



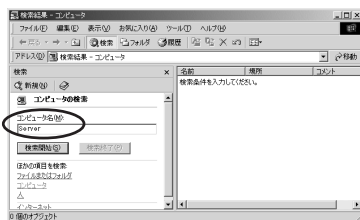
[ネットワーク全体]ウィンドウが表示されます。

- 4 「コンピュータの検索」をクリックします。



[検索結果 - コンピュータ]ウィンドウが表示されます。

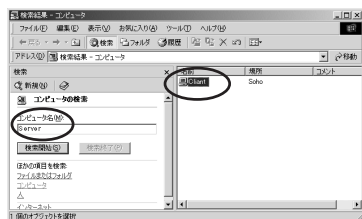
- 5 「コンピュータ名」でサーバパソコンのコンピュータ名を入力し、**検索開始** ボタンをクリックします。



サーバが検索されます。

6

サーバが検索されたら、パソコンのアイコンをクリックします。

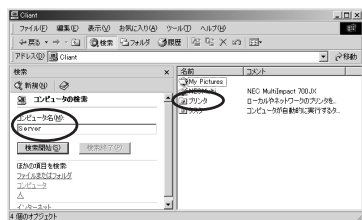


サーバが共有を許可しているドライブ、フォルダ、プリンタが表示され、クライアントで使用できるようになります。

共有プリンタを使用する場合は、以降の手順にすすんでください。

7

プリンタのアイコンをダブルクリックします。



8

はい ボタンをクリックします。

プリンタのウィンドウが表示されます。

9

プリンタウィンドウを閉じます。



3-4 . 外部から着信可能なダイヤルアップサーバ

USBネットワーク用に構成したサーバパソコンは、外部からの接続を受け付けるダイヤルアップサーバとしても動作します。

ただし、このためにはIWX70にINSネット64からの着信ができるように設定しておく必要があります。

『らくらくアシスタント』を使って、電話番号画面でいずれかの電話番号にパソコンを接続したポートへの着信を指定します。



外部から着信させたくない場合は、着信の設定をしないか、データポートの識別着信を設定してください。

外部から着信するときに発信者側がAtermを使用している場合は、スティルスコーラバックが利用できます。(「2-1 . データ通信の機能」)



1台のパソコンをダイヤルアップサーバとして構成し、IWX70にシリアルポートとUSBポートの両方で接続すると、外部の2台のパソコンから着信を受け付けることができます。この場合、シリアルポート、USBポートのどちらかに優先順位を指定してください。

4

ATコマンド

IWX70とRS20が対応するATコマンドについて説明します。

IWX70用ATコマンド

RS20用ATコマンド

4-1 . AT コマンドとは

AT コマンドは米国 Hayes 社が自社用モデムのために開発した非同期端末用自動発着信方式の通信ソフトウェアの一種で、コマンドのほとんどが「AT」で始まることからこう呼ばれています。IWX70 と RS20 は AT コマンドに準拠し、さらに拡張コマンドの一部や独自のコマンドをサポートしています。

AT コマンドの構成

AT コマンドは「コマンド」「S レジスタ」「リザルトコード」の3つから成り立っています。

コマンド

パソコンから IWX70 または RS20 に対して動作を指示するときに「AT コマンド」を使います。

AT コマンドは次の形式で入力します。

AT	コマンド	CR	RF
----	------	----	----

コマンドは半角の英数字を入力します。

英字は大文字が小文字のどちらかに統一して入力します。大文字・小文字を組み合わせる用いることはできません。

AT at x At aT

最大 184 字以内で複数のコマンドを連続して入力できます。184 字を超えた場合は ERROR をパソコンに返します。

コマンドによってはコマンドのうしろにパラメータが必要なものがあります。パラメータが省略されると値は「0」とみなされます。

「CR」(改行キーやreturn キー) は復帰文字で、コマンドの区切りになります。復帰文字は S3 レジスタで変更できますが、通常はそのまま使います。

「LF」は改行文字で、省略できます。改行文字は S4 レジスタで変更できますが、通常はそのまま使います。

コードは ASCII を使用します。

IWX70、RS20 は AT コマンドからパソコンのデータポート速度、データビット長、パリティを自動的に判別し、それに合わせます。

S レジスタ

コマンドを実行する際に参照するのが「S レジスタ」です。

S レジスタは、自動発着信の動作を規定する各種のパラメータ(RING回数、時間、文字)を格納するレジスタで、S レジスタの内容を指定することによって、発着信動作を詳細に規定することができます。

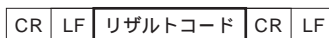
S レジスタの内容は「ATSn」コマンドで変更できます。

リザルトコード

パソコンから IWX70 または RS20 に対して実行したコマンドの結果や着信の報告を「リザルトコード」といいます。

リザルトコードの形式は V コマンドで設定します。次の 2 種類があります。

英語表示のリザルトコード（初期値）



（英語）

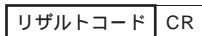
「CR」(改行キーやreturnキー)は復帰文字で、コマンドの区切りになります。復帰文字は S3 レジスタで変更できますが、通常はそのまま使います。

「LF」は改行文字です。改行文字は S4 レジスタで変更できますが、通常はそのまま使います。

コードは ASCII を使用します。

数字表示によるリザルトコード

リザルトコードが数字表示になっていると通信できない場合があります。



（数字）

「CR」(改行キーやreturnキー)は復帰文字で、コマンドの区切りになります。復帰文字は S3 レジスタで変更できますが、通常はそのまま使います。復帰文字を変更すると通信できない場合があります。

コードは ASCII を使用します。

4-2 . IWX70 用 AT コマンド

: コマンド実行時に設定が保存され、電源を切っても設定が保持されます。
 : 「\$S」コマンドを実行すると設定が保存され、電源を切っても設定が保持されます。
 注: 初期値は各コマンドの説明を参照してください。

コマンド	機能概要	初期値
A	着信応答	-
D	ダイヤル発信	-
E	エコー指定	1
H	切断	-
I	装置コード表示	-
N	回線速度の設定	0
O	コマンドモードからデータ通信モードへ戻す	-
Q	リザルトコード有無設定	0
V	リザルトコードフォーマット設定	1
W	リザルトコードRING表示設定	0
X	リザルトコードセット設定	3
Z	パラメータ初期化	-
ZJ	データポートの設定初期化	-
ZK	USBポートの設定初期化	-
/S	データポートのサブアドレスセパレータ設定	/
/SJ	シリアルポートのサブアドレスセパレータ設定	/
/SK	USBポートのサブアドレスセパレータ設定	/
&C	データポートのCD信号制御設定	1
&CJ	シリアルポートのCD信号制御設定	1

コマンド	機能概要	初期値
&CK	USBポートのCD信号制御設定	1
&D	データポートのER信号制御設定	0
&DJ	シリアルポートのER信号制御設定	0
&DK	USBポートのER信号制御設定	0
&H	短縮番号表示	-
&K	フロー制御方式設定	3
&S	データポートのDR信号制御設定	0
&SJ	シリアルポートのDR信号制御設定	0
&SK	USBポートのDR信号制御設定	0
&Z	短縮番号登録	-
#C	データポートの通信料金、切断理由表示	-
#CJ	シリアルポートの通信料金、切断理由表示	-
#CK	USBポートの通信料金、切断理由表示	-
#H	データポートの通知番号表示	-
#HJ	シリアルポートの通知番号表示	-
#HK	USBポートの通知番号表示	-
#HA	電話Aポートの通知番号表示	-
#HB	電話Bポートの通知番号表示	-
#HPA ~ #HPF	無線A ~ 無線Fポートの通知番号表示	-

コマンド	機能概要	初期値
#HSA ~ #HSF	無線A ~ 無線FポートのID登録状態表示	-
#M	PIAFSの設定と表示	1
#R	着信拒否	-
#Z	データポートの通知番号登録	-
#ZJ	シリアルポートの通知番号登録	-
#ZA	電話Aポートの通知番号登録	-
#ZB	電話Bポートの通知番号登録	-
#ZK	USBポートの通知番号登録	-
#ZPA ~ #ZPF	無線A ~ 無線Fポートの通知番号登録	-
*H	着信番号・内線指定番号割当表示	-
*PC	データポートの発信i・ナンバー設定	-
*PCNJ	シリアルポートの発信i・ナンバー設定	-
*PCNK	USBポートの発信i・ナンバー設定	-
*PN	i・ナンバー情報電話番号	-
*PR	データポートの着信i・ナンバー設定	-
*PRNJ	シリアルポートの着信i・ナンバー設定	-
*PRNK	USBポートの着信i・ナンバー設定	-
*PX1	i・ナンバーの使用設定	0
*P?	i・ナンバー設定表示	-
*Z	着信番号・内線指定番号登録	-
*ZA	電話Aポート着信番号・内線指定番号割当	-

コマンド	機能概要	初期値
*ZB	電話Bポート着信番号・内線指定番号割当	-
*ZD	データポート着信番号割当	-
*ZDJ	シリアルポート着信番号割当	-
*ZDK	USBポート着信番号割当	-
*ZPA ~ *ZPF	無線A ~ 無線Fポート着信番号・内線指定番号割当	-
¥C	累積通通信料金表示	-
¥CP	無線ポート累積通通信料金表示	-
¥D	UIメール表示の設定と表示	注
¥L	発着情報表示	-
¥M	電子メール通知表示の設定と表示	注
¥Q	フロー制御方式の設定	3
¥S	データポートの各種設定表示	-
¥SJ	シリアルポートの各種設定表示	-
¥SK	USBポートの各種設定表示	-
\$A	電話Aポートの設定と表示	注
\$B	電話Bポートの設定と表示	注
\$D	アナログポート共通設定と表示	注
\$F	データポート共通設定と表示	注
\$H	着信転送用アドレス表示	-
\$L	LCDの設定と表示	注
\$M	128kbpsマルチリンクPPP通信設定と表示	注

コマンド	機能概要	初期値
\$MJ	シリアルポートの128kbpsマルチリンクPPP通信設定と表示	注
\$MK	USBポートの128kbpsマルチリンクPPP通信設定と表示	注
\$N	データポートの制御に関する設定と表示	注
\$NJ	シリアルポートの制御に関する設定と表示	注
\$NK	USBポートの制御に関する設定と表示	注
\$NP	データポート/無線ポート優先着信ポート指定と表示	注
\$O	MUX機能の設定や表示	注
\$P	無線ポート共通設定と表示	注
\$PA ~\$PF	無線ポートの設定と表示	注
\$S	パラメータの保存	-
\$X	着信転送の設定	2, 0
\$Y	着信転送先アドレス登録	-
\$YM	遊遊メールの転送先メールアドレス登録	-
\$Z	着信転送元アドレス登録	-
%C	圧縮プロトコル指定	2
S	Sレジスタポイントの設定	0

コマンド	機能概要	初期値
?	レジスタポイントの示すレジスタ内容表示	-
=	Sレジスタポイントの示すレジスタ内容変更	-
+++	エスケープコマンド	-
!H	マイプライベート着信用アドレスの登録情報表示	-
!SH	疑似識別着信の登録情報表示	-
!SZ	疑似識別着信のアドレス登録	-
!UC	迷惑電話防止用アドレスの登録電話番号削除	-
!UH	迷惑電話防止用アドレスの情報表示	-
!US	迷惑電話防止用アドレスの登録	-
!VH	ボイスワープ設定電話番号の登録情報表示	-
!VZ	ボイスワープ設定電話番号登録	-
!WH	疑似識別リング用アドレスの登録情報表示	-
!WZ	疑似識別リング用アドレスの登録	-
!X	マイプライベート着信の設定	0
!Z	マイプライベート着信の相手番号と着信ポートの設定	-

A

機能： 「RING」が表示されているときに本コマンドを入力して相手と通信中にします。
 書式： ATA
 パラメータ： なし
 入力例： ATA

D

機能： 発信して相手呼び出します。
 書式： ATD <パラメータ 1> </パラメータ 2> <パラメータ 3>
 パラメータ： <パラメータ 1> 相手アドレス (相手電話番号)
 S=0 ~ 9: 短縮・識別番号へ発信します。
 ¥: 再発信します。
 00: USBポートへ内線発信する
 02: シリアルポートへ内線発信する
 <パラメータ 2> 相手サブアドレス
 <パラメータ 3> [ユーザ・ユーザデータ
 ; : コマンドモードへ入ります。発信するときはOコマンドを入力します。
 CB: スティルスコールバックの発信をします。
 PF: PIAFS32K設定されていない場合にPIAFS32K発信します。通信終了後はもとの設定にもどります。
 PD: PIAFS64K設定されていない場合にPIAFS64K発信します。通信終了後はもとの設定にもどります。
 PA: MUX同期64KPPP通信で発信
 PB: MUX128KマルチリンクPPP通信で発信
 PP: PIAFS2.1で発信します。
 DL: デュアルリンクワイヤレスモードで発信します。

入力例： ATD0123-45-6789 [ABCD
 ATDS=0

ATD0123-45-6789CB

補足： 相手電話番号は数字で最大32桁使用できます。その他の文字は使用しても無視されます。
 相手サブアドレスは数字で最大19桁使用できます。また、「/」以降が省略された場合は相手サブアドレス指定なしとみなします。「/」は「/S」コマンドで変更できます。
 「ユーザ・ユーザデータ」は最大128桁で、0~9, *, #, 英字が使用できます。ユーザ・ユーザデータの前には [を入れてください。
 「;」はユーザ・ユーザデータ使用時は、使用できません。
 「CB」指定時は合わせてスティルスコールバック着信許可(\$N10 = 1)にしてください。また、発信側、着信側ともにフロー制御の設定をしてください。
 「CB」指定時の相手サブアドレスは最大15桁に制限されます。
 PIAFS32K、PIAFS64K通信時は「CB」は使用できません。
 「CB」「PF」「PD」「PA」「PB」「DL」「PP」指定発信のリダイヤルはできません。
 「CB」「PF」「PD」「PA」「PB」「DL」「PP」を必ず最後につけてください。

E

機能： エコーバックするかどうか指定します。
 書式： ATE <パラメータ 1>
 パラメータ： <パラメータ 1> 0 : エコーバックしません。
 1 : エコーバックします。(初期値)
 入力例： ATE0

H

機能： 通信を切断します。
 書式： ATH
 パラメータ： なし
 入力例： ATH
 補足： 最初にエスケープコマンド「+++」を入力し、コマンドモードにしてから「H」コマンドを入力します。

#CJ

機能： シリアルポートの通信料金、切断理由コードなどを表示します。
書式： AT#CJ
パラメータ： なし
入力例： AT#CJ
補足： #C コマンドの補足を参照してください。

#CK

機能： USB ポートの通信料金、切断理由コードなどを表示します。
書式： AT#CK
パラメータ： なし
入力例： AT#CK
補足： #C コマンドの補足を参照してください。

#H

機能： データポートの通知番号、自己サブアドレスを表示します。
書式： AT # H
パラメータ： なし
入力例： AT # H
補足： 通知番号と自己サブアドレス間は、サブアドレスセパレータで区切られます。
登録されていない場合は「BUFFER EMPTY」と表示します。

#HJ

機能： シリアルポートの発信者通知番号（通知番号と自己サブアドレス）を表示します。
書式： AT#HJ
パラメータ： なし
入力例： AT#HJ
補足： #H コマンドの補足を参照してください。

#HK

機能： USB ポートの発信者通知番号（通知番号と自己サブアドレス）を表示します。
書式： AT#HK
パラメータ： なし
入力例： AT#HK
補足： #H コマンドの補足を参照してください。

#HA

機能： 電話 A ポートの通知番号、自己サブアドレスを表示します。
書式： AT # HA
パラメータ： なし
入力例： AT # HA
補足： 通知番号と自己サブアドレス間は、サブアドレスセパレータで区切られます。
登録されていない場合は「BUFFER EMPTY」と表示します。

#HB

機能： 電話 B ポートの通知番号、自己サブアドレスを表示します。
書式： AT # HB
パラメータ： なし
入力例： AT # HB
補足： 通知番号と自己サブアドレス間は、サブアドレスセパレータで区切られます。
登録されていない場合は「BUFFER EMPTY」と表示します。

HPA・# HPB・# HPC・# HPD・# HPE・# HPF

機能： 無線 A ~ 無線 F ポートの通知番号を表示します。
書式： AT # HPA (~ F)
パラメータ： なし
入力例： AT # HPA
補足： 通知番号と自己サブアドレス間は、サブアドレスセパレータで区切られます。
登録されていない場合は「BUFFER EMPTY」と表示します。

HSA・# HSB・# HSC・# HSD・# HSE・# HSF

機能： 無線 A ~ 無線 F ポートの登録状況を表示します。
書式： AT # HSA (~ F)
パラメータ： なし
入力例： AT # HSA
補足： 登録されている場合は「/91」(REG)、登録されていない場合は「BUFFER EMPTY」と表示します。(数字の部分は各ポートの内線番号になります。)

M

機能： PIAFS の設定・表示をします。
書式： AT # M = <パラメータ 1 >
パラメータ： <パラメータ 1 > 0 : PIAFS 通信する
 1 : 非同期通信する (初期値)
 ? : 設定内容の表示
入力例： AT # M = 0
補足： # M コマンドでの設定は \$N1 コマンドでもできます。どちらかを設定すれば有効になります。

R

機能： 着信中に入力することにより、着信を拒否します。
書式： AT # R
パラメータ： なし
入力例： AT # R

Z

機能： データポートの通知番号を登録します。
書式： AT # Z <パラメータ 1 > </パラメータ 2 >
パラメータ： <パラメータ 1 > 通知番号
 <パラメータ 2 > 自己サブアドレス
入力例： AT # Z 012345678/910
補足： 通知番号は数字で最大 32 桁まで使用できます。
自己サブアドレスは数字で最大 19 桁まで使用できます。
「/」は「/S」コマンドで変更できます。

#ZJ

機能： シリアルポートの発信者通知番号 (通知番号と自己サブアドレス) を登録します。
書式： AT#ZJ <パラメータ 1 > </パラメータ 2 >
パラメータ： #Z コマンドと同じです。
入力例： AT#ZJ12345678
補足： #Z コマンドの補足を参照してください。

#ZK

機能： USB ポートの発信者通知番号 (通知番号と自己サブアドレス) を登録します。
書式： AT#ZK <パラメータ 1 > </パラメータ 2 >
パラメータ： #Z コマンドと同じです。
入力例： AT#ZK567890/123
補足： #Z コマンドの補足を参照してください。

Z A

機能： 電話 A ポートの通知番号を登録します。
 書式： AT # ZA <パラメータ 1> </パラメータ 2>
 パラメータ： <パラメータ 1> 通知番号
 <パラメータ 2> 自己サブアドレス
 入力例： AT # ZA012345678/2222
 補足： 通知番号は数字で最大 32 桁まで使用できます。
 自己サブアドレスは数字で最大 19 桁まで使用できます。
 「/」は「/S」コマンドで変更できます。

Z B

機能： 電話 B ポートの通知番号を登録します。
 書式： AT # ZB <パラメータ 1> </パラメータ 2>
 パラメータ： <パラメータ 1> 通知番号
 <パラメータ 2> 自己サブアドレス
 入力例： AT # ZB012345678/3333
 補足： 通知番号は数字で最大 32 桁まで使用できます。
 自己サブアドレスは数字で最大 19 桁まで使用できます。
 「/」は「/S」コマンドで変更できます。

Z P A ・ # Z P B ・ # Z P C ・ # Z P D ・ # Z P E ・ # Z P F

機能： 無線 A ~ 無線 F ポートの通知番号を登録します。
 書式： AT # ZP (A ~ F) <パラメータ 1> </パラメータ 2>
 パラメータ： <パラメータ 1> 通知番号
 <パラメータ 2> 自己サブアドレス
 入力例： AT # ZPA012345678/2222
 補足： 通知番号は数字で最大 32 桁まで使用できます。
 自己サブアドレスは数字で最大 19 桁まで使用できます。
 「/」は「/S」コマンドで変更できます。
 この通知番号は ISDN 網のダイヤルイン番号に相当します。
 この通知番号は ISDN 網に有効となるアドレスとなります。

* H

機能： 着信番号と内線指定番号の割り当てを表示します。
 書式： AT * H
 パラメータ： なし
 入力例： AT * H

* P C

機能： i・ナンバーの発信と情報を設定します。
 書式： AT * PC <パラメータ 1> <=パラメータ 2>
 パラメータ： <パラメータ 1> A, B: アナログポート
 N: データポート
 PA, PB, PC, PD, PE, PF: 無線ポート
 <パラメータ 2> i・ナンバー情報
 1, 2
 入力例： AT * PCA=1
 補足： 初期値は B=2、それ以外は 1 です。

* PCNJ

機能： シリアルポートに発信用 i・ナンバー情報を設定します。
 書式： AT * PCNJ = <パラメータ 1>
 パラメータ： <パラメータ 1> i・ナンバー情報 (1 または 2)
 入力例： AT * PCNJ=1
 補足： 初期値は 1 です。

* PCNK

機能： USB ポートに発信用 i・ナンバー情報を設定します。
書式： AT * PCNK = <パラメータ 1 >
パラメータ： <パラメータ 1 > i・ナンバー情報（1 または 2）
入力例： AT * PCNK=1
補足： 初期値は 1 です。

* PN

機能： i・ナンバー情報の電話番号を設定します。
書式： AT * PN <パラメータ 1 > < = パラメータ 2 > < , パラメータ 3 >
パラメータ： <パラメータ 1 > i・ナンバー情報
<パラメータ 2 > 電話番号
<パラメータ 3 > 内線指定番号
入力例： AT * PN1=0312345678

* PR

機能： i・ナンバーの着信、i・ナンバー情報を設定します。
書式： AT * PR <パラメータ 1 > < = パラメータ 2 > < , パラメータ 3 >
パラメータ： <パラメータ 1 > A、B（アナログポート）、N（データポート）、P、PA、PB、PC、
PD、PE、PF（無線ポート）
<パラメータ 2 > i・ナンバー情報
<パラメータ 3 > i・ナンバー情報
入力例： AT * PRA=1,2
補足： 初期値は A=1、B=2、N=1,2、P,PA=1,2、他 = 設定なしです。

* PRNJ

機能： シリアルポートに着信用 i・ナンバー情報を設定します。
書式： AT * PRNJ = <パラメータ 1 > < , パラメータ 2 >
パラメータ： <パラメータ 1 > i・ナンバー情報（1 または 2）
<パラメータ 2 > i・ナンバー情報（1 または 2）
入力例： AT * PRNJ=1,2
補足： 初期値は 1 です。

* PRNK

機能： USB ポートに着信用 i・ナンバー情報を設定します。
書式： A T * PRNK = <パラメータ 1 > < , パラメータ 2 >
パラメータ： <パラメータ 1 > i・ナンバー情報（1 または 2）
<パラメータ 2 > i・ナンバー情報（1 または 2）
入力例： AT * PRNK=1,2
補足： 初期値は 1 です。

* PX1

機能： i・ナンバーを使用するかどうかを設定します。
書式： AT * PX1 <パラメータ 1 >
パラメータ： <パラメータ 1 > 0：使用しない（初期値）
1：使用する
入力例： AT * PX1=1

* P ?

機能： i・ナンバーに関する設定内容を表示します。
書式： AT * P?
パラメータ： なし
入力例： AT * P?

* Z

機能： 着信番号と内線指定番号を最大 8 個まで登録します。
書式： AT * Z <パラメータ 1 > <=パラメータ 2 > <, パラメータ 3 >
パラメータ： <パラメータ 1 > 0 ~ 7: テーブル番号
<パラメータ 2 > 着信番号 (電話番号)
<パラメータ 3 > 内線指定番号
入力例： AT * Z1 = 1234567890, 1111
補足： 通知番号は数字で最大 32 桁まで使用できます。
内線指定番号は「モデム・ダイヤルイン」、「アナログ・ダイヤルイン」を設定したときだけ使用します。数字で最大 4 桁まで使用できます。

* Z A

機能： 電話 A ポートに「* Z」コマンドで登録した着信番号、内線指定番号を割り当てます。
書式： AT * ZA = <パラメータ 1 > ~ <, パラメータ 8 >
パラメータ： <パラメータ 1 > ~ <, パラメータ 8 > : 0 ~ 7
(「* Z」コマンドで登録したテーブル番号)
入力例： AT * ZA = 0, 2, 3, 7
補足： 1 つのポートに最大 8 つまで割り当てることができます。
本コマンドで登録された番号で着信判定をおこないます。
内線指定番号は「モデム・ダイヤルイン」、「アナログ・ダイヤルイン」を設定したときだけ使用します。

* Z B

機能： 電話 B ポートに「* Z」コマンドで登録した着信番号、内線指定番号を割り当てます。
書式： AT * ZB = <パラメータ 1 > ~ <, パラメータ 8 >
パラメータ： 「* ZA」と同じです。
入力例： AT * ZB = 0, 2, 3, 7
補足： * ZA コマンドの補足を参照してください。

* Z D

機能： データポートに「* Z」コマンドで登録した着信番号、内線指定番号を割り当てます。
書式： AT * ZD = <パラメータ 1 > ~ <, パラメータ 8 >
パラメータ： * ZA と同じです。
入力例： AT * ZD = 0, 2, 3, 7
補足： * ZA コマンドの補足を参照してください。
内線指定番号は無視されます。

* ZDJ

機能： シリアルポートに「* Z」コマンドで登録した着信番号を割り当てます。
書式： AT * ZDJ = <パラメータ 1 > ~ <, パラメータ 8 >
パラメータ： * ZA コマンドと同じです。
入力例： AT * ZDJ=0,1,7,2,6
補足： * ZD コマンドの補足を参照してください。

* ZDK

機能： USB ポートに「* Z」コマンドで登録した着信番号を割り当てます。
書式： AT * ZDK = <パラメータ 1 > ~ <, パラメータ 8 >
パラメータ： * ZA コマンドと同じです。
入力例： AT * ZDK=1,3,4,6
補足： * ZD コマンドの補足も参照してください。

- 4 : HLC 設定
 - 4=0 : HLC を設定しない (初期値)
 - 4=1 : HLC を設定して着信判定する
 - 4=2 : HLC を設定するが着信判定しない
- 5 : グローバル着信選択
 - 5=0 : 着信する (初期値)
 - 5=1 : 着信しない
- 6 : サブアドレスなし着信選択
 - 6=0 : 着信する (初期値)
 - 6=1 : 着信しない
- 7 : ダイヤル桁間タイム設定
 - 7=0 : 5 秒 (初期値)
 - 7=1 : 9 秒
 - 7=2 : 11 秒
 - 7=3 : 13 秒
- 8 : フッキング検出タイム設定
 - 8=0 : 0.03 秒 ~ 1 秒
 - 8=1 : 0.3 秒 ~ 1 秒 (初期値)
 - 8=2 : 0.5 秒 ~ 1.5 秒
- 9 : 発信者番号通知設定
 - 9=0 : 発信者番号通知しない
 - 9=1 : 発信者番号通知する
 - 9=2 : INS ネット 64 申込内容にしたがう (初期値)
- 10 : 受話音量の設定
 - 10=0 : 小音
 - 10=1 : 中音 (初期値)
 - 10=2 : 大音
- 11 : 情報通知サービス設定
 - 11=0 : 情報通知サービスしない (初期値)
 - 11=1 : ナンバー・ディスプレイを使用する
 - 11=2 : モデム・ダイヤルインを使用する
 - 11=3 : アナログ・ダイヤルインを使用する
 - 11=4 : ナンバー・ディスプレイ + モデム・ダイヤルインを使用する
- 12 : 情報通知サービス (サブアドレス) 設定
 - 12=0 : サブアドレスをつけない (初期値)
 - 12=1 : サブアドレスをつける
- 13 : リバースパルス送出設定
 - 13=0 : 送出しない (初期値)
 - 13=1 : 送出する
- 14 : 通話中の受話音量変更
 - 14=0 : * # 入力で受話音量を変更しない (初期値)
 - 14=1 : * # 入力で受話音量を変更する
- 15 : 識別リング設定
 - 15=0 : 使用しない (初期値)
 - 15=1 : INS なりわけ
 - 15=2 : 疑似なりわけ
- 16 : CTI モード設定
 - 16=0 : 使用しない (初期値)
 - 16=1 : 使用する
- 18 : キャッチホン・ディスプレイ設定
 - 18=0 : 使用しない (初期値)
 - 18=1 : 使用する

入力例 : AT\$A3=1
 補足 :

HLC を設定した場合に電話を選択していれば HLC は「電話」に、ファクスやモデムを選択していれば「G2/G3 FAX」に自動的に設定します。
 12「情報通知サービス (サブアドレス)」は 11「情報通知サービス」を「1」「2」「4」に設定したときに利用できます。
 11 = 0 のときは 12 の設定は動作に関係しません。

\$ B

機能： 電話 B ポートの設定と表示をします。
書式： AT\$B <パラメータ 1 > <=パラメータ 2 >
パラメータ： 「\$A」と同じです。
入力例： AT\$B4=1

\$ D

機能： 2つのアナログポートに共通する設定と表示をします。
書式： AT\$D <パラメータ 1 > <=パラメータ 2 >
パラメータ： <パラメータ 1 > <=パラメータ 2 >
0 : 設定内容の表示
2 : 停電時のリング制御
2=0 : 着信時リングでなくブザーが鳴る
2=1 : 着信時リングが鳴る (初期値)
2=3 : 着信を受け付けない
3 : 優先着信ポートの指定
3=0 : 指定しない (初期値)
3=1 : 電話 A ポート優先
3=2 : 電話 B ポート優先
4 : 内線通話・転送機能使用可否
4=0 : 使用しない
4=1 : 使用する (初期値)
5 : 三者通話使用可否
5=0 : 使用しない (初期値)
5=1 : 三者通話を使用する
5=2 : 疑似三者通話を使用する
6 : 通信中転送使用可否
6=0 : 使用しない (初期値)
6=1 : 使用する
7 : お出かけ設定
7=1 : おやすみモード (初期値)
7=2 : 電話着信転送モード
7=3 : ボイスワープ転送モード
7=4 : フラッシュモード
8 : ボイスワープ転送モード設定
8=1 : 無条件転送 (初期値)
8=2 : 無応答時転送
8=3 : 話中時転送
8=4 : 無応答または話中時転送
9 : アナログポート [#] 発信設定
9=0 : 使用しない (#、# # で発信しない)
9=1 : # 発信する (初期値)
9=2 : # # 発信する

入力例： AT\$D3=2
補足： <パラメータ 1 > の 4, 5, 6 は無線ポートも一緒に設定されます。

\$ F

機能： データポートの設定と表示をします。
書式： AT \$F <パラメータ 1 > <=パラメータ 2 >
パラメータ： <パラメータ 1 > <=パラメータ 2 >
0 : 1 ~ 3 の設定内容の表示
1 : 優先着信ポートの設定
1 = 0 : 優先ポートを指定しない (初期値)
1 = 1 : シリアルポートを優先ポートに指定する
1 = 2 : USB ポートを優先ポートに指定する
2 : 応答平均化機能
2 = 0 : 応答平均化しない (初期値)
2 = 1 : 応答平均化する
3 : 応答平均化時のマルチポイント接続端末数
3 = 1 : 1 台 (初期値)
3 = 2 : 2 台
3 = 8 : 8 台

入力例： AT \$F1=2
補足： 存在しないポートを指定した場合はERROR となります。
3 (マルチポイント接続端末数)は、2 (応答平均化機能)を「1」に設定したとき(2=1)には必ず設定してください。3 には同一回線に接続されている Aterm の数を設定します。
2=0 のとき、3 の設定値は無効になります。

\$ H

機能： アナログポートの着信転送元と着信転送先のアドレス設定状態を表示します。
書式： AT\$H
パラメータ： なし
入力例： AT\$H
補足： 着信番号と自己サブアドレス間は、サブアドレスセパレータで区切られます。
登録されていない場合は「BUFFER EMPTY」と表示します。

\$ L

機能： 液晶ディスプレイの設定と表示をします。
書式： AT\$L <パラメータ 1 > <=パラメータ 2 >
パラメータ： <パラメータ 1 > <=パラメータ 2 >
0 : 設定内容の表示
1 : バックライトの設定
1=0 : 常に消灯
1=1 : 常に点灯
1=2 : AUTO (初期値)
1=3 : AUTO + データ通信中は常に点灯
1=4 : AUTO + B チャネル使用中は常に点灯
2 : アナログ発信時の発信ダイヤル表示
2=0 : ダイヤル番号を表示しない
2=1 : ダイヤル番号を表示する (初期値)
入力例： AT\$L1=1
補足： データ発信時は常にダイヤル番号を表示します。

\$ M

機能： データポートの 128kbps マルチリンク PPP 通信の設定と表示をします。
書式： AT\$M <パラメータ 1 > <=パラメータ 2 >
パラメータ： <パラメータ 1 > <=パラメータ 2 >
0 : 設定内容の表示
1 : マルチリンク通信設定
1=0 : 128kbps マルチリンク PPP 通信しない (初期値)
1=1 : 128kbps マルチリンク PPP 通信する
2 : リソース BOD 選択
2=0 : リソース BOD をおこなわない (初期値)
2=1 : リソース BOD をおこなう
3 : スループット BOD 選択
3=0 : スループット BOD をおこなわない (初期値)
3=1 : スループット BOD をおこなう
3=2 : フレックス BOD で使用する
4 : リンク追加算出時間 (10 秒単位)
4=10 ~ 60 : 10 ~ 60 秒 (初期値 30 秒)
5 : リンク削除算出時間 (10 秒単位)
5=10 ~ 60 : 10 ~ 60 秒 (初期値 10 秒)
6 : リンク追加しきい値設定 (10% 単位)
6=60 ~ 90 : 60 ~ 90% (初期値 70%)
7 : リンク削除しきい値設定 (10% 単位)
7=10 ~ 40 : 10 ~ 40% (初期値 20%)
8 : 2 本目接続時の認証
8=0 : 認証しない
8=1 : 認証する (初期値)

補足： 本コマンドを出したデータポート(シリアルポートまたはUSBポート)の設定のみ変更されます。
\$ M1 コマンドは \$ N11 コマンドと同じです。どちらかを設定すれば有効になります。

\$ MJ

機能： シリアルポートの 128kbps マルチリンク PPP 通信の設定と表示をします。
書式： AT\$MJ <パラメータ 1 > < =パラメータ 2 >
パラメータ： \$ M コマンドと同じですが、3=2「フレックスBODで使用する」は使用できません。
入力例： AT\$MJ3=1

\$ MK

機能： USB ポートの 128kbps マルチリンク PPP 通信の設定と表示をします。
書式： AT\$MK <パラメータ 1 > < =パラメータ 2 >
パラメータ： \$ M コマンドと同じです。
入力例： AT\$MK4=30

\$ N

機能： データポートの設定と表示をします。
書式： AT\$N <パラメータ 1 > < =パラメータ 2 >
パラメータ： <パラメータ 1 > < =パラメータ 2 >
0 : 設定内容の表示
1 : 非同期 / 同期 PPP 変換選択
1=0 : 非同期 / 同期 PPP 変換しない (初期値)
1=1 : 非同期 / 同期 PPP 変換する
1=2 : PIAFS 通信する
2 : 識別着信
2=0 : 識別着信しない (初期値)
2=1 : 識別着信する
3 : HLC 設定
3= N : HLC を設定しない (初期値)
3=0 ~ 127
4 : 着信速度チェック
4=0 : チェックしない (初期値)
4=1 : チェックする
5 : グローバル着信選択
5=0 : 着信する (初期値)
5=1 : 着信しない
6 : サブアドレスなし着信選択
6=0 : 着信する (初期値)
6=1 : 着信しない
7 : 応答平均化機能
7=0 : 平均化しない (初期値)
7=1 : 平均化する
8 : マルチアクセスポイント接続端末数 (マルチアクセス)
8=1 : 1 台 (初期値)
8=2 : 2 台
8=8 : 8 台
9 : 無通信監視タイマ
9=0 : 監視しない
9=1 : 1 分
9=10 : 10 分 (初期値)
10 : スティルスコールバック使用
10=0 : コールバックしない (初期値)
10=1 : コールバックする
11 : マルチリンク通信設定 (128kbps マルチリンク PPP)
11=0 : 通信しない (初期値)
11=1 : 通信する

- 12 : 発信者番号通知設定
 - 12=0 : 発信者番号を通知しない
 - 12=1 : 発信者番号を通知する
 - 12=2 : INS ネット 64 申込内容にしたがう (初期値)
- 13 : PPP ACCM 付加選択
 - 13=0 : 64KPPP、MP 時に ACCM を付加しない
 - 13=1 : 64KPPP、MP 時に ACCM を付加する (初期値)
- 14 : 強制切断タイマ
 - 14=0 : 強制切断しない
 - 14=1 : 1 時間で切断する
 - 14=10 : 10 時間で切断する (初期値)
- 15 : PIAFS モード指定
 - 15=0 : PIAFS32K (初期値)
 - 15=1 : PIAFS64K
 - 15=2 : PIAFS2.1

入力例 :

AT\$N9=2

補足 :

「8」(マルチアクセスポイント接続端末数)は、「7」(応答平均化機能)を「1」に設定したとき(7=1)に必ず設定してください。
 「8」には同一回線に接続されている Aterm の数を設定します。
 「7=0」のときは「8」の設定値は動作に関係しません。
 「4」(着信速度チェック)を「チェックしない」(4=0)に設定すると、異速度通信をおこなう動作になります。
 「\$N1=0」「\$N1=2」の設定は「#M」コマンドでも同様に設定できます。どちらかを設定すれば有効になります。
 「\$N1=2」のときの PIAFS 通信時の速度(32K/64K)は「\$N15」コマンドで設定します。

\$NJ

機能 : シリアルポートの制御に関する設定と表示をします。
 書式 : AT\$NJ <パラメータ 1> <=パラメータ 2>
 パラメータ : \$N コマンドと同じです。
 入力例 : AT\$NJ3=1
 補足 : \$N コマンドの補足を参照してください。

\$NK

機能 : USB ポートの制御に関する設定と表示をします。
 書式 : AT\$NK <パラメータ 1> <=パラメータ 2>
 パラメータ : \$N コマンドと同じです。
 入力例 : AT\$NK4=1
 補足 : \$N コマンドの補足を参照してください。

\$NP

機能 : データポートへの UUI メール通知モードを指定します。
 書式 : AT\$NP <パラメータ 1> <=パラメータ 2>
 パラメータ : <パラメータ 1> <=パラメータ 2>
 0 : 3 の設定内容の表示
 3 : 外線データ着信時の優先着信レポート指定
 3=0 : データポート (初期値)
 3=1 : 無線ポート
 4 : UUI メール通知モード
 4=0 : 通知しない
 4=1 : 通知する (初期値)
 入力例 : AT\$NP3=1

\$O

機能 : MUX 機能の動作に関する設定や表示をします。
 書式 : AT \$O <パラメータ 1> <=パラメータ 2>
 パラメータ : <パラメータ 1> <=パラメータ 2>
 0 : 設定内容の表示

- 2 : リソース BOD モード設定
2=0 : 行わない (初期値)
2=1 : 行う
- 3 : スループット BOD モード設定
3=0 : 行わない (初期値)
3=1 : 行う
3=2 : フレックス BOD で使用する
- 4 : リンク追加算出時間設定
4=0、10 ~ 60 (秒) 30 秒 (初期値)
- 5 : リンク削除算出時間設定
5=0、10 ~ 60 (秒) 10 秒 (初期値)
- 6 : リンク追加しきい値設定
6=0、60 ~ 90 (%) 70 % (初期値)
- 7 : リンク削除しきい値設定
7=0、10 ~ 40 (%) 20 % (初期値)
- 8 : 2 本目接続時の認証モード設定
8=0 : 認証しない
8=1 : 認証する (初期値)
- 9 : PPP ACCM 付加モード設定
9=0 : ACCM を付加しない
9=1 : ACCM を付加する (初期値)
- 10 : MUX 接続での 2 本目以降の接続認証モード
10=0 : 認証を行わない
10=1 : 認証を行う (初期値)
- 21 : 無通信監視タイマ設定
21=0 : 監視しない
21=1 ~ 10 (分) 10 分 (初期値)
- 22 : 強制切断タイマ設定
22=0 : 強制切断タイマを使用しない
22=1 ~ 10 (時間) 10 時間 (初期値)

入力例 : AT \$00
 補足 : あるデータポートが MUX 通信中のときは「OK」を返し、設定変更をおこないません。ただし、パラメータ 0 (設定値読み出し) は実行可能です。

\$P

機能 : 全無線ポートでの共通 (一斉着信時の設定含む) の設定と表示をします。
 書式 : AT\$P <パラメータ 1> <=パラメータ 2>
 パラメータ : <パラメータ 1> <=パラメータ 2>
 0 : 設定内容の表示
 1 : 音声呼の一斉着信 (グローバル着信) 時の無線ポート呼び出し
 1=0 : 全無線ポートを一斉呼び出す (初期値)
 1=1 : 無線 A ポートだけ呼び出す
 1=2 : 無線 B ポートだけ呼び出す
 1=3 : 無線 C ポートだけ呼び出す
 1=4 : 無線 D ポートだけ呼び出す
 1=5 : 無線 E ポートだけ呼び出す
 1=6 : 無線 F ポートだけ呼び出す
 1=7 : 無線ポートは呼び出さない
 2 : データ呼の一斉着信 (グローバル着信) 時の無線ポート呼び出し
 2=1 : 無線 A ポートだけ呼び出す
 2=2 : 無線 B ポートだけ呼び出す
 2=3 : 無線 C ポートだけ呼び出す
 2=4 : 無線 D ポートだけ呼び出す
 2=5 : 無線 E ポートだけ呼び出す
 2=6 : 無線 F ポートだけ呼び出す
 2=7 : 無線ポートは呼び出さない (初期値)

入力例 : AT\$P1=1

\$PA・\$PB・\$PC・\$PD・\$PE・\$PF

- 機能： 無線 A ~ 無線 F ポートの設定と表示をします。
書式： AT\$P(A ~ F) <パラメータ 1 > <=パラメータ 2 >
パラメータ： <パラメータ 1 > <=パラメータ 2 >
- 0 : 設定内容の表示
 - 1 : ポート利用方法
 - 1=0 : PHS (初期値)
 - 1=1 : リモートステーション (デュアルリンクワイヤレス有効)
 - 1=2 : 使用しない (データ通信可)
 - 2 : キャッチホン選択
 - 2=0 : 使用しない (初期値)
 - 2=1 : INS キャッチホンを使用する
 - 2=2 : 疑似キャッチホンを使用する
 - 3 : 無線ポート用識別着信設定
 - 3=0 : 識別着信しない (初期値)
 - 3=1 : INS なりわけ識別着信
 - 3=2 : 疑似識別着信
 - 3=3 : INS なりわけ選択キャッチホン
 - 3=4 : 疑似選択キャッチホン
 - 7 : ダイヤル桁間タイマ
 - 7=0 : 5 秒 (初期値)
 - 7=1 : 9 秒
 - 7=2 : 11 秒
 - 7=3 : 13 秒
 - 9 : 発信者番号通知モード設定
 - 9=0 : 発信者番号通知を禁止する
 - 9=1 : 発信者番号通知を許可する
 - 9=2 : 発信者番号通知モードを指定しない (初期値)
 - 10 : PIAFS データ発信時のプロトコル変換
 - 10=0 : ダイレクト通信をする (初期値)
 - 10=1 ~ 6 : 非同期
 - 10=7 : INS ネット 64 の回線速度を同期 64K に変換する
 - 11 : データ着信時の無線区間の通信モード指定
 - 11=0 : PIAFS32K (初期値)
 - 11=1 : PIAFS64K (PIAFS2.0)
 - 11=2 : デュアルリンクワイヤレス
 - 11=3 : PIAFS64K (PIAFS2.1)
 - 12 : UUI 通知モード
 - 12=0 : 通知しない (初期値)
 - 12=1 : 通知する
 - 13 : スティルスコールバックモード
 - 13=0 : コールバックしない (初期値)
 - 13=1 : コールバックする
 - 14 : CTI 機能
 - 14=0 : CTI しない (初期値)
 - 14=1 : CTI する
 - 15 : IT-MUX 機能
 - 15=0 : 利用しない
 - 15=1 : 利用する (初期値)
 - 15=3 : 常時 64K 接続
 - 15=4 : 常時 128K 接続

入力例： AT\$PA1=1

補足： 15=1 の場合に RS20 からの PA、PB 指定が有効となります。
15=3 または 15=4 の場合は、RS20 での PA、PB の指定とは無関係に ITMUX 機能は有効となります。
15=4 の場合、無線ポート単独の通信では 128kbps になりません。データポート側からの乗り入れがあったときだけ、128kbps で接続できます。

\$ S

機能： ATコマンドで設定したパラメータや自動ポーレート検出したパソコンの速度を保存します。
書式： AT\$\$
パラメータ： なし
入力例： AT\$\$
補足： リザルトコード「OK」が返るまでに30秒程度かかります。

\$ X

機能： 着信転送や選択着信転送の種類を設定します。
書式： AT\$X <パラメータ1> <=パラメータ2>
パラメータ： <パラメータ1> <=パラメータ2>
0 : 着信転送の種類の設定
0=1 : NTT 着信転送
0=2 : 疑似着信転送 (初期値)
0=3 : 電話番号着信転送 (遊遊メール)
1 : 選択着信転送の種類の設定
1=0 : 無条件転送 (初期値)
1=1 : INS なりわけ時転送
1=2 : 識別着信時転送
入力例： AT\$X0=1
補足： 本コマンドとあわせて、「\$Y」「\$YM」「\$Z」コマンドを設定してください。

\$ Y

機能： アナログポートの着信転送先のアドレスを登録します。
書式： AT\$Y <パラメータ1> <=パラメータ2>
パラメータ： <パラメータ1> 0 : 着信転送先 (0) アドレス
1 : 着信転送先 (1) アドレス
2 : 着信転送先 (2) アドレス
<パラメータ2> 転送先アドレス (電話番号)
入力例： AT\$Y0=0123456789
補足： 本コマンドとあわせて、「\$Z」コマンドで転送元を設定してください。
相手電話番号は数字で最大32桁まで使用できます。
着信転送先の設定はアドレスだけです。サブアドレスは設定できません。

\$ YM

機能： 着信転送を電話番号着信転送 (遊遊メール) でおこなう際の転送先のメールアドレスを登録します。
書式： AT\$YM <パラメータ1> <=パラメータ2>
パラメータ： <パラメータ1> 0 : 着信転送先 (0) メールアドレス
1 : 着信転送先 (1) メールアドレス
2 : 着信転送先 (2) メールアドレス
<パラメータ2> 転送先アドレス (半角英数字、記号)
入力例： AT\$YM0=abc@def.ghi.co.jp
補足： 転送先メールアドレスは最大40文字まで設定できます。

\$ Z

機能： アナログポートの着信転送元のアドレスを登録します。
書式： AT\$Z <パラメータ1> <=パラメータ2> </パラメータ3>
パラメータ： <パラメータ1> 0 : 着信転送元 (0) アドレス
1 : 着信転送元 (1) アドレス
2 : 着信転送元 (2) アドレス
5 : トークあり / なしの設定
<パラメータ2> 転送元アドレス (電話番号)
次はパラメータ1が5のときに使用
0 : 転送トークなし、転送元トークなし
1 : 転送トークあり、転送元トークなし
2 : 転送トークなし、転送元トークあり

3 : 転送トーキあり、転送元トーキあり (初期値)
<パラメータ 3 > 転送元サブアドレス
入力例: AT\$Z0=9876543210
AT\$Z5=0
補足: 本コマンドとあわせて、「*Z」コマンドで着信番号を設定してください。また、「\$Y」、「\$YM」コマンドで転送先を設定してください。
転送元アドレスは数字で最大 32 桁まで使用できます。
転送元サブアドレスは数字で最大 19 桁まで使用できます。
また、「/」以降が省略された場合は転送元サブアドレス指定なしとみなします。
「/」は「/S」コマンドで変更できます。
転送トーキの設定は、「NTT 着信転送」に設定したときに利用できます。また、電話番号ごとに設定することはできません。

%C

機能: PIAFS によるデータ通信時、V.42bis データ圧縮をするかどうかを設定します。
書式: AT%C <パラメータ 1 >
パラメータ: <パラメータ 1 > 0 : 圧縮なし
2 : V.42bis データ圧縮あり (初期値)
?: 本データ圧縮の設定内容を表示する
入力例: AT%C0

S

機能: S レジスタポインタを指定します。
書式: ATS <パラメータ 1 >
パラメータ: <パラメータ 1 > 0 ~ 26 : (S レジスタ)
入力例: ATS0
補足: 初期値は「0」です。

?

機能: 現在の S レジスタポインタの示すレジスタ内容を表示します。
書式: AT?
パラメータ: なし
入力例: AT?
補足: 「S」コマンドと続けることができます。
<例> ATS0 + AT? ATS0?

=

機能: 現在の S レジスタポインタの示すレジスタ内容を変更します。
書式: AT= <パラメータ 1 >
パラメータ: <パラメータ 1 > 設定値 : 0 ~ 26 (S レジスタ)
入力例: AT=
補足: 「S」コマンドと続けることができます。
<例> ATS0 + AT=2 ATS0=2

+++

機能: データ通信中につながっている回線を切らずにコマンドモードへもどし、コマンドを入力することができます。
書式: +++
パラメータ: なし
入力例: +++

!H

機能: マイプライベート着信用アドレスの登録情報を表示します。
書式: AT!H
パラメータ: なし
入力例: AT!H
補足: 登録されていない場合は「BUFFER EMPTY」と表示します。

!SH

機能： 疑似識別着信(セキュリティ+選択キャッチホン)用アドレスの登録情報を表示し
ます。
書式： AT!SH
パラメータ： なし
入力例： AT!SH

!SZ

機能： 疑似識別着信(セキュリティ+選択キャッチホン)用アドレスを登録します。
書式： AT!SZ <パラメータ 1> = <パラメータ 2> < /パラメータ 3 >
パラメータ： <パラメータ 1> 0 ~ 29 (最大 30 件登録可)
<パラメータ 2> 相手電話番号
<パラメータ 3> 相手サブアドレス (最大 19 桁)
入力例： AT!SZ0=1234567890/123
補足： サブアドレスだけが登録されている場合は「ERROR」と表示します。
相手電話番号は数字で最大 32 桁まで登録できます。

!UC

機能： 迷惑電話防止用アドレスに登録されている電話番号を削除します。
書式： AT!UC= <パラメータ 1 >
パラメータ： <パラメータ 1 > 相手電話番号、P、C、O
(P：ヒツウチ、C：コウシュウデンワ、O：ヒョウジケンガイ)
入力例： AT!UC=1234567890
補足： 入力されたアドレスが全桁一致した場合のみ登録は削除されます。
一致しない場合は「ERROR」と表示します。

!UH

機能： 迷惑電話防止用アドレスの情報を表示します。
書式： AT!UH
パラメータ： なし
入力例： AT!UH
補足： 登録されていない場合は「BUFFER EMPTY」と表示します。

!US

機能： 迷惑電話防止用アドレスを登録します。
書式： AT!US <パラメータ 1 >
パラメータ： <パラメータ 1 > 相手電話番号、P、C、O
(P：ヒツウチ、C：コウシュウデンワ、O：ヒョウジケンガイ)
入力例： AT!US=1234567890
補足： すでに登録されているアドレスを再度入力した場合は「Already exist」と
表示され、データは更新されません。
最大 20 件まで登録できます。
相手電話番号は数字で最大 15 桁まで登録できます。

!VH

機能： ボイスワープ設定電話番号の登録情報を表示します。
書式： AT!VH
パラメータ： なし
入力例： AT!VH
補足： 登録されていない場合は「BUFFER EMPTY」と表示します。

!VZ

機能： ボイスワープ起動電話番号を登録します。
書式： AT!VZ <パラメータ 1 > = <パラメータ 2 >
パラメータ： <パラメータ 1 > : ボイスワープ番号。0 ~ 4, 9
<パラメータ 2 > 起動電話番号または契約電話番号 (32 桁まで)
入力例： AT!VZ0 = 1420
補足： 起動電話番号は初期値のデータがあります。

! WH

機能： 疑似識別リング用アドレスの登録情報を表示します。
書式： AT!WH
パラメータ： なし
入力例： AT!WH
補足： 登録されていない場合は「BUFFER EMPTY」と表示します。

! WZ

機能： 疑似識別リング用アドレスを登録します。
書式： AT!WZ <パラメータ 1> = <パラメータ 2> </パラメータ 3>
パラメータ： <パラメータ 1> 0 ~ 29 (最大 30 件まで登録可)
<パラメータ 2> 相手電話番号
<パラメータ 3> 相手サブアドレス (最大 19 桁まで)
入力例： AT!WZ 0=1234567890/123
補足： サブアドレスだけが登録されている場合は「ERROR」と表示します。
相手電話番号は数字で最大 32 桁まで登録できます。

! X

機能： マイプライベート着信の設定をします。
書式： AT!X0 = <パラメータ 1>
パラメータ： <パラメータ 1> 0 : 使用しない (初期値)
1 : 使用する
入力例： AT!X0=1

! Z

機能： マイプライベート着信する相手電話番号と着信するポートの設定をします。
書式： AT!Z <パラメータ 1> = <パラメータ 2> </パラメータ 3> < ;パラメータ 4 >
パラメータ： <パラメータ 1> 0 ~ 29 (最大 30 件まで登録可)
<パラメータ 2> 相手電話番号、P、C、O
(P : ヒツチ、C : コウシュウデンワ、O : ヒョウジケンガイ)
<パラメータ 3> 相手サブアドレス (最大 19 桁まで)
<パラメータ 4 > A、B、PA、PB、PC、PD、PE、PF : 着信ポート番号
入力例： AT!Z0=1234567890/123;A,B
補足： サブアドレスと着信ポートだけが登録されている場合は「ERROR」と表示します。
相手電話番号は数字で最大 32 桁まで登録できます。

S レジスタ

レジスタ番号	内容	範囲	単位	内容	初期値
0	自動応答	0	回	自動応答しない	1
		1 ~ 255		設定値の数だけ「RING」を送出後、自動応答する	
1	RING送出回数表示	0 ~ 255	回	「RING」を送出した回数を表示する	0
2	エスケープ文字	0	ASCII	エスケープ文字なし	43 (+)
		1 ~ 127		設定した文字をエスケープキャラクタとする	
3	復帰文字	0 ~ 127	ASCII	設定した文字を復帰文字とする	12 (CR)
4	改行文字	0 ~ 127	ASCII	設定した文字を改行文字とする	10 (LF)
5	後退文字	0 ~ 32 , 127	ASCII	設定した文字を後退文字とする	8 (BS)
7	接続時間監視	1 ~ 50	秒	発信後、所定時間以内に応答がない場合は切断する	30
26	CS遅延時間 *1	0 ~ 100	*2	RS信号がOFFからONになったとき、設定だけCS信号を遅延させてONにする	0
その他	サポートしません				

*1 CS遅延時間はフロー制御なしに設定したときのみ有効です。

*2 CD遅延時間はS26に設定した値とCS遅延時間の関係を示します。

「AUTO」は設定した速度の24ビット分、他の設定値「10ミリ秒」~「100ミリ秒」は設定した速度の24ビット分にその設定値を加えた時間になります。

S26値	CS遅延時間
0	AUTO (0ミリ秒)
10	10ミリ秒
20	20ミリ秒
30	30ミリ秒
40	40ミリ秒
50	50ミリ秒
80	80ミリ秒
100	100ミリ秒

リザルトコード一覧

数字	英語	内容
0	OK	コマンド正常終了
1	CONNECT	相手端末との接続完了
2	RING	着信通知
3	NO CARRIER	回線切断
4	ERROR	不正コマンド
5	CONNECT1200	1200bpsで接続完了
7	BUSY	相手通信中
10	CONNECT2400	2400bpsで接続完了
11	CONNECT4800	4800bpsで接続完了
12	CONNECT9600	9600bpsで接続完了
13	CONNECT14400	14400bpsで接続完了
14	CONNECT19200	19200bpsで接続完了
18	CONNECT57600	57600bpsで接続完了
19	CONNECT64000	64000bpsで接続完了
21	CONNECT32000	32000bpsで接続完了
26	CONNECT28800	28800bpsで接続完了
28	CONNECT38400	38400bpsで接続完了
67	COMPRESSION : V.42bis	V.42bis圧縮モードで接続完了
69	COMPRESSION : NONE	V.42bis圧縮モードなしで接続完了
82	PROTOCOL:PIAFS	プロトコルPIAFSで接続完了

コードの詳細

BUSY

機能： 相手話し中のため接続に失敗したときに送じます。
 書式： BUSY
 出力例： BUSY

OK

機能： コマンド正常終了
次の条件の時に送出します。
(1) コマンドが正常であったとき（「A」「D」「O」コマンド実行時なし）
(2) エスケープコマンド入力後オンラインコマンドモードに入るとき
(3) オンラインコマンドモード時に「ATH」コマンドが入力され、通信が切断されたとき

書式： OK
出力例： OK

CONNECT

機能： 相手と通信状態になったときに送出します。

書式： CONNECT <パラメータ 1 >

パラメータ： <パラメータ 1 > なし : 相手と通信状態になりました。
(ベーシックリザルトコードセットのみ)

1200	: 回線速度が 1200bps で接続完了しました。
2400	: 回線速度が 2400bps で接続完了しました。
4800	: 回線速度が 4800bps で接続完了しました。
9600	: 回線速度が 9600bps で接続完了しました。
14400	: 回線速度が 14400bps で接続完了しました。
19200	: 回線速度が 19200bps で接続完了しました。
28800	: 回線速度が 28800bps で接続完了しました。
32000	: 回線速度が 32000bps で接続完了しました。
38400	: 回線速度が 38400bps で接続完了しました。
57600	: 回線速度が 57600bps で接続完了しました。
64000	: 回線速度が 64000bps で接続完了しました。

出力例： CONNECT 38400

RING

機能： 着信があった場合、応答するまで 2 秒間隔で通知します。

書式： RING <パラメータ 1 > </パラメータ 2 > < [パラメータ 3 >

パラメータ： <パラメータ 1 > 発信側のアドレス
<パラメータ 2 > 発信側のサブアドレス
<パラメータ 3 > ユーザ・ユーザデータ

出力例： RING

補足： 発信側のアドレス以降を付加させるには「W」コマンドで指定します。

NO CARRIER

機能： 通信相手との接続に失敗したときや、通信中に何かの原因で切断した場合に送出します。

書式： NO CARRIER

パラメータ： なし

出力例： NO CARRIER

ERROR

機能： 次の条件のときに送出します。

- (1) 不正なコマンドが入力されたとき
- (2) コマンド入力最大文字数を越えたとき
- (3) 「D」コマンドで短縮番号を指定して発信しようとしたときに、短縮番号にアドレスが登録されていなかったとき
- (4) パソコンの ER 信号が OFF の状態で発信したとき
- (5) アナログポートを使用しているときに「\$A」「\$B」「\$D」コマンドで設定しようとしたとき

書式： ERROR

出力例： ERROR

COMPRESSION : NONE

機能： PIAFS 通信の圧縮なしで接続したときに送出します。
書式： COMPRESSION : NONE
出力例： CONNECT 32000 PROTOCOL : PIAFS COMPRESSION : NONE
補足： PIAFS 通信の V.42bis 圧縮なしで接続したときのみ表示します。

PROTOCOL : PIAFS

機能： PIAFS 通信で接続したときに送出します。
書式： PROTOCOL : PIAFS
出力例： CONNECT 32000 PROTOCOL : PIAFS COMPRESSION : NONE
補足： PIAFS 通信で接続したときのみ表示します。

COMPRESSION : V.42bis

機能： PIAFS 通信の V.42bis データ圧縮で接続したときに送出します。
書式： COMPRESSION : V.42bis
出力例： CONNECT 32000 PROTOCOL : PIAFS COMPRESSION : V.42bis
補足： PIAFS 通信の V.42bis 圧縮ありで接続したときのみ表示します。

4-3 . RS20 用 AT コマンド

: コマンド実行時に設定が保存され、電源を切っても設定が保持されます。

: 「\$S」コマンドを実行すると設定が保存され、電源を切っても設定が保持されます。

注: 初期値は各コマンドの説明を参照してください。

コマンド	機能概要	初期値
A	着信応答	-
D	ダイヤル発信	-
E	エコー指定	1
H	切断	-
I	装置コード表示	-
O	コマンドモードからデータ通信モードへもどす	-
Q	リザルトコード有無設定	0
V	リザルトコードフォーマット設定	1
W	リザルトコードRING表示設定	0
X	リザルトコードセット設定	3
Z	パラメータ初期化	-
/S	データポートのサブアドレスセパレータ設定	/
&C	CD信号制御設定	1
&D	ER信号制御設定	0
&K	フロー制御方式設定	3
&S	DR信号制御設定	0

コマンド	機能概要	初期値
#R	着信拒否	-
¥D	UIメール表示の設定と表示	注
¥L	発着情報表示	-
¥M	電子メール通知表示の設定と表示	注
¥Q	フロー制御方式の設定	3
¥S	各種設定表示	-
\$A	アナログポートの設定と表示	注
\$D	アナログポート共通設定と表示	注
\$N	データポートの制御に関する設定と表示	注
\$NP	データポートの設定と表示	-
\$S	パラメータの保存	-
%C	圧縮プロトコル指定	2
S	Sレジスタポイントの設定	0
?	レジスタポイントの示すレジスタ内容表示	-
=	Sレジスタポイントの示すレジスタ内容変更	-
+++	エスケープコマンド	-

リザルトコードセットの一覧

数字	英語	ベーシック	拡張1	拡張2	拡張3	拡張4
0	OK					
1	CONNECT		-	-	-	-
2	RING					
3	NO CARRIER					
4	ERROR					
7	BUSY	-	-	-		
19	CONNECT64000	-				
21	CONNECT32000	-				
67	COMPRESSION : V.42bis	-				
69	COMPRESSION : NONE	-				
82	PROTOCOL : PIAFS	-				

Z

機能： パラメータを初期値にもどします。
 書式： ATZ <パラメータ 1 >
 パラメータ： <パラメータ 1 >

0 : \$S コマンドで設定した内容にもどす
 1 : 受話音量以外のパラメータを初期化する
 98 : ハードウェアリセットをし、すべてのパラメータを初期化します。
 99 : ソフトウェアリセットをし、\$S コマンドで設定した内容にもどします。

入力例： ATZ98

/S

機能： データポートのサブアドレスセパレータを表示、設定します。
 書式： AT/S <パラメータ 1 > <=パラメータ 2 >
 パラメータ： <パラメータ 1 > <=パラメータ 2 >

0 : セパレータの表示
 1 : セパレータの設定

1=/ (初期値)
 1=#
 1=*
 入力例： AT/S1=#
 補足： D コマンドで使用するサブアドレスセパレータも変更してください。
 アナログポートで使用するセパレータ(*)は固定です。
 液晶ディスプレイには設定したサブアドレスセパレータが表示されます。

&C

機能： CD 信号制御を設定します。
 書式： AT&C <パラメータ 1 >
 パラメータ： <パラメータ 1 >

0 : ER-ON 時には常に CD-ON
 1 : 通信中は常に CD-ON (初期値)

入力例： AT&C0

\$D

機能： アナログポートの共通設定、設定内容を表示します。
書式： AT\$D <パラメータ 1> <=パラメータ 2>
パラメータ： <パラメータ 1> <=パラメータ 2>
9 : アナログポート [#] 発信設定
9=0 : 使用しない
9=1 : 使用する (初期値)
9=2 : ## 発信する

\$N

機能： データポートの設定と表示をします。
書式： AT\$N <パラメータ 1> <=パラメータ 2>
パラメータ： <パラメータ 1> <=パラメータ 2>
0 : 設定内容の表示
9 : 無通信監視タイマ
9=0 : 監視しない
9=1 : 1分
:
:
9=10 : 10分 (初期値)
14 : 強制切断タイマ
14=0 : 強制切断しない
14=1 : 1時間で切断する
:
:
14=10 : 10時間で切断する (初期値)
入力例： AT\$N9=2

\$NP

機能： データポートで内線 PIAFS 通信するときの設定と設定内容を表示します。
書式： AT\$NP <パラメータ 1> <=パラメータ 2>
パラメータ： <パラメータ 1> <=パラメータ 2>
0 : 設定内容の表示
1 : 発信モード
1=0 : PIAFS (32K) で発信する (初期値)
1=1 : デュアルリンクワイヤレスで発信する
入力例： AT\$NP1=1

\$S

機能： ATコマンドで設定したパラメータや自動ポーレート検出したパソコンの速度を保存します。
書式： AT\$S
パラメータ： なし
入力例： AT\$S

%C

機能： PIAFS データ通信のとき、データ圧縮をおこなうか否かを設定します。
書式： AT%C <パラメータ 1>
パラメータ： <パラメータ 1> 0 : 圧縮なし
2 : V.42bis データ圧縮あり (初期値)
?: 本データ圧縮の設定内容の表示
入力例： AT%C2
補足： 32kbps データ通信のときに有効となります。

S

機能： Sレジスタを指定します。
書式： AT<パラメータ1>
パラメータ： <パラメータ1> 0～7(初期値：0) Sレジスタ番号
詳細については「Sレジスタ」(P.187)を参照してください。
入力例： AT<S0>=10

?

機能： 現在のSレジスタポインタの示すレジスタ内容を表示します。
書式： AT?
パラメータ： なし
入力例： AT?
補足： Sコマンドと続けることができます。
例) AT<S0>+AT? AT<S0>?

=

機能： 現在のSレジスタポインタの示すレジスタ内容を変更します。
書式： AT=<パラメータ1>
パラメータ： <パラメータ1> 0～7：Sレジスタ番号(初期値：0)
詳細については、「Sレジスタ」(P.187)を参照してください。
入力例： AT=<S0>=2
補足： Sコマンドと続けることができます。
例) AT<S0>+AT=2 AT<S0>=2

+++

機能： データ通信中につながっている回線を切らずにコマンドモードへもどし、コマンドを入力することができます。
書式： +++
パラメータ： なし
入力例： +++
補足： データ通信を停止し、1秒間待ってから「+++」を入力してください。
また、++との間は1秒以内に入力してください。
エスケープ文字はS2レジスタで変更できます。
通信状態へもどすには0コマンドを入力します。「CONNECT」が表示され通信状態へもどります。

S レジスタ

レジスタ番号	内容	範囲	単位	内容	初期値
0	自動応答	0	回	自動応答しない	1
		1 ~ 255		設定値の数だけ「RING」を送出後、自動応答する	
1	RING送出回数表示	0 ~ 255	回	「RING」を送出した回数を表示する	0
2	エスケープ文字	0	ASCII	エスケープ文字なし	43 (+)
		1 ~ 127		設定した文字をエスケープキャラクタとする	
3	復帰文字	0 ~ 127	ASCII	設定した文字を復帰文字とする	13 (CR)
4	改行文字	0 ~ 127	ASCII	設定した文字を改行文字とする	10 (LF)
5	後退文字	0 ~ 32 , 127	ASCII	設定した文字を後退文字とする	8 (BS)
7	接続時間監視	1 ~ 50	秒	発信後、所定時間以内に応答がない場合は切断する	30
その他	サポートしません				

リザルトコード

数字	英語	内容
0	OK	コマンド正常終了
1	CONNECT	相手端末との接続完了
2	RING	着信通知
3	NO CARRIER	回線切断
4	ERROR	不正コマンド
5	CONNECT1200	1200bpsで接続完了
7	BUSY	相手通信中
10	CONNECT2400	2400bpsで接続完了
11	CONNECT4800	4800bpsで接続完了
12	CONNECT9600	9600bpsで接続完了
13	CONNECT14400	14400bpsで接続完了
14	CONNECT19200	19200bpsで接続完了
18	CONNECT57600	57600bpsで接続完了
19	CONNECT64000	64000bpsで接続完了
21	CONNECT32000	32000bpsで接続完了
26	CONNECT28800	28800bpsで接続完了
28	CONNECT38400	38400bpsで接続完了
67	COMPRESSION : V.42bis	V.42bis圧縮モードで接続完了
69	COMPRESSION : NONE	V.42bis圧縮モードなしで接続完了
82	PROTOCOL:PIAFS	プロトコルPIAFSで接続完了

BUSY

機能： 相手話し中のために接続が失敗したときに送出します。
 書式： BUSY
 出力例： BUSY

OK

機能： コマンド正常終了
 次の条件の時に送出します。
 (1) コマンドが正常であったとき (A, D, O コマンド実行時はなし)
 (2) エスケープコマンド入力あとに、オンラインコマンドモードに入るとき
 (3) オンラインコマンドモード時に ATH コマンドが入力され、通信が切断されたとき
 書式： OK
 出力例： OK

CONNECT

機能： 相手と通信状態になったときに送出します。
書式： CONNECT <パラメータ 1 >
パラメータ： <パラメータ 1 > なし : 相手と通信状態になりました。
(ベーシックリザルトコードセットのみ)
32000 : 回線速度が 32000bps で接続完了しました。
64000 : 回線速度が 64000bps で接続完了しました。
出力例： CONNECT 32000

RING

機能： 着信があった場合に応答するまで 2 秒間隔で通知します。
書式： RING <パラメータ 1 > </パラメータ 2 > < [パラメータ 3 >
パラメータ： <パラメータ 1 > 発信側のアドレス
<パラメータ 2 > 発信側のサブアドレス
<パラメータ 3 > ユーザ・ユーザデータ
出力例： RING
補足： 発信側のアドレス以降を付加させるには W コマンドで指定します。

NO CARRIER

機能： 通信相手との接続に失敗したときや、通信中に何らかの原因で切断した場合に送出します。
書式： NO CARRIER
パラメータ： なし
出力例： NO CARRIER

ERROR

機能： 次の条件のときに送出します。
(1) 不正なコマンドが入力されたとき
(2) コマンド入力 that 最大文字数を越えたとき
(3) D コマンドで短縮番号を指定して発信しようとしたときに、短縮番号にアドレスが登録されていないとき
(4) パソコンの ER 信号がオフの状態で発信したとき
(5) アナログポートを使用中に \$ A コマンドで設定しようとしたとき
書式： ERROR
出力例： ERROR

COMPRESSION : NONE

機能： PIAFS 通信の圧縮なしで接続したときに送出します。
書式： COMPRESSION : NONE
出力例： CONNECT 32000 PROTOCOL : PIAFS COMPRESSION : NONE
補足： PIAFS 通信の V.4.2bis 圧縮なしで接続したときのみ表示します。

PROTOCOL : PIAFS

機能： PIAFS 通信で接続したときに送出します。
書式： PROTOCOL : PIAFS
出力例： CONNECT 32000 PROTOCOL : PIAFS COMPRESSION : NONE
補足： PIAFS 通信で接続したときのみ表示します。

COMPRESSION : V.4.2bis

機能： PIAFS 通信の V.4.2bis データ圧縮で接続したときに送出します。
書式： COMPRESSION : V.4.2bis
出力例： CONNECT 32000 PROTOCOL : PIAFS COMPRESSION : V.4.2bis
補足： PIAFS 通信の V.4.2bis 圧縮ありで接続したときのみ表示します。

